

特500
59



0035025-000

特500-59

無産者新聞論説集

無産者新聞社・編

上野書店

昭和3. 7

AGC

500

59

無產者新聞社編

無產者新聞社叢書

內務省
3.6.29
正本

安寧
4.7.2
禁止

社會
號 715
永久保存

安寧
號 151
永久保存

~~特500-84~~

特500-59



無産新聞
論叢集

無産新聞社編

上野書店版



例言

- 一、本書はわが無産者新聞が一九二五年九月二〇日に創刊せられて以後、一九二七年一月二二日第一二二號に至るまでの全社説を集録したものである。
- 一、従つて本書は、農民労働黨結成の直前より、無産政黨の對立抗争の時代を経て、戦線統一の問題が眞實に階級的に、且つ現實に解決され始めた一九二七年末に至るまでの、わが國無産階級運動の全戦野に亘る貴重なまた最も忠實なる報告者である。
- 一、而して本書はまた、わがプロレタリアートが、現在尙社會民主主義的諸プロツクの逆宣傳デマゴグあるにも拘らず、従來犯し來つた必然的な誤謬を如何に實踐の過程を通じて克服し、生長發展し來つたかを最も結晶的に表現するものである。
- 一、讀者は、同時に、わが無産者新聞が日本における唯一の無産階級的全國的政治新聞として、絶えずラディカールな階級的曝露と戦術の指示とを以つてして如何に勇敢に支配階級と抗争し來つたかを、そして現在未曾有の暴壓下に置かれつゝも全無産大衆の熱烈なる支持の上に巖然と立つて、如何に反動の魔手と戦ひつゝあるかをも、充分了知せらるるであらう。
- 一、本書卷末の記録は本書の理解を便ならしむる最小限度の闘争日誌である。もとより匆忙の間の編輯で本社自ら不備缺陷も痛感するにも拘らず讀者諸君の督促急なるにもだし難く、修正増補を他日改版の際に期して今茲に上梓するものである。

一、本書は言論出版の自由なき日本の出版物である。殊に本書を發刊する今日は、記憶すべき三月十五日の事件以後ひき續く反動の高潮期であり、わが無産者新聞は發禁に次ぐ發禁、而かも、或は印刷前に假差押の命令書を通達され、或は印刷後直ちに假留置の名を以て押收され、或は警察の干渉によつて凡ての印刷所から印刷を拒絶さるる等の暴壓下に在る。従つて本書に収録した社説が、嘗つては一字の伏字もなく發表せられ得たものまでも、今日は多くの伏字を用ゐざるを得ないのである。讀者諸君の寛恕を請ふ次第である。

二、最後に本社は、本書の出版を快諾せられ種々の便宜をはかられた上野書店の階級的義舉に對して、心からの感謝を捧げるものである。

一九二七年六月

無産者新聞社

目次

例言.....一

無産者新聞發刊の辭(創刊號所載).....一

一九二五年

九月 第二次會議に於て結黨せよ!!!.....三

十月 分裂は無産階級の大損害.....七

十一月 勞農大衆は單一政黨に團結せよ.....九

十一月 無産政黨創立を前に團體の積極的活動を要望す.....一〇

十一月 全無産者團體を結合し堅く大衆黨の基礎を築け.....一三

單一政黨に返れ!!.....一五

再び全國的政黨の組織へ!!.....一八

議會季節近づく.....二〇

一九二六年

一月

闘争の年を迎ふ.....三

無産政黨の再建設.....三

政黨準備懇談會の成立と其の使命.....六

新選挙法に依る總選挙の斷行を要求す.....三

加藤首相の死とブルジョア政局の動搖.....三

二月

なほ暗雲あり正義派の奮起を望む.....三

如何にして悪法反對運動を續行するか.....三

九州の無産大衆諸君に訴ふ.....元

大衆言論機關の立場を闡明す.....四

三月

第二次無産政黨創立委員會の任務.....四

労働農民黨の成立.....四

労働農民黨へ要望す.....四

共同戦線完成のために労働組合會議へ.....五

労働黨分裂政策は大衆の意志を蹂躪するもの.....五

四月

階級戦線を壊滅する右翼幹部の分裂政策.....五

敵の分裂政策と組合總聯合の必要.....五

労働黨の門戸解放.....六

労働黨に對する謂ゆる左翼の態度.....六

五月

メーデーと總聯合.....六

英國總罷業と我等の義務.....六

八日間の階級戦.....七

我が國組合運動の進み行く道.....七

現在の政局と労働黨の地位.....七

六月

労働條件に關する日英資本の衝突.....七

労働黨支部の合同組織を主張す.....七

總聯合の役割.....八

封建勢力との闘争.....八

七月

言論の自由の爲に.....八

議會に用意せよ……………八七
 耕作權確立の全國的運動を起せ……………八九
 労働農民黨當面の任務……………九二
 如何にして裏切者と戦ふか……………九四

八月

共同戦線を破る小ブルジョア黨……………九六
 抗議運動の勃發と立會演説の必要……………九八
 腐つた部分を切捨て自治會甦生せん……………一〇一
 右翼指導者を放逐し階級利益を守り労働大衆の奮起を促せ……………一〇三

九月

實刀が錆びついて現實主義破産す……………一〇五
 議會解散を恐れるブル思想を排す……………一〇八
 組織化し集中化し資本家聯盟成る……………一一〇
 無産者の頭と心臓の指導機關を持つて……………一一三

十月

政府の解散準備に對して何に答へるか……………一二四
 得々と右傾を高唱した總同盟十五年度大會……………一二七
 組合利己主義を擊破し正論を死守せよ……………一二九

第四回中央委員會の前に横はる任務……………一三三
 右翼中央委員の脱退に微動だもせぬ労働農民黨……………一三三

十一月

總同盟の労働農民黨脱退は一部幹部の横暴……………一二六
 ブルの一附屬機關たる小ブル黨の組織……………一二九
 小ブル黨は何故排撃すべきか……………一三二
 單一政黨の旗の下に團結せよ……………一三四

十二月

請願運動禁壓をブル政黨との闘争へ……………一三六
 日本労働農民黨の解體を要求せよ……………一三九
 日労働大衆に提携の手をのばせ……………一四一
 厚顔無恥なる分裂政策を排せよ……………一四四

一九二七年

一月

階級的政治闘争へ……………一四七
 請願運動を全線的に展開せよ……………一五〇
 全線的展開は如何にして行ふか……………一五三
 中間派總聯合を徹底的に粉碎せよ……………一五五

請願運動の展開と政治的曝露の必要 一六

二月

現段階に於ける統一運動の使命 一六

日本農民組合第六回大會の任務 一六

統一運動同盟を積極的に支持せよ 一六

即時撤兵を要求せよ 一六

三月

悪法案を制定せんとする議會の解散を要求せよ 一七

議會閉會後における請願運動の新展開 一七

四月

對支絶對非干渉の全民衆的運動を起せ 一七

支那革命と日本無産階級 一七

太平洋労働會議代表公選の意義 一八

新反動内閣と如何に闘争すべきか 一八

五月

非常特別救済法の制定を要求す 一九

労働、日勞兩黨の共同戦線について 一九

開け、工場代表者會議 一九

..... 一九

代表者會議こそ労働者農民の要望 二〇

六月

日勞黨幹部の偽瞞計畫より大衆を奪還せよ 二〇

村民大會を開け 二〇

日勞黨幹部混迷の極に達す 二〇

軍閥政治と官僚的中央集権 二〇

七月

本紙に集まる大衆の熱烈なる支持 二〇

言論集會結社の自由獲得の意義 二〇

如何なる視角から府縣會に参加するか 二〇

我等は府縣會に何故参加するか 二〇

八月

失業者群を獲得せよ 二〇

政治的自由の爲の議會解散請願運動 二〇

府縣會選舉と全闘争を如何に連關させるか 二〇

如何なる大衆的闘争を展開すべきか 二〇

九月

地方分権の反動性 二五二

地方自治権のためには如何に戦ふべきか 二五三

左翼労働者は如何に活動すべきか 二五九

労働小市民投票の意義 二六三

敵の選挙政策と無産階級の選挙絶対自由の要求 二六七

投票数の意義 二七〇

十月

専制治下における最初の普選 二七四

選挙闘争から議會解散請願運動 二七九

當面府縣會に於て労働縣會議員は何を爲すべきか 二八二

政治的自由のために大衆の共同闘争を強烈に展開せよ 二八四

今や如何なる視角から全闘争を展開すべきか 二八八

政治的曝露戦野を如何なる観點から擴大せんとするか 二九一

大衆的闘争の展開 二九六

十一月

ロシア革命十週年 二九八

プロレタリアートは如何に此の政局に處するか 三〇三

労働者、農民自衛團を組織せよ 三〇六

すべての労働政黨合同協議會を提唱す 三〇〇

全労働大衆は代議員を通じて大會に合同を要求せよ 三〇三

プロレタリアの道 三〇九

十一月

單一絶対條件は何を意味するか 三〇二

大衆的共同闘争を全線に遂行せよ 三〇五

大衆自身の闘争の上に積極的に合同實現に参加せよ 三〇九

労働組合の戦線統一は如何に爲すべきか 三一三

サヴェート政府樹立に向ふ支那労働大衆 三一六

全労働政黨は議會解散共同委員會をつくれ 三二〇

附録 最近無産階級運動誌

無産者新聞發刊の辭

我が社のスローガン（合言葉）

- 一、全國無産階級の政治新聞たらんことを期す
- 二、大衆の日常闘争の武器たらんことを期す
- 三、無産階級前衛の結合促進の任務の遂行を期す

無産者新聞は大なる歴史的使命を持つてゐる。

第一の任務は無産大衆を永久に昏睡させておかうとするブルジョア思想の感化を打ち破り、無産階級自身の生き生きとした、自主的な思想を大衆の間に確立することだ。そして意識的な決心と覺悟をもつて、無産階級解放のために一身を投げ出す前衛を出来る限り作り出さねばならぬのである。第二の任務は無産大衆の日常の實際闘争の武器となつて働くことだ。政黨運動、ストライキ、小作争議などの、ありとあらゆる實際闘争の味方となり、援護隊となり、武器となつて働くことは無産階級新聞の一大使命である。

新聞は大きい階級的武器である。ブルジョア新聞が大がかりで労働者農民の眞摯な深刻な解放運動を茶化したり、黙殺したり、ケチを付けたりしてゐる眼前の事實を見るがいゝ。畢竟、新聞も階級の武器だ。

無産階級も、新聞を持たねばならない！ このことは實に長い間の一致した希望であり、日本の無産階級の一大必要であつた。今や無産階級の政治的覺醒が増大し、日本のプロレタリアの一大陣地たる無産者政黨が出来あがらうとしてゐる。この時に際し、全國的無産者新聞の必要は正に痛切である。わが「無産者新聞」はこの階級的輿論、その全國的必要に應じて生れたものである。我々は過去の社會主義新聞の因襲的な編輯方針を排し、眞に大衆のために戦ふ大衆の新聞としての新しい型を創造し、以て無産階級新聞の歴史的使命の遂行を期する。かゝる使命のため奮戦することを、創刊に際し公約するものである。

我「無産者新聞」は全國無産階級の政治行動の武器たることを期する。いかなる日常闘争も結局政治的なものである。今やわが無産階級の前途には大きな政治闘争の幕が切つて落されようとしてゐる。わが「無産者新聞」は一般的には全無産階級の政治新聞としての任務を果し、直接には階級的大衆的な、無産政黨の成立と發達とのために働くのである。今や「階級的大衆的單一政黨を作れ」の聲が全國に擧つてゐる。この一致の聲に反對するものは階級的裏切者である。本紙は無産政黨確立のため努力することを當面直接の最大任務とするものである。

我「無産者新聞」は大衆の新聞であることを期する。本紙は無産階級陣営内の一黨一派の所有物でなく、無産階級の物であり、日本の無産階級大衆の现实生活に立脚した階級的要求を表現し、そのために戦ふものである。

この故に我々は廣く紙面を労働大衆諸君に解放する。大衆の間から大衆の要求を直接に表現した投書を募集し、これによりて大衆の生々とした意思を知る方法もとるのである。更に各種の大衆團體内

や各地方にレポーター（報導者）を設置し、このレポーター網の活動によつて、常に無産階級の重要な、生きいきした出來事を集め、階級闘争の全國的統一に役立ちたいつもりである。

わが「無産者新聞」はいふまでもなく闘争のための新聞である。いかに小さい闘争でも、これを支持し、その利益のために戦ふ。どんなに闘争の程度が低くとも、階級協調の墮落精神を排し、プロレタリア的階級闘争の原則を嚴守するのである。だから無産階級の陣営内にありながら無産階級を裏切る日和見主義者の階級的裏切り行爲を徹底的にやつ付ける決心である。又無産階級運動に種々のケチを付けるブルジョア新聞とも戦ふ決心である。我「無産者新聞」は労働組合、農民組合其他のプロレタリア團體、そのなかに活動しつゝある人々と常に密接に關係し、その援助を得たいと思ふ。本来、本紙は無産階級團體の支持と應援と協力を得て、はじめて成り立つ性質のものである。

世界各國の經驗を見ると、無産階級の新聞は常に有形無形の迫害を受けてゐる。しかも其の新聞のための防衛者となつて發達をたすけたものは無産階級自身に外ならなかつた。我々は全無産階級のために戦ふが故に全無産階級の支持と援助とを受けるものでなければならぬことを確信する。

我々は抽象的議論を絶対に避け、大衆の生活と心臓との生きた表現物となることを期する。今日のブルジョア新聞が押し隠してゐる諸事實——無産階級の生活に關係ある重要な事實を洩れなく正確に報導する積りである。今日のブルジョア新聞は無産階級團體の重要な會合やストライキなどの事實を黙殺したり、又は、ブルジョアの利益になるやうに報導してゐる。我々は一切の重要事實の忠實な報導者となり、又その闘争者となる積りである。この故に諸君の要求があれば直に號外を發行し、無産階級の重大な事件を報導し若くは宣傳する豫定であるから、無産階級團體の諸君が遠慮なく本紙を利

用されることを希望するのである。

本紙は十一月まで月二回、十二月より週刊、來年三月頃より日刊へ發展する豫定の下に仕事を進めるのである。幾多の困難は我れ々々を見舞ふであらうが、本紙は本紙の歴史的使命にむかつて猛進するであらう。

本紙の使命の果されると否とは、結局、無産大衆諸君の支持を得るか否かにかかつてゐる。本紙が曩に趣意書を配布するや、各地の無産者團體や個人から熱烈な數多くの激勵と支持の手紙が日に日に集りつゝある。本紙が眞に全國無産階級全體の實際の機關となるのは遠くない。

われ／＼は階級意識ある組織労働大衆、殊にその前衛分子の同感と援助とを希望してやまざる次第である。

無産者新聞論說集

第二次會議に於て結黨せよ!!!

無産政黨の問題が論じられ始めてから既に二三年を經過してゐる。しかし此問題が具體的となり、重要なプロレタリア團體の殆んどすべてが参加する大衆的運動となり「階級的大衆的單一政黨を樹立せよ」といふが如き確乎たる觀念の確立したのは、極く最近のことである。吾人はわが無産階級のかくの如き旺盛なる政治的覺醒と政治闘争の氣運とを見て歡喜措く能はざるものである。

今や「いつ黨を作るべきか」といふ最大の具體的問題が吾人の面前に提出されてゐる。これに對して、吾人は「第二次會議に於て是非とも結黨せよ」と主張するものである。即ち吾人は來る十月上旬、重要なる約二十團體の参加を以て東京に開かるべき第二次無産政黨準備委員會に於て具體的に結黨を完了することが日本の全無産階級の全利益に照し最も適切、最も必要であることを確信するのである。一派の論者は、無産政黨の具體的な創立期は遅れるほど利益であるといふ驚くべき意見を持つてゐる。かくの如き思想は、意識的たると無意識たるとを問はず、實に無産階級の全情勢の觀測をあやまり、その全利益を裏切り、實際に於てブルジョアジーに奉仕するものである。吾人は敢然としてかゝる反動的見解に反對する。

吾人が第二次會議に於て即時結黨せよと主張する第一の論據は、日本農民組合の創唱の下に成れる無産政黨委員會には既に我國に於ける重要な指導的な無産階級團體の殆んどすべてが集合してゐる事實である。來るべき政黨は大衆的黨であり、出來得る限り大衆を吸

收せねばならぬものであるが、實際的に具體的に黨を作り上げるものは無産階級團體自身の協力の外にはないのだ。然るに既に重要な團體は準備委員會に集合してゐるのだ。しからは無産政黨確立の根本基礎は既にしつかりと出来上つてゐる譯ではないか！

吾人の即時結黨説の第二の論據は、

無産政黨樹立のための論議が既に十分に盡されたことである。綱領問題を見よ組織問題を見よ、この問題に關し、既に重要團體間に既に一定共通の方針が確立され、もはや此の上、何等紛糾を呼びおこすべき餘地がなくなつてゐるではないか。骨組（組織）政黨の直接目的（行動綱領）が既に一定しながら、何の必要あつて結黨を躊躇すべきであらうか！

吾人の即時結黨説の第三の論據は

既に小ブルジョアの要素が政黨創立運動から逃げ出してしまつたことである。小ブルジョアの急進主義の徒が一時、無産政黨問題について我物顔に振舞つたのであるが、無産階級團體の自主的積極的態度の著しく強くなつたことや前衛分子の意識的闘争の結果として、こんな小ブルジョア要素は無産政黨問題に關し、思想的にも組織的にも力を失つてしまつた。これは實に來るべき無産政黨をその將來の日和見主義的墮落より救つたものだ。勿論、今日、無産階級内部にすら小ブルジョア思想の感化を受けたものがあるが、これらのものは將來、必然に消えてゆくであらうし又消えて行くやうに努力すべきである。小ブル要素が無産政黨運動の圏外に投げ出されたことは、純潔なる階級的政黨を作り出す可能性の出来上つたことを意味するのだ。

吾々が即時結黨説を主張する第四の論據は、最も重大なものである。

即ちそれは結黨が長びけば長びくほど、無産政黨を破壊しようとするブルジョアの運動の強くなつてゆくことだ。ブルジョアが無産階級の政治的團結を恐れ、忌み、これを妨害しようとすることは、けだし必然である。諸君、眼を置いて眼前の事實を見よ。ブルジョアは既に政黨問題に關し、労働組合に對して攻勢を開始してゐる。海軍關係の労働團體が政黨運動に参加することを實際的に禁ぜられて居る状態は、果して何を意味するか？又、樞密院が労働組合法案の討議に際し労働組合が政治運動に關係するなどは以ての外のことだと論じた如きは果して何を意味するか？これより所謂政治季節となり、議會解散ともなるならば、ブルジョア諸政黨は一方に有力なる敵黨——即ち無産政黨——の出現を恐れ、他方には無産階級の投票を自黨に利せんがために、無産階級を根本より破壊せんとする種々の運動に着手するに至ることは火を見るよりも明かである。我々はこの階級的全危険より無産政黨運動を救はねばならぬ。

我々は一時も早く結黨を完了すべきだ。結黨を引きのばしてブルジョアに乗せられることなく、反對に我々の陣地を確立し、積極的に政治行動を開始し、以て無産階級運動の將來の大きい展開に備へねばならぬ。而して其時機は重要プロレタリア團體の殆んど全部を包擁する第二次會議を以て最も適切とするのである。

來るべき議會が解散となるか否か？は明かでない。わが無産政黨は議會内の闘争にのみ終始すべきではないこと勿論であるが、議會内の闘争また重要である。來議會の解散と否とを問はず、われわれは新しき政黨の團結の下に於いて、無産階級の當面する種々の政治的要求——例へば失業運動——のために戦ふべきである。議會解散ともならば、そのための闘争が具體的に必要となること、言を俟

たないのである。

如何なる點より見るも、出來得る限り速かに結黨し無産階級の政治的陣營を確立すべきであり、如何なる點より見るも結黨をひきおこすべき理由を見ない。この全階級問題にサポータージユし、以つて實際上の分裂を引きおこす者は、實に階級的裏切者と見なすべきである。我々は如何なる犠牲を拂つても階級的な大衆的な單一政黨を形成せねばならぬ。我れくの政治的統一戦線を害し、無産階級問題に關し不信と分裂との種をまく者に向つては、正に階級的裏切者の烙印を捺し、かくの如き思想及行動を絶對に壓滅してしまふべきである。

吾人は以上の理由に依り、第二次會議に於いて形式上までゆかずとも實質的には確實に結黨し黨の中樞たる中央執行委員會を選出し直に地方支部の確立に着手し、以て實質的に政黨を築き上げてゆくことが、我國無産階級の全利益と合致することを確信し、このために努力することが無産階級前衛の直接當面せる任務であることを主張するのである。

一九二五・九・二〇（日）創刊號

分裂は無産階級の大損害

——階級精神の下に手を握れ——

大衆團體は分裂すべきではない！分裂は絶對の禁物だ！——いろくの意見が戦はされてこそ、組合も政黨も展びてゆくのだ。不幸にして今日まで我労働組合運動は分裂問題の爲に禍されたことが少くなかつた。總同盟と評議會との分裂がどんなに日本の無産階級運動に損害を與へたかは心ある者の感ずるところであらう。日本無産階級の政治的大團結たる無産政黨の正に成立を見んとする今日、多少分裂の兆のきざしてゐることは全無産階級の大損害となるものであるから、指導者も大衆も全力を擧げて分裂を防止し、統一的な一大階級黨を作り上げねばならぬのだ。事の直接の起りは去る九月十七、十八日、大阪で開かれた綱領規約調査委員會の席上での意見の相違や、出席者の態度（？）からであるらしい。大衆團體は意見の相違から分裂を起すべきものでなく、仔細にわたつて意見を戦はせてこそ、無産階級としての面目を發揮し、私心のない階級全體の戦術を決定し得るのだ。ブルジョア政治家の四疊半式な相談でなく、無産階級は堂々と論議をつくし、これを大衆全體に納得させねばならぬのだ。この意味から見ると、大阪會議の綱領討議は相互の論議を相應につくしてゐると思はれる。たゞ出席者の態度云々のことを以て直にその所屬組合の方針を判断することは絶對に不可である。そのような微少な感情的問題から階級全體に關係する無産政黨問題にヒビが入つては堪つたものでない。

更に理論上の争ひは正に論議をつくさねばならぬが、來るべき無産政黨は事實上に於て各大衆團體の協力に成るものであるから、相互に互譲の精神を確守し、階級精神の下に手を握り、飽くまで分裂を防止し、統一的な全階級的な黨を作り上げねばならぬ。かくてこそブルジョアは無産階級の政治勢力の出現に慄へあがるだらう。分裂して喜ぶものはブルジョアだ。階級に反くな！階級に忠實であれ！自己の立場を固守して萬一、恐るべき分裂を惹き起す者は階級的裏切者だと言はねばならない。既に無産政黨準備委員會の第二次會議の開催も刻々に近づいてゐる。本紙はこの會議が眞に日本の無産階級運動の發展に大きな時代を劃する歴史的會合であらんことを心より希望するものであるが、その爲には強い互譲の精神が此會議に溢れることが絶対に必要である。分裂を防ぎ、統一的黨を成立させるためにもあらゆる手段をとれ！綱領規約調査委員會を第二次會議の前に今一度開いて相互の了解を深くすることも良いだらう。各團體の指導者は自己團體内の意思を統一し、若し分裂意見あれば、これを征服せねばならぬ。指導者は萬事を大衆の前に示し、その意見を充分に代表すべきだ。大衆は統一的な階級黨の成立を望んでゐる！

この期待に反くな！

指導者は重き責任を自覺せよ！

分裂を惹き起して階級的裏切者となる勿れ！

大衆は第二次會議を極力應援し支持し、またこれを監視せねばならぬ！
階級的精神の下に大きい、統一的な、大衆的な黨を建設せよ！

一九二五・一〇・一（木）第二號

勞農大衆は單一政黨に團結せよ

——無産階級團體の政治的主張は只だ一あるのみ——

勞働者、及び農民の大衆は被搾取者被壓迫者として、資本の攻勢に對して政治的に團結しなければならぬ。政治的結成は全階級的であつてこそ始めて意義を生じその職分を果し、その目的を果し得る。全階級的統一戦線を張つてゐるブルジョアに對しては、同じく全階級的統一戦線を以て對抗しなければならぬ。一切の反資本主義的勢力を糾合して、政治的協同戦線を固めるのが來るべき無産政黨の任務なのだ。強力にして組織的な資本の攻勢の前には、無産階級團體間の政治的主張の差異なんか消えてしまふ筈だ。一切の強権を動員して無産大衆を壓服して、帝國主義政策を遂行する道具としてよとするブルジョアの攻勢に對しては、これに降服するか、戦ふか、この二つの道より外は無き。苟くも降服するために結黨を協議するのでない限り、無産階級團體の政治的主張はたゞ一つあるのみである。即ちそれは階級の全勢力をあけて、結束してこれに對抗することだ。これが各團體の主張の出発点であり、基調でなければならぬ。各團體はこの根本的一致點の上に立つて戦線を統一し、單一の全階級的な政治的勢力を組織すべきである。

吾々は、ブルジョアと交際したり取引したりする爲に黨を結ぶのではない。全ブルジョアの政治的權力に對して吾々の利益を防衛し、伸張するために政治的に團結するのだ。また吾々は階級内

の特殊少層の利益を擁護するために黨を樹立するのでない。全階級の協同利益を代表する黨を建設しようとしてゐるのだ。そのためには單一的全國的大衆黨を組織することが絶対に必要である。政黨をつこなすのでない限り單一的政黨でなければ政治的闘争の意義を成さぬ。單一政黨を作るのでなければ政黨を作らないのと全く同じことである。もし無産階級が何等かの理由——有り得べからざる理由——によつて單一政黨を建設することに失敗するならば、それは資本の攻勢の前に屈服することを意味し、無産階級の協同利益を裏切ることを意味し、無産階級運動の發達の上に取り返しつかぬ創痕を與へることを意味する。

大衆は單一的政黨の組織を要望してゐる。この要望を裏切つてはならぬ。この目的のためには各團體代表者諸君が一切の傳統、一切の偏見、一切の感情を抛棄し、資本の全線的攻撃に對する協同戦線といふ一致點の上に立つて、即時結黨の運びに出でられんことを切望する。

一九二五・一〇・一五(木)第三號

無産政黨創立を前に團體の積極的活動を要望す

一

無産政黨の創立は日本の無産階級にとつて重大な歴史的事實だ。此の重大期に面し、本紙は我國無産者團體が今一層積極的に精力的に奮起することを要望するものである。

現實の事實を見よ。無産政黨問題おこりて以來、その組織や綱領の作成に常に指導的任務をつくし

てゐるのは組織準備委員會の提唱者たりし日本農民組合はじめ各種の無産者團體ではないか。この事實は如何に階級運動に重要な任務を帯びてゐるかを示してゐる。

不幸、從來の日本の無産階級運動は餘りに經濟闘争偏重に傾いてゐた。その結果、政治闘争の意識は未だ充分尖鋭となつて居らぬ。今や大なる政治闘争の戦場が近付いてゐる。無産者團體は斷然、無産政黨問題に關し、一切の觀念上の誤謬及び組織上の過失を避けねばならぬ。

二

來るべき黨は統一的な黨でなければならぬ。同時に具體的にして各團體の共同戦線黨といふ意味が強いのである。ブルジョアは偉大な敵黨の出現を怖れ無産政黨の創立を妨げんと試みてゐる。各團體は明確な政治闘争の意識を以て政黨問題に積極的に活動せねばならぬ。これ團體が組織大衆のみならず廣大な未組織大衆に對して負ふてゐる任務だ。

しからば團體の積極的活動とはいかなることであるか。其れは團體が進んで政黨に加入することだ。既に第二回綱領委員會にて團體加入は政黨組織上の原則となつた。團體は積極的に政黨に入り、階級意識ある分子としての政治的任務を果すべきである。既に成案となつてゐる無産政黨組織案には團體がその活動力を發揮するに就て不備な點が残つてゐる。團體代表者の選出比率が低く且つ其代表者の遞減率の非常に高いことはそれである。支部黨員三百名が一名の代表者を大會に送り得るに對し、團體よりは二千名に一名であり、又、團體は十萬人以上にて七名の代表といふは餘りに少いと感ずる。これでは餘りに少い。この組織上の缺點は政黨の

發展の道程上、矯正が必要となつてゆくだらうと思はれる。團體はこの條件の下にても出來得る限り積極的に参加し活動せねばならぬ、でなければ團體の有する本來的任務は發揮することができない。各地方に於ける無産者團體も出來得る限り各地に於て積極的に活動すべきである。各地無産者團體の眼前緊急の任務は續々成立しつゝある地方協議會の組織を一日も早く完成充實させ、その地方の無産大衆の政治勢力を結集し地方支部の基礎を固むべきである。

三

無産者團體は單にその團體内の大衆の利益のみならず、未組織の廣大な大衆の利益のために闘争せねばならぬ。これが團體の階級的任務だ。來るべき無産政黨は團體の共同戦線たる實質を持つ。それは下からの共同戦線、即ち眞の大衆的共同戦線でなくてはならぬ。團體の指導者は特にこの意義の實現に猛進せねばならぬ。

團體は政治闘争の意識を尖鋭にせよ！
經濟闘争偏重を捨てよ！

團體は政黨に積極的に参加し、その廣大な大衆に負ふ任務を貫徹せよ！

一九二五・一一・一（日）第四號

全無産者團體を結合し堅く大衆黨の基礎を築け

——第二次會議に要望す——

一

日本の無産階級の大飛躍、光輝ある未來を約束する無産政黨の創立はもはや二週間のうちに迫つた。全無産大衆の胸には希望が湧き立つてゐる。ブルジョアはおののき怖れてゐる。本紙は全國單一政黨創立のために戦つてきた日本農民組合はじめ幾多の團體に厚き感謝を表し、一層強き階級精神の下に一切分裂原因を除去し、立派なる階級黨を作り上げ以て將來の闘争の勝利を準備することを祈るのである。

無産政黨は大衆の黨である。大衆黨の基礎を確立するためには、あらゆる無産者大衆團體が参加協力せねばならない。階級意識ある大衆の結合、これ大衆團體である。來るべき無産政黨は一面、全國的全階級的な統一黨たると共に、他方に於て各無産大衆團體の共同戦線黨であるのだ。階級的利益の一致、階級的全體精神の發揮、これが無産政黨の根本的な結び目だ。

あらゆる大衆團體は悉く参加せよ、そしてその階級的義務をつくせ！ 未だ地方協議會に加らざる各地の無産者團體は即刻これに加入せよ！

二

前述のことを反面より言ふならば、それは現在の準備委員会があらゆる無産者團體を吸収せよ、創立大會にあらゆる無産團體を参加せしめよ、といふことになるのだ。この意味に於て苟くも無産者の團體であつて反動的のものならざる限り、何れの團體も無産政黨に加入の権利を有し、又、これを入せしめる義務がある。愚劣なる封建割據の精神により甲を愛し乙を排するが如き醜態を演ずるものは正に利己主義、組合私有主義の怪物であつて、階級的大精神を忘れるものである。

一部に於て政研及び青年同盟の参加に疑心を抱くものがあるとのことであるが、政研は既に労働教育の無産者團體たらんとし、青年同盟は無産青年がその特別利益のために結合する階級闘争團體であつて、その参加は何等疑點なきのみならず、その参加に却つて黨の生長發達に大なる役割を演ずるのである。

三

來るべき政黨はブルジョア政黨の如く、代議士個人を中心とする黨ではない。大衆のための大衆の黨であり、實際上、階級意識ある大衆の結合たる大衆團體の大に活動せねばならぬ黨なのだ。されば第二次會議と創立大會に出席する代議員は大衆の代表者として出席するのであつて、個人の資格で出るのではない。一部には、個人の資格で結黨すべしといふ奇説があるとのことであるが、そんな勝手なことができるものでない。そんな大衆を踏み付けるが如き説は絶対に排斥すべしである。第二次會議及び創立大會の代議員は大衆の代表者であり、團體の代表者として結黨する義務を持つてゐる。無産政黨はブルジョアにとつて一大脅威である。彼等は如何にかして無産政黨の成立を邪魔しやう

としてゐる。この陰謀を打破し、強き統一的精神の下に結黨せよ！ 階級的純潔を失ふ勿れ！ 同時に互讓の態度を以て終始せよ！

本紙は屢々無産政黨に關し團體の積極的活動を力説したが、この點に關し第二次會議に出席する各團體が慎重の注意、強烈の階級的一致精神、彈力ある互讓態度を以て無産階級黨成立てふ一大歴史的任務を遂行することを望むものである。これ疑ふべからざる眞理であり、我等無産者の今日當面してゐる最も根本的な任務である。

一九二五・一一・一五(日)第五號

單一政黨に返れ!!

—階級的共通利益を裏切る勿れ—

一

日本の無産大衆が待ちに待つた無産政黨、日本農民組合の骨折の爲めに漸く結黨式まで漕ぎつけた無産政黨、それは總同盟の脱退聲明によつてむざんにも流産にならうとしてゐる。この暗澹たる形勢を生み出した責任は、總同盟の負はねばならぬ所である。

總同盟の脱退理由は評議會や政研と一所にやつてゆけないといふにある。若し無産階級運動の戦線をみだしたものとせば、本紙は評議會たるを問はず、其の責任を問ふものである。しかし總同盟の諸君、冷静に熟慮せよ、日本の無産大衆が待ちに待ちたる單一政黨の樹立運動より脱退するほど、これほど大なる戦線の統一の破壊があるだらうか、評議會も政研も同じ無

産者の團體である。政策上の意見の相違あるにせよ、それはブルジョアの意見とプロレタリアの意見との差違の如き差違ではない。階級的には利害は徹底的に一致してゐるのだ。

總同盟は無産階級の根本的利益といふ見地から、すべての團體を包擁した單一政黨の樹立に返らねばならない。ここに分裂といふことに決定してしまふとすれば、手を打つて喜ぶものはブルジョアばかりであつて、労働組合運動に於ける評議會對總同盟のイキサツよりも一層混亂した場面が政治運動に現れてくるだらう。總同盟の投じたる一波はかかる階級的大損害を生み出すのだ。

總同盟の幹部及び大衆諸君。過去の感情的衝突のために無産階級の根本利益を忘却する勿れ。

二

總同盟以外の参加團體は單一政黨樹立といふ最初の大精神を堅く握つて此の問題に對すべきである。總同盟及評議會の中間に立つてこれを調和すべきだ。全無産團體を打つて一丸とした一大黨の成立に力むべきである。何れか一方に偏する態度を絶対に避け、單一的黨の成立に向つて勇進すべきである。

ここに甲の黨、乙の黨が出来たと假定せよ各地の無産者團體が或者は甲の黨に屬し、或者は乙の黨に屬すると假定せよ。無産階級的戦線の混亂は怖るべきものとなる。我々はいかにもして斯かる大損害を避けねばならぬ。

總同盟の外の團體は決して輕舉してはならない。たとへ一頓挫したとするも、更に陣營をたてなほし、單一政黨の完成に向つてあらゆる手段方法を講ずべきである。

小黨分立の禍害に陥るな!

單一政黨へ向つて進め!

三

日本農民組合に對しては、その献身的の骨折がこんなになつたことについては氣の毒に堪へない。總同盟の背信行爲に憤慨し、黨を成立せざれば死すとも東京を去らすといふ態度であることは尤もな次第である。しかし日本農民組合の責任はこの事件によつて一層重きを加へた譯である。單一政黨樹立といふ當初の精神のために戦ふことは日本農民組合が面目上どうしても果さねばならぬ義務である。その仕事が困難であることは言ふまでもないが、この困難を忍んでも單一政黨といふ最初の計畫通り諸方面を調和し、あらゆる團體を一黨にまとめるために出来るだけの努力をして貰ひ度い。

政研は既に解體を決意したのであるから多く言ふところがない。評議會は此の際絶対に穩健なる態度を以て終始し、單一政黨の實現に努力すべきだ。

單一政黨へ! 單一政黨へ!

これこそ日本の全無産大衆の絶対要求だ。この要求に反するものは、その名目の如何にかゝはらず階級的裏切者なのだ!

再び全国的政黨の組織へ!!

— 地方的基礎を築く必要 —

一

日本農民組合はじめ各團體の積月の苦心も空しく、日本の無産大衆が絶大の希望をかけた無産政黨は生存僅か三時間、むざんにも政府の手によつて押しつぶされた。理屈はどうでも、彼等は何よりも無産階級が政治的に結合することを怖れたのだ。

しかし政治的に目ざめてきた無産階級の政黨組織運動はドンな力でも防ぐことはできない。この大河の流れのような勢を誰れが止め得るものか! 無産者は一度の彈壓を蒙つたからとて氣を落す必要は少しもない。

再び政黨組織へ! わが無産階級の實力と熱情とは政黨實現を實に必然的事項たらしめるのだ。

二

一時も早く日本農民組合を中心として再び各團體の準備大會を召集し、全国的政黨の組織運動を続けるがい。

政黨は無産階級の政治的機關だ。政黨がなくて政治運動が巧くゆく道理がない。來議會は解散になりさうな形勢に在る。解散になれば當然に總選挙がくる。無産者は愈々以て政黨を速く作る必要がある

るのだ。

我々は作り得る政黨を一時も早く作り上げべきだ。團體加入が今日不可能なれば個人單位であつても更に差支ない。

再び速かに準備大會を召集して作り得る程度の政黨を速かに作るべきだ。

總同盟は全国的政黨の運動を正面からサポートして到底他團體と一所にやる氣がない。總同盟内の大衆諸君の意思に反するであらうが、總同盟はこの準備運動に加はらぬと見て差支へない。評議會や政研が参加すれば、再び前と同じ支障が繰返されるであらう。だからこの際勇退して男らしく此準備運動の圏外に立つがい。

三

全国的な組織運動と共に、わけても重要なのは地方の基礎をかためてゆくことだ。我々は結黨式前後に於ける地方協議會の勇敢な正直な活動に感謝するものであるが今後も一定の組織と方針との下に地方の政治闘争場に活躍して基礎を堅むると同時に、全国的政黨の完成のために相互に一定の連絡を結び、又日本農民組合の統一の方針の下に集合することを希望する。

地方協議會は現在、無産者團體の結合したものである。地方的政治闘争には個人を吸収する必要がある。だから現在の地方協議會は一方には政治問題のみならず他のあらゆる無産階級の問題を取扱ふ共同戦線の團體となつて分れ、他方には個人を單位とする純粹の政黨準備地方協議會となつて分れる必要がある。一方に地方の活動、他方に全国的統一の活動、この二つの活動が速かに進めば進むほど

黨の成立はヨリ速かとなるのだ。

一九二五・二・一一(金)第七號

二〇

議會季節近づく

——無産階級はいかに是れに對すべきか——

例年通り帝國議會は来る十二月二十五日に開院式を行ふことになつてゐる。慣例によつて一月二十日頃まで休會するが、此間に各政黨は幹事會や代議士會を開いて對議會策を凝らすのである。今や議會季節がきたわけである。

明治廿三年以來、帝國議會は回を重ねること既に五十回であるが此の間、無産階級の利益を代表する政黨は一度もあつたことがなくまた、無産階級の利益が議會で討論されたことは一度もない。否、中産階級の利益さへも殆んど論ぜられたことがない。現在の代議士四百六十一名は僅か四百萬人の金持有権者の代表者であるに過ぎない。

無産階級は今日まで議會に對して鋭敏な意識をもたず、積極的な運動もしなかつた。議會はともあれ今日の最も大きい政治機關だ。無産階級はこれに無關心でゐることはできない、我々は積極的に之れに要求する所あつて無産階級の利益を防衛し主張せねばならない。

二

日本農民組合はじめ各團體の苦心の結晶なる農民労働黨は現政府に依つて無慘に壓殺されてしまつた。理由にならぬ禁止理由を色々と並べ立てゝゐるが、要するに彼等は無産階級が政黨の形で政治的に結束する事を怖れたのである。若し議會が解散にならんか、現在の政黨は無産階級の新投票を獲得する自信がない。無産階級が政黨に結束して組織的な政治運動をおこすことは彼等にとつて絶大の苦痛である。むしろ無産階級に何等の政治的な組織を與へまい、これが農労働禁止の眞意義である。この故に我々は一層速かに無産政黨再建の運動をおこすべきである。速に準備委員會を再召集し一應の準備成らば直に結黨に向つて急がねばならぬのだ。

三

今期議會が解散になるか否かは未だ明かでない。憲政會と政友本黨との野合運動は急激に進んでゐる。

若し解散になつた場合は如何にすべきであるか？

第一に各團體が準備委員會に於て共同に候補者を選択し共同にこれを援助すべきである。抜けかけは絶対にいけない。

第二に地方協議會が積極的行動を開始し地方の選挙戦について中央の準備委員會と飽くまで協力すべきである。

解散になつた場合には、出來得る限り候補者を立て、これを當選せしむべきだ。同時に無産階級政治運動の宣傳舞臺として選挙戦を利用すべきだ。

二二

若し解散にならない場合に於ては、治安維持法の撤廃、労働組合法案、調停法案等の撤廃、無産階級に有害なる租税案の撤廃等、全労働大衆の利益のための戦いを積極的に行ふべきである。かゝる必要よりして単一政黨の再興は正に絶對的必要事である。

一九二五・二・二二(月)第八號

闘争の年を迎ふ

政治闘争には単一政黨

經濟闘争には總聯合

——今年に於ける無産階級運動の展望——

一

無産階級にとつて何の年も闘争の年でないものはない。闘争によりて解放へ、これぞ無産階級のたどる歴史的筋道であつて、妥協や協調は無産階級墮落の源泉である。試みに我無産階級が昨年いかに猛烈な戦をなしたか回想してみよ。政治的には治安維持法反對、労働組合法案其他の悪法反對、単一無産政黨の樹立運動、支那罷業の應援、軍事教育反對等あり、組織の上には關東労働組合會議其他の地方協議體の形成、金屬交通出版其他の盛んな産業別合同運動等があり、經濟闘争場裡に於ては各種の罷業續發し年の終りに近く富士紡績、東京の印刷、別子鑛山等に大罷業あり農村には佐賀、香川、千葉、新潟の各地に大小作争議が炎々として燃えあがつた。外には官憲資本家の暴壓あり、内には左

右兩翼の争ひありと雖も、わが無産階級の底力や資本家の逆襲は一層猛烈化し組織化してゐる。わが無産階級は大闘争の前に立つ。今年の闘争は必ずや昨年に倍加するものが有るであらう。

二

今日政治闘争の慾望は強く我無産階級運動を動かしてゐる。無産階級の運動が經濟闘争に限られてゐた數年前に比すれば、一大躍進と言はねばならぬ。この政治闘争の慾望は必然に無産政黨の形を取つて現れる。昨年八月日本農民組合の提唱によつて始まつた単一政黨運動は忽ち殆ど總ての團體を糾合し、ブルジョア政黨の心膽を寒からしめた。不幸、農民労働黨はブルジョア政府の暴壓に依つて一時的に潰されたが、再び日本農民組合の努力に依つて其の再舉の日は目前に迫つてゐる。政黨なければ政治運動が巧くゆく道理がない。速かに準備委員會を再建し一切の結黨準備を完成せよ！農民組合を中心として再び階級的大衆的單一政黨の結成に着手せよ！これ年頭早々、我無産階級に課せられた一大懸案である。

三

農勞黨の結黨間際に於て總同盟が脱退し次いで評議會の脱退となり我無産階級運動の共同戦線に大龜裂を生じたことは眞に遺憾なことであつた。或者はいふ、左右兩翼は何れ喧嘩するのだから最初から一所にならぬがよい、單一政黨は空語であると。これほど謬つた不幸な議論は我無産階級運動の歴史に未だ見ざる所である。諸君は一工場のストライキに於てすら共同戦線の必要を痛感してゐるでは

ないか。共同戦線のないために一小資本家に對する闘争に於てすら往々惨敗する苦痛を味ふてゐるではないか。政治運動はその性質上全階級的なものであつて個々別々の運動は却つてブルジョアを安心させるだけである。

日本農民組合が速かに準備委員會の再召集に着手することは刻下の急務である。政府が團體加入を禁壓するなら、個人單位の黨でもやむを得ないから一時も早く結黨せよ。而して準備委員會には再び總同盟も評議會も加はれ。總同盟が他の諸團體との共同戦線のために再び準備委員會に参加すること並に評議會が政策上の緩和を行ふて無産政黨運動に再び参加すること、この二つはこの兩團體内の大衆のひとしく希望し欲求する所であらう。

四

政治運動の他の方面について 議會に對する運動がある。無産階級運動を壓迫する惡法に對する闘争、無産大衆の日常生活に影響する惡税に對する闘争、其他の政治問題に對する闘争が重要任務であることは前號に論じた通りである。更に今期議會が解散になつた場合の政治運動は極めて重大なるものである。この事については次號に論ずるであらう。

更に地方的政治闘争の重要なことは言をまたない。昨年以來全都市町村選舉に際して無産階級より立候補した者五千餘名、而して當選者は三千七百名にのほつてゐる。地方の政治機關を無産階級の手の中に収むる意氣込を以て進んでゆけ！

五

轉じて經濟闘争の方面に於て最大急務となつてゐるものは總聯合及び産業別合同の問題である。本號の新春附録に此兩者に關する論文を掲載したのは其重要性を示さんがためである。經濟闘争の統一は我無産大衆の緊切の要望である。而して總聯合及び産業別合同の具體的基礎は既に存在してゐる各團體は一致して本年中には必ず少くとも總聯合を實現することを力むべきである。

資本の逆襲益々急なる本年に於て労働争議小作争議は益々頻發するであらう。昨年以來個々のストライキに對して同一産業の労働者や同一組合の労働者のみならず、他の産業、他の組合の労働者までが擧つて應援する風潮が急激に高まつてきた。個々の労働者の闘争は同時に全労働者の闘争である。無産階級はこの風潮を一層、強大深刻にして、其陣營を堅むべきである。

我勞農大衆諸君！ 熱烈なる階級精神を以て新しき闘争の年の門出に立て！ 諸君の健闘を祈つてやまない。

一九二六・一・一（金）第九號

無産政黨の再建設

——一月十三日の大阪準備會議に希望す——

去る十二月一日、一旦産聲を擧げた無産政黨は政府の横暴な彈壓の下に生存僅か三時間にして解散

させられたが、わが無産階級の政治闘争の意欲は天を衝く慨あり再び日本農民組合及び官業労働同盟の下に来る一月十三日大阪に諸團體の準備會議を開く運びに至つたのは別項所載の如くである。この間、種々のイキサツがあつたやうであるが、しばらく是を問はず、再びかく速かに結黨準備の進んでゆくことに對して本紙は滿腔の祝意を表する。

本紙は一月十三日の準備會議に對して次の事柄を注文するものである。廣大なる無産大衆の意思亦こゝに在ることを信ずる。

二

第一は飽くまで單一政黨の樹立を目標として萬事を討論することである。單一政黨の樹立は、階級闘争の統一を熱望する大衆の根本要求であり、根本命令であり、ブルジョア階級のみが其不成立を喜ぶのである。政黨は組合のみが中心となるものでなく、無産階級に屬する大衆全體のものでなければならぬ。來る準備會議が單一的な大衆的階級的黨といふ最初からの目標の下に進み以て無産階級全體に對する忠誠を表する事を望む。

第二に總同盟及び評議會の問題がある。さきの無産政黨については總同盟幹部は結黨二日前に突如脱退し、評議會も續いて自發的脱退をした。當時の公約に従へば此左右兩翼の大團體は適當の時期に再勧誘される筈であつたし、又、當時に比すれば事情に多少の變化を生じてゐる。來る準備會議が其決議を以て總同盟及び評議會の兩者の再加入を誘ふことは最も望ましい。總同盟のみを招いて、評議會を捨て、願みざるが如き態度のないことを望む。約三萬人の組織労働者を包含する大衆團體であり

且つ毫も階級的裏切をやつたことのない評議會を無視するが如きは徒らにブルジョア政府の逆宣傳に乗ぜられる事を意味してゐる。

三

第三に準備會議が短時日の間に準備行動を終り速に結黨へ進むことを希望する。政黨は政治運動の機關として一日も缺くことができない。萬難を排して速に結黨することを要する。

第四に準備會議が來るべき政黨を未組織労働大衆の吸収を容易にする組織とするよう決定すること希望する。一方に於て労働組合のみ若くは組合員のみを以て政黨を作りたいと願ふものが有るかに聞く。これは階級兄弟たる未組織労働者を裏切るものである。このために個人加入の原則を確定することが必要である。

此外に、抽象的な言ひ方ではあるが、この準備會議が上からの協同戦線即ち純粹の指導者會議に終ることなく、大衆の利益のため大衆の前に討論するといふ態度を徹底させて貰ひたい。また都市労働者が農民に充分誠意を有することを萬事の點で表現し、労働者農民の眞の協同戦線を確立する意氣込でやつて貰ひたい。區々たる術策を捨て、わが日本無産階級の利益の爲めに、眞にブルジョアを震駭せしむる一大無産政黨を建設せよ。これ準備會議に出席する代表諸君の歴史的使命である。至囑々々

政黨準備懇談會の成立と其の使命

— 第二次會議主催兩團體に希望す —

ブルジョア新聞がとかく難産を宣傳した第二次無産政黨準備會議は別項所載の如くスラスラと成立した。本紙は參加團體の骨折りを謝しその成立に祝意を表する。

わが無産政黨は昨年以來、數多くの政治的經驗を積み、新しい政治運動の種々の困難を學んだ。無産政黨は御用黨ではない。ブルジョアの逆宣傳、逆攻撃に怖れず、勇往邁進せんことを願ふ。

我々は去る一月十三日に成立した「無産政黨準備懇談會」が其内容を充實し、出來得る限り速に結黨を完了することを希望する。その使命の具體的なものとして次の如きことを注文し度い。

二

第一は此懇談會が出來る限り多くの労働者農民の團體を包擁するに力むることである。第一次無産政黨に加はつた三十二團體以外の團體をも糾合すべきである。これ黨が大衆化する所以である。評議會のぬけたことは遺憾であるが、その速に参加し得る日を待つ。

第二は地方協議會と密接に關係することである。第一次無産政黨の結黨當時、地方協議會は參加の權限なしといふ議論が一部にあつた。地方協議會は既に各地方に於ける無産者の政治的綜合勢力であ

る。全國的黨はこれを連絡せねば實體を確立し得ない。懇談會は權限云々の法律的議論に拘はることなく、進んでこれと連絡すべきである。

第三に懇談會は出來得る限り短期間に綱領規約を審議し速かに結黨すべきである。政府は團體加入を國法に反すとなして禁止したのであるから、個人單位の原則をとつて速に結黨すべく、無産者の個人加入については何等の制限を設くべきでなく、殊に、未組織勞農大衆の参加を便にするように、黨を作るに進むべきである。

第四に懇談會は全國の無産者の政治運動を指揮する覺悟を持つべきである。議會の解散は急に行はれるかも知れない。此時、總選舉についての總指揮者はこの準備會でなければならぬ。又、労働組合法案反對運動の如き全國的政治運動について指揮者組織者となることも其任務である。懇談會がかくの如き政治的内容を充實することを希望する。

三

終りに來る二月十三日の第二次準備會議の主催者となるべく決定した日本農民組合及總同盟に向つて、全國無産階級の利益の爲めに公明なる階級的精神を以て終始し速に結黨の機運を促進することを希望する。特に農民組合が最初よりの主動者たる精神、面目を飽くまで發揮することを祈る。

一九二六・一・一六(土)第十一號

新選挙法に依る総選挙の断行を要求す

—解散に際して採る可き無産階級の戦術—

一

昨年通過した普通選挙法は色々の不備を含んでゐる上に、不都合にもその実施を大正十七年からと定めてゐる。抑々國民が普選を要求したのは、現在の極端な制限選挙制を排撃し、資本家及び地主の代表者のみより成る現議會に絶対不信任であるからであつた。一方國民の意思に聽従しながら、他方國民の絶対不信任とする現議會を解散もせず、なほ二年間の命脈を盗まうとするのは何といふ矛盾、未練、卑劣、何といふ頭の悪さであるか！

我々は即時議會を解散し新選挙法によりて總選挙を行ふことを要求する。よし無産階級が第一次の普通選挙法に多大の勝利を博し難しとするも政治的訓練の効果は絶大である。

普選即行の聲はブルジョア急進主義者の間にも起つてゐる。無産階級は今日なほ無産政黨や組合總聯合を有しない爲め此種の統一的運動に多少の困難を感じるが、進んで何等かの組織の下に是を要求すべきである。

二

憲政會、政友會の敵對關係と政友本黨の所謂硬化とは議會の解散率を濃厚にしてゐる。議會解散と

ならば、わが無産階級はいかなる戦術を採るべきか？

先づ候補者の選定方法であるが、それは無産政黨準備懇談會若くは地方協議會が共同に候補者を選定し其運動を援助すべきである。個々の團體が抜擢することは禁物である。各團體が協力せねば抜擢けしても投票がよく集まらず、従つて當選が不可能とならう。

一つの選挙區に數人の無産階級の候補者が立つて相争ふようなことは避けねばならない。少しでも當選率の多い一人の候補者を守り立て、無産階級の投票をこれに集中する用意が甚だ必要であらう。當選確實又は possible の候補者のない場合の方が實際的には寧ろ多いかも知れない。此場合に於ては、無産大衆の政治意識の覺醒と政治的訓練とのために、當落を眼中におかず候補者を立て、争ふことも効果が有らう。更に此種の候補者もなき場合には、立候補せる急進自由主義者に無産階級のために働くことを公約せしめて是を援助する方法をとるべきで、無方針な棄権は避くべきである。以上のことは本紙が地方協議會についても主張してゐる所である。

三

政府は今期議會に暴虐な労働組合法案や労働争議調停法案を提出し労働階級の手足を縛らうとしてゐる。最近に於けるブルジョアの無産階級敵視は特に猛烈を極めて居り、種々の逆宣傳や壓迫を敢てし、無産階級陣營を分裂せしめその力を弱めようとしてゐる。而して無産階級の壓迫についてはブルジョア政黨はすべて完全に一致してゐる。

ブルジョア政黨と闘争せよ！

無産階級は現議會の解散を迫り、無産階級勢力を議會内に送るに努力せよ!

一九二六・一・二三(土)第十二號

三二

加藤首相の死とブルジョア政局の動搖

——無産階級の政治戦術——

一

加藤首相の急死といふ突發事件はブルジョア政局を多大の混亂裡に投じてゐる。内閣は辭表をとりまともに提出した。或は憲本兩黨がこの際、内面の妥協をさらけ出し兩黨の聯立内閣を作るべしと唱ふる者あり、或は政本兩黨が一丸となつて憲政に當り政權を奪取すべしと唱ふる者あり、或は憲政會は此際解散を斷行して多數黨を失はざるに力むべしといふ憲政議員あり、或は此際政權を政友會に頂戴すべしと主張する政友議員もある。金持の子、金持の婿たりし加藤首相が特別にエラかつたとは思へない。一個人の死に依りて斯くも大混雜を招く醜態は、組織の力を中心として發展する我が無産階級の想像だにも及ばぬ所である。

二

ブルジョア政局の變轉は常に甚だしく突飛であり、不自然であり偶然的である。加藤首相の死によつてブルジョア政黨の醜き政權爭奪戦は愈々激烈化するであらう。而して此事實は議會解散の可能性

の大きい増加したことを意味する。何となれば政府黨たる憲政會は黨の財政をあやつり、其政策をあやつつたる最有力の首領を失ひ、黨としての鬭争力、結束力、經濟力に多大の空隙を生じてゐる。その敵黨たる政友會が政權奪取のために有らゆる陰謀を弄すべきは明かである。兩者の咬み合ひは從來とても議會解散の條件であつたが、加藤首相の死は此咬み合ひを益々猛烈にし、従つて議會解散を大に可能ならしめる。

三

わが無産階級が此際採るべき戦術は重要なものが三つある。第一は新選舉法による總選舉斷行のためには議會解散を益々猛烈に要求することである。今や一般無産大衆は漠然ながら此要求を支持してゐる。第二は勞働組合法案反對議會運動を盛んにすることである。今日、敵陣には混亂が起つて居り、その戦線は薄弱となつてゐる。かゝる場合の突撃は効果を奏し易いものであることが戦術上の原則である。第三は無産政黨準備會を一日も早く促進し、具體的に結黨を完了し、近づき來れる政治戦のためには無産階級の政治的陣營を打ち堅むべきである。農勞黨禁止後、種々の逆宣傳が行はれた。これに依つて多少迷亂した人々も、今は逆宣傳の馬鹿々々しい内容に氣が付き、再び全國的結成が可能とならうとしてゐる。我々は此氣運に乗じて再起せねばならぬ。ブルジョア政局の混亂は從來の特權的政治の末期の現象である。新興勞農階級の政治的運動は強い確信の下に力強く、組織的に實際情勢に應じて進まねばならぬ。

一二二六・一・三〇(土)第十三號

三三

なほ暗雲あり正義派の奮起を望む

三四

——来る十三日の第二回政黨準備會に希望す——

一
去る一月十三日、大阪で開かれた無產政黨準備懇談會の第二回會合が愈々来る十三日、東京で開かれることになつた。本紙は最初より單一無產政黨の即時結成が日本の無產階級の根本利益であることを主張した。去る一月十三日の會合では、各團體の代表者は「隔意なき諒解の下に協同一致努力せんことを期す」と決議した。本社は各團體が忠實な階級精神の下に此決議を實行し、速かに結黨を完了し近時益々猛烈なブルジョアの統一的攻勢に對抗することを熱望する。

二
この際に當り、一部になほ暗雲が漂ひ、急速な結黨となることがむづかしい情勢にあるが如くである。本社はこれを衷心から遺憾に考へる。

三
日本の無產階級の切實な必要たる無產政黨の結成が何故にかくも長びくのであるか。その責任は果して誰が負ふべきであるか。吾人は此際、このことを徹底的に探究する必要がある。その責任者は速かに自己の過失を改むべきである。

去る十二月の農勞黨の結黨當時に於て、評議會を入れるか否かの問題で總同盟が脱退した。評議會も續いて脱退した。去る一月十三日の會合に於て、評議會は最初より招かれなかつたが、自ら遠慮を申出で圏外より政黨の成立を援助することを申出でた。これで評議會の問題は濟んでゐる筈である。傳ふる所に依ると、總同盟は来る二月十三日の會合で、評議會の會員の入黨を禁ずる旨を規約に明記することを要求するといふ話である。本社はその誤傳たることを希望する。評議會の過去の政策に多少の急進的過失があつたにせよ、去る十二月の脱退宣言以後に於ける對無產政黨態度は階級的公明を保つて居る。又、過日の擴大委員會は新政策の採用を宣言してゐる。大衆團體として評議會は我が國で最も大なるものゝ一つであり、その三萬の會員を一括して無產政黨の黨員たらしめずと主張するが如きは驚くべき議論である。我國の戰鬪的組合として久しく指導的地位を占めてきた總同盟の全體的意見が斯くの如く狹隘であらうとは信ずることができない。

四
氣の合つた者同士が黨を作ればいゝぢやないか、といふ自暴自棄な議論も、一部にかすかながら存してゐるようである。小黨分立は無產階級の政治力を分散し、ブルジョアの利益にのみ奉仕する結果を生ずる。結黨の長びくにつれ、眞面目に働いてきた人々が氣を腐らせることには充分同情するが、重なり来る困難に屈せず、最初の方針通り單一政黨に向つて進むことが各人の任務である。

五

三五

やゝ漠然たる用語であるが、この際、各團體内の正義派が起つことが甚だ必要である。勞農大衆の政治的團結といふ大義名分によつて集中する正義派が起つて、右翼左翼の争ひといふ形をとつた、從來の複雑な事情を超越し、若くは芥除して、來る十三日の會合を圓滿に終らしめることに力め、一日も速く結黨を實現さすべきである。

ブルジョアは武器を研いでゐる。その攻勢は統一化しつゝある。無産階級は速かに政治的經濟的闘争の陣營を整頓してこれに對抗せねばならぬ！

一九二六・二・六（土）第十四號

如何にして惡法反對運動を續行するか

——今後の運動の具體方針——

一

去る七日、わが勞働階級は全國各地で惡法反對の盛んな示威運動を行つた。その利目は今までのどの示威運動よりも大きかつた。ブルジョア殊にブルジョア議員はこれを見て恐怖した。即ち翌八日に争議調停法案が上程された時には、彼等議員が勞働階級の政治的なる力の勃興を見て不安と恐怖に襲はれてゐる有様がありく／＼と見えた。殊に「惡法賛成の議員は勞働階級の敵として永久に再選せざるを期す」と云ふ、決議文中の一句はギクリと彼等にこたへたらしい。

勞働組合法案も直に議會に上提される筈である。我々は愈々以て反對運動を大きく、強く、勇敢に

組織せねばならぬ。

二

先づ我々の頭に直に浮ぶことは、惡法反對の示威運動をもう一度やるといふ事である。經費の點などから相應の困難があらうが、苟くも勞働組合の生存に關する事柄であるからには、惡法を葬る上に最も有效な手段たる示威運動をせむもう一度やるべきである。

既成政黨は普通選挙によつて行はれる總選挙に何等の自信を有しない。されば今期議會に對する示威運動は以前のどの示威運動よりも有効である。

三

議會に對する運動方法としては、勞働階級の代表者が議會を訪問して決議文を突付けることは昨年の治維法反對運動にも行はれた方法であるが、各地の勞働組合團體が今年も此方法をとることは甚だ重要である。

議會に對して決議文や宣言を突き付けるのみならず、議會に向つて公開狀を發することは、一般大衆を啓蒙する上に有效な新手段である。

更に新しい方法として本紙が提唱し度く思ふことは、議會内の委員會——例へば組合法案について出來てゐる議會内の委員會——に代表者を差し向ける事である。此方法は「パブリック、ヒアリング」と稱し、アメリカの議會で行はれてゐる所である。我々はそこで徹底的に反對意思を表明し、抗

講することができる。

三八

四

次に議員に對しては、例へば清瀬一郎君の如き議會内の急進ブルジョア代議士を動かし議會の演壇より反對意思を表明して貰ふ方法はモツと積極的に行ふべきである。各地の労働團體が其地方選出の代議士に向つて、悪法に賛成すれば永久に再選しないことを通告し、且つこれを實行すべきである。

五

ブルジョア政黨同志の敵對關係を適當に利用することも有效である。例へば反動主義の巨頭たる小川平吉輩を首領として、内實労働者を敵とする純ブルジョアには外ならないがしかも憲政會憎さの餘り、労働組合法案に反對しようとしてゐる。労働階級が少しも損をしない範圍に於て、この種の敵對關係を利用して差支へない。

六

政府が農労働を禁止した後、少しも反抗運動が起らなかつた爲め政府やブルジョアは大いに労働者農民をなめてかゝりタカをくゝつたのであつた。無産階級は自己の生存を脅かす悪法案に向つて徹底的に反對せねばならぬ。そして此反對運動を全國的に敢行せねばならぬ。

一九二六・二・一三(土)第十五號

九州の無産大衆諸君に訴ふ

——本紙九州版發行に際して——

一

尊敬する九州の無産者諸君！

諸君の労働し奮闘して居られる九州は、日本の資本主義の最も重要な地盤であり、日本の重工業の最も大きい根據地である。福岡其他の諸縣に散在する大炭坑、八幡市に巨人の如く頑張つてゐる製鐵所、長崎の諸造船所や佐世保の海軍工廠、等、等、數ふるに遑がない。さればこそ、彼等が諸君に加ふる壓迫は激烈無比である。

九州の無産者運動は大正八年頃より湧然として起つた。八幡製鐵所の大ストライキの記憶は九州のすべての労働者の胸に深く残つてゐるであらう。それより續々起つた團體は、痛烈なる資本家の逆襲を受け、幾度となく打ち潰された。これらの先驅者の受けた迫害は限りなかつたが、棍棒の雨に抗して無産階級のために奮闘した其功績は燦として輝いてゐる。

二

今や九州の無産者運動は再び新しき春にめぐりあひつゝある。

見よ、總同盟九州聯合會は幾多の團體を新に吸収して其陣容を擴大した。同志會は最大の會員を擁

三九

して階級的團體の色彩を次第に鮮明にしつゝある。苦闘に屈せず、鑛夫組合は強き命脈を保つてゐる。農民の組織せられてゐることは、日本の他地方を遙に抜いてゐる。水平社は次第に無産者運動の特色を明かにしつゝ、全國の水平運動に重きをなしてゐる。青年運動の炬火も既に高く掲げられた。労働婦人も既に組織せられ始めた。

更に政治運動に至つては、九州協議會、福岡縣協議會、民憲黨の運動等、全國他地方のプロレタリア運動と歩調を合せつゝ、勇進してゐる。

新しき春は既に九州の無産者運動を見舞つた。こゝに強い運動方針が確定したならば、その統一的な目ざましい發展は期して待つことができる。

三

無産者運動にとつて最も大切なことは組織問題である。無産者は組織によりて闘争を學び、また日常生活を向上するのである。無組織労働大衆の組織といふことは、何れの地方よりも九州に於て重要である。九州には組織の傳統が淺い。それ故、日本の他地方に存してゐる傳統的な弊害は容易に免れ得るのである。九州の労働者諸君は産業別體型の原則に立つた運動の模範を作り上げべきである。

労働者と農民との握手といふことも容易に實現せられる可能性が存してゐる。

九州の無産者團體——すべての労働組合、農民組合、水平社、青年團體、婦人労働團體等——を結合する一の地方的總聯合は、九州全體の運動を促進する上に缺くべからざるものである。既に計畫せられてゐる九州労働者代表會議が一日も早く實現することを希望してやまない。

政治的方面について言へば、各縣毎に個人を單位とするか、若くは個人加盟を承認する單一無産政黨期成同盟會を作り、各地方の政治戦を統制すると共に、全國的政黨の完成のために出來得る限りの力をつくすべきである。

四

九州の労働大衆は決して全國的精神を失つてはならない。地方的精神、利己的精神は我が無産階級運動にとつて最も卑むべきものである。九州の労働大衆は、全國的精神の下に、全國のプロレタリア運動の先驅者たる意気込みを持つて居なくてはならぬ。

九州の過去の運動にはハッキリした階級精神が流れてゐる。この純潔をいつまでも失つてはならぬ。強き精神を以て階級戦の戰場に勇ましく闘争せよ。

五

我が無産者新聞は全國無産階級のための機關、その解放のための一大武器たらんことを期し、創刊以來この目的のために戦つてきた。多大の壓迫と戦ひつゝある九州の兄弟姉妹のために、こゝに九州版を發行し得るに至つたことは我等の多大の喜びである。ブルジョア新聞が黙殺するか隠蔽するかしてゐる諸々の事實を明かに無産階級の前に提供することは我々の任務である。我々は今後、出來得る限り、月一回九州版を刊行して心から諸君の闘争の援兵たらんことを期する。

無産者新聞は無産階級の武器である。わが九州版は九州労働大衆の武器である。諸君は心おきなく

これを援助し支持し、利用せよ！我々の本懐はそこに存してゐる。

四二

一九二六・二・一三(土)號外九州版

大衆言論機關の立場を闡明す

——無産者新聞は労働者農民自身のものである！——

一

本紙は三面所載の如く、この度本紙に對する讀者諸君のあらゆる——道德的經濟的の——援助を積極的に請ふこととした。アメリカ、イギリスの週刊又は日刊の無産階級新聞は一年數回、紙面の一面全部を割いて讀者に訴へその支持を確立することにしてゐる。本紙の試みはこれにならふたものであるが時にこの機會に吾無産者新聞が創刊以來急速の發展をしたことを諸君に告げ、本紙の任務をこゝに再び反省し、同時にまた本紙に對する二三の卑劣な流言を正しておきたい。

二

わが無産者新聞の創刊はたしかにブルジョア階級に一つの脅威を與へた。我々は創刊以來、忠實な階級的立場、忠實な大衆的立場、また何物にも怖れない進歩的立場をとつて戦つたきた。我々は忌憚なくブルジョア新聞の虚偽をあばき、無産階級に對するブルジョアの諸々の陰謀をあばいてきた。我々は無産階級戦線の統一——例へば單一政黨、労働組合總聯合、労働者と農

民との握手等々の問題——のためにあらゆる努力をさしつけた。この戦線統一のためには批評の筆も差し控へたこともある。我々は農村や工場の日常闘争については其闘争の武器となり、其手足となつて働いた。

我々は階級的立場に立つ。我々は大衆的立場に立つ。我々は進歩的立場に立つ。我々の敵はブルジョアであり、我々の味方、否、我々の奉仕するものは無産階級である。

本紙はいつでもこの立場を嚴守する。我々は以上の原則の命ずる所に従つて、戦ひの生活を送る。

三

創刊以來、本紙に對して卑劣なる流言を放つたものがあつた。それは本紙を以て『左翼派の機關紙』『社會主義の新聞』甚だしきに至つては『共產黨の機關紙』といふが如き惡辣なものであつた。

かくの如き流言は、無産階級の分裂を何より翼ふブルジョアの利益と完全に一致するものであり、近時流行の分裂政策の一つの現れである。

しかし本紙のこれまでの實質的發展は、既にこれらの流言の大部分を撲滅した。

我々は讀者諸君がかゝる卑劣な流言と敢然戦ふことを希ふ。

四

本紙は既に幼年より少年に生長した。我々は活氣溢るゝ壯年の日刊新聞へ一日も早く生長せねばならぬ！

四三

我々は既に三萬人の固定讀者を獲得した。我々はメーデーまでに五萬人、今年中に十萬人の讀者を獲得する意氣で進む！

プロレタリア新聞は、編輯も財政もプロレタリア的に經營されねばならぬ！

無産者新聞はプロレタリア運動のあらゆる方面の武器となり、燈明臺となり、手足とならねばならぬ！

本紙の發展は一に無産大衆諸君の道德的經濟的支持に依る。讀者諸君の熱烈なる援助を深く希ふ。

一九二六・二・二〇（土）第十六號

第二次無産政黨創立委員會の任務

——一時も早く結黨を濟ませ直ちに活動を開始せよ！——

無産政黨の結成は、客觀的には日本現在の無産階級の最も大きい歴史的必要物であり、主觀的には全勞働者農民大衆の當面の最も大きい欲求である。

最初、無産政黨はスラストラと出来あがる筈であつた。しかし中途より故障が續出した。日本の無産階級は堪へ難きことをも忍び、この間に貴重な教訓を學んだ。

今や各大衆團體の歩調は再び整ひ、來る三月三四兩日創立委員會を開いて、綱領規約を審議し結黨に向つて猛進することとなつたのは別項の如くである。本紙は全無産大衆の聲を代表して此會合が成

功を以て終ることを心より祈る。

二

總同盟が参加するかどうか、無産大衆は憂ひを以て眺めてゐる。我々は總同盟が階級的共同といふ見地からして、進んで参加することを希望する。今回の委員會は總同盟参加せずとも結黨する決心であると思受けられる。結黨はいつまでも引のばす譯にゆかないのであるから、委員會がこの決心をもつことは或は己むを得ないであらう。だが無産階級の全般的輿論の如く、來るべき無産政黨は階級的大衆黨でなければならぬ。總同盟が参加しないとすれば、總同盟内の大衆は必ず失望と不満とを感ずるのであらうし、黨としても總同盟内の組織大衆を自己の陣列内に参加せしめないことは損失である。この故に、來るべき創立委員會に總同盟も深く参加することを希望する。たと風説の如く、評議會の會員は一人も入れない、農民組合の急進分子も入れない、といふような提案を萬一、總同盟がやるならば、損失は總同盟のみに歸するであらうと想像される。階級的な立場から参加することが必要であらう。

三

創立委員はできるだけ速かに綱領規約の審議を終り、具體的な結黨をなすことが必要である。綱領も規約も既に其可能な範圍が略々明かになつてゐるのであるから、多くの論議を費す必要はない。たと注意すべきことは申合せだけで済むが如き事項を規約に明記するが如き愚を演じてはならぬ。現在の狀勢から己むを得ずと認められる事柄は申合せだけやればすむのであつて、これを規約に明記

などすることは不必要である。

四

むしろ大切なことは、一時も早く結黨を済ませ新しい政黨として直に活動を開始することである。新しい無産政黨の最も大切な、そして即刻開始せねばならぬものは宣傳的仕事及び組織的仕事である。宣傳も組織も實際的活動を通じて行ふべきである。例へば新政黨が直に労働組合法案反對の如き仕事を組織的且つ大規模に初めるならば、無産大衆は新政黨の威力を直に呑み込めるであらう。又地方協議會を黨の支部として完成するが如き重大な仕事もある。我無産政黨の仕事は他日、これを論ずる。今は創立委員會の努力の成功をひたすら祈る次第である。

一九二六・三・一(月)第十七號

労働農民黨の成立

——その教訓と當面の任務

飽くまで共同戦線を重んぜよ——

一

無産政黨は激しい生みの苦しみを経て漸く誕生した。本紙は先づこれに對して衷心の祝意を表すると共に、此の多難であつた歴史的大事業に終始一貫奮闘せられた各團體とその代表者とに對し滿腔の感謝を捧げる者である。

二

顧みれば昨年八月、日本農民組合の提唱により無産政黨組織準備委員會が設置されてから今日の結黨に至るまで、我が單一無産政黨建設の途には實に幾多の難關があつた。これは日本労働總同盟の脱退聲明、組合評議會の勇退、續いて政府の農民労働黨禁止に至つて頂點に達した。然しながら單一の政治的共同戦線は現下に於ける無産大衆の絶對的必要であつて、政府の彈壓も一部労働運動指導者の逡巡遲疑も終に此の要求を葬り去る事はできなかつた。第二次無産政黨懇談會にも尙一沫の暗影が漂つたとは云へ、結局これを一蹴して今日労働農民黨の成立を見るに至つたのは誠に當然である。

三

今回の結黨運動は我國無産階級によつて未曾有の大教訓を與へた。それは労働者農民が資本家政府に「諒解」を求めなければならぬと云ふ事でもなく、無産階級の一部を(左翼にしろ右翼にしろ)除外せねばならぬと云ふ事でもなく、却て反對に、無産階級は一つの階級として獨立した勢力に結束しブルジョア政府及政黨と抗争すると共に、味方の陣營は飽くまで協同を保ち分裂を防がねばならぬと云ふ事だ。治安維持法にせよ、労働組合法にせよ、又農民労働黨の禁止にせよ、何れも全労働大衆を壓伏せんとする資本家地主階級の總攻撃であつて、我が無産階級が此の形勢を前にして、右翼だとか左翼だとか言つて分れるべき時でない事は明かではないか。

四

今次の労働農民黨組織に當つて總同盟幹部から提議される筈であつた所謂「共產系」除外案が終に撤回を見るに至つたのは至當の事である。所謂左翼派を一齊に排斥すると云ふが如きは、右翼派を除外すると云ふと同様、無産政黨の自殺的行爲以外の何物でもない。大衆の要求する所は何よりも階級的共同戦線である。労働農民黨は今後飽くまで単一大衆黨の精神と基礎とを確守し、苟めにも自ら求めて分裂の危険に陥るが如き事は絶対に避けんことを切望する。

五

労働農民黨は成立したが、眞の建設事業は今後に残されてある。先づ從來の地方協議會又は重要無産團體をして早速黨支部を設立せしめる事だ。今後の黨は個人單位だから支部も勿論個人單位でなければならぬが、その設立に當つても、その活動に當つても、地方各無産團體が極力歩調を合せて働くことが最も必要である。各團體の所屬者は進んで入黨すると共に、廣く黨の宣傳を行はねばならぬ。労働農民黨は何よりも日常政治闘争の武器である。従つて即時に無産大衆の共通切實の題目を以て政治戦を開始すべきだ。此の實際の闘争によつて初めて黨は強固となることができる。

労働者農民の大衆は擧つて労働農民黨を支持せよ！
単一の政治的共同戦線を確立せよ！
労働農民黨萬歳！

一九二六・三・六（土）第十八號

労働農民黨へ要望す

——入黨の制限を撤廢して眞に大衆のものとなせよ——

労働農民黨の創立は我が無産階級運動に最大最強の城壘を築いたもので、これに衷心の歡喜を感じるは我々無産者の特權である。けれども同時に此の大切な創業期に當つて、過去一切の經驗を批判し且つ黨將來の發達のために緊切な要求を提示するは我々の當然の義務である。

二

労働農民黨は絶大の困難と闘つて可成りの制限を受けて生れ出たものである。これは宣言、綱領組織の到る處に現はれてゐるが、その著しい一つは結黨直後に決議された入黨勸誘制限だ。勿論これは次回中央委員會までの假取極めでその時を以て必ず解除さるべきものと信するが、又それまでの一時的制限はやむを得ざる事情にある事をも認めるが、最も肝腎な點は何故に黨が斯かる大損失を蒙らざるを得ない立場に置かれたかといふ點である。資本家政府の壓迫は敵として寧ろ當然でその眞の理由とするに足らない。それは實に無産階級の共同戦線そのものゝ内部に於ける悲しむべき怠業者があつた結果であつて、これは今日最早や蔽ふべからざる事實として公然大衆の前に暴露されてゐる。我々が今敢てこれを言ふのは、單に過去の彼等の行動を責めんがためではなく、我々無産大衆が政府の彈壓と

共に此の事實を銘記して今後の警めとせんがためである。

三

労働農民黨は一切の既成ブルジョア政黨を向ふに廻して戦ふだけの覺悟と實力とがなければならぬ。かかる強大な黨として發達するに必要かくべからざる事は、第一、現實に大衆を包容すること、第二、實際の行動に訴へること、第三、階級的精神を確守することである。黨を眞に大衆黨たらしめるには先づ入黨制限を撤廢することだ。現在の十一團體以外の多數無産團體所屬者をすべて國外に放置する事の危険と損失は言ふまでもない。殊に最初から無産政黨樹立のために熱心に働き、而もその間何等階級的裏切りを犯した事のない評議會、水平社、政研、青年同盟等に對しては能ふ限り速かに入黨の途を開き、全體の運動上絶對にやむを得ざる極く少數の者に限り自發的に一時入黨を差控へしむるに止むべきである。更に團體に屬せざる尨大な無産分子を極力包容する事は、組織率の低い我國では非常に重要である。

黨が自ら入黨制限を設ける如きは、大衆の要望と期待に背くこと甚だしきもので、無産階級の一大損失である。労働農民黨は一日も早く此の損失を回復しなければならぬ。

四

労働農民黨が大衆を獲得する方法は言葉の上の約束ではなくて、實際の行動である。大衆の現實當面の政治的要求のために、ブルジョア政府及び政黨と不斷に闘争する事である。これが爲には全國各

支部の盛んな活動と、各無産團體の共同動作とが何より肝要だ。

最後に、階級的精神の確守は労働農民黨の生命でなくてはならぬ。支配階級の毒牙が無産政黨の骨髓に喰ひ込んだ實例は、先進諸國でイヤといふ程見せつけられてゐる。

大衆の意思を最も強く反映せしむる民主的組織は、階級的指導精神の維持發展のために最も必要である。

労働農民黨は大衆自身のものである！

一九二六・三・一三 第十九號

共同戦線完成のために労働組合會議へ

——總聯合準備協議會の緊要——

一

先日京都に開催された日本農民組合大會には、全國労働組合農民組合總聯合組織準備協議會設置の件が提案された。農民大衆の間には意識的無意識的に労働者との提携の要求が高まつて居り、大會の空氣も非常な熱心を以て右の提案を支持する形勢があつたにも拘はらず、提案説明者が建議案委員の決定を無視して、労働組合總聯合提唱の件と改變して提案し且つその説明が徒らに矯激に走つたため、充分の討議を爲さずして、「總聯合を希望する」といふ程度で中央委員會に一任となり、總聯合準備會の具體化を少しでも遅らせる結果となつたことは、返す返すも遺憾であつた。けれども労働總聯合運動の第一歩は確に踏み出されたのである。この點に於て今回の農民大會は矢張り大なる功績を残

したと稱せざるを得ない。

五二

二

労働者と農民の提携は、今日まで既に一再ならず労働組合大會等で決議されてゐる。然しそれはまだ漠然たる要求を漠然たる觀念で現はしたものに過ぎなかつた。大切な事は此の要求を實際に組織化することだ。我國では労働組合の總聯合さへ中々容易でない現狀にあるが、これを促進する有力な一勢力たるものは農民組合である。第一に、農民組合が労働黨組織運動の中心となつた事實に見ても明かな如く、封建的殘存勢力に對する闘争が無産階級當面の重要任務である我國では、廣大な農民大衆があらゆる方面で極めて大きな役割を演ずるのは自然だからである。第二には農民自身がその日常の經濟的政治的闘争に於て、その組織上教育上の活動において、都市の進歩した近代的労働者の援助と指導とを必要とするからである。

三

では全國労働組合の總聯合は果して可能だらうか。然り、可能も可能、大可能である。世には労働者と農民とは結局利害が一致しないと力説する者があるが、兩者は決して敵同志でないばかりでなく、經濟上でも資本家と地主とを一つの敵として共同戦線を張らねばならぬ現實の大問題が非常に多い米價の騰貴でさへ、小作農や小自作農には不利なのが實際だ。封建的舊慣、軍國主義の負擔、種々の暴壓法令等に對する労働者農民の利害共通は此上なく明白である。殊に、資本家と地主が金融關係によ

り密接に結合して一致した勢力を成してゐる今日に於ては、労働者と農民との一致團結の威力によりなければ敵の力を弱めることは絶対に不可能なのだ。

四

労働總聯合、即ち労働組合會議は如何にして組織するか。先づ農民組合大會に提案された如く、その準備協議會を設立する事だ。これがためには(一)各労働組合農民組合でその必要と意義とを宣傳し、その設立を決議すると共に、(二)既に大阪組合會議が決定した全國的労働組合會議の運動を擴大し、更に農民組合と提携して労働組合會議準備協議會の組織に推し進むべきだ。同時に(三)在來の地方協議會(實際上の地方的労働組合會議)の如きものが地方的に同様の運動を進めねばならぬ。更に、(四)新生の労働黨が全國的にも地方的にも此の運動を促進する事は極めて緊要な仕事である。

五

労働組合會議の効果は殆んど無限に廣大だが、その當面主要なものだけを擧げて見ても(一)労働の經濟的闘争力の強大化(二)未組織大衆の組織促進(三)反動勢力(ファシズム)に對する闘争力の組織(四)労働黨の政治的闘争に對する廣大な支持(五)消費組合運動發達の促進等がある。労働農民黨を組織した我が労働組合は、更に此の労働組合會議に向つて準備を進めなければならぬ。労働者農民の政治的及び經濟的共同戦線の完成は我々の最大の力であらう。

勞農黨分裂政策は大衆の意志を蹂躪するもの

——總同盟幹部の猛省を促す——

一

日本勞働總同盟中央委員會は去る十八日、勞働農民黨に對する態度につき協議の結果、「總同盟組合員は同黨に参加する」ことに決定した。更に聞くところによれば、總同盟は今後黨の中央部だけでなく地方支部にも力を入れることに申し合せたとのことである。

これだけで見れば、總同盟幹部諸君が從來無產政黨運動に對して採つて來た一見消極的な方針が非常に積極的な方針に改められたかの如くであつて、勞働農民黨のために、又全無產階級のために、大いに慶賀すべきことのやうに思はれる。然しながら我々は總同盟幹部諸君の「積極的な方針」の神髓が果して何處にあるかを見て、多大の失望を感ずると同時に此際強く總同盟幹部諸君の反省を促さざるを得ない。

二

勞働農民黨のために積極的に力を入れるといふ事は、同黨になるべく多くの大衆を引入れ、強大な政治的共同戦線を形づくる事に努力することだと我々は考へてゐる。自分の指導の下にある組合員は積極的に黨に参加させるが、その組合員と自分の氣に喰はない團體の所屬者との提携協力は積極的に

禁壓するといふのでは、無產階級政黨のために力を入れるのでなくて、その政黨に對する個人的支配のために力を入れるのだと疑はれても仕方がないではないか。此の疑ひは總同盟中央委員會の二日後、二十日に開かれた總同盟關東同盟理事會の決定によつて愈々事實となつた。

三

即ち同盟理事會では關東同盟所屬組合員が勞農黨の支部又は支部準備會を組織するに當つて、組合評議會、舊政治研究會、水平社無產者同盟、無產青年同盟、無產者新聞、産業勞働調査所の六團體に屬するもの、その他「共產黨に好意を有すると認め得らるゝもの」と協同してやつてはならぬと決定したのである。實に用意周到な積極的態度！これが果して大衆の要求だらうか。總同盟一般組合員の要求だらうか。否明かにその眞の要求を壓迫するものだ。かういふ處置が資本家官憲以外に總同盟幹部諸君の手で行はれるとは驚き入つた話である。彼等の極力排斥する評議會、政研等でも總同盟組合員との提携を拒絶したことがあるか。否、寧ろ熱心にその提携を求めてゐるではないか。勞働農民黨に於ける共同戦線を妨害し、黨分裂の種をまかんとするは、全く大衆の意志と要求を蹂躪するものである。

四

總同盟幹部諸君が眞に積極的に強大な勞働農民黨の發達に努力することを證明するためには關東同盟理事會の決定を取消すことが絶対に必要である。右の決定は、異常な生みの苦しみを經て漸く成立した勞働農民黨の内部にやがて對立分裂の勢ひを作り出すとするもので、かくの如きは勞働農民黨

にとつて大なる不幸であるばかりでなく、總同盟三萬の組合員に對しても大なる罪惡である。中央委員會で今後の政黨對策を一任された總同盟政治部は、總同盟自身のためには關東同盟の政策を翻へさせねばならぬ。大衆は不斷に諸君を監視してゐる！

一九二六・三・二七 第二十一號

階級戦線を壊廢する右翼幹部の分裂政策

— 勞農大衆は飽くまで共同戦線を支持せよ —

一

日本農民組合の分裂は、たゞに我農民運動にとつて遺憾であるばかりでなく、實に全無産階級運動の見地から見ても一大痛恨事である。今日の分裂は、組合員七萬を有する日本農民組合より僅四千の山梨聯合會が脱退した丈けであるから數から言へばさほど問題とするには足りないが、眞の問題はもつと根底にある。それは言ふまでもなく右翼幹部の分裂政策だ。ある人々は無産階級の陣營の分裂は右翼にも責任があるが、左翼にも同じく責任がある。少くとも左翼が少し自重すれば分裂を防ぐことが出来ると云ふがこれは、左翼と云ふものゝ眞性質を誤つて、たゞ言葉の上だけの『革命家』に過ぎない極左翼小兒病と混同すると同時に、右翼といふものゝ性質も正しく理解せず、日和見主義者の分裂政策を偶然のものと思へ、その必然性を全く度外視する結果に外ならない。

二

農民組合の分裂を總同盟の分裂と比較すると、先づ第一に分裂の形式が正反對な事が目につく。即ち總同盟の場合は右翼幹部が左翼をむりやりに追ひ出したのだが、農民組合では右翼幹部が自ら脱退を敢行したのだ。然しながらこれは決して根本的の差ではない。根本的に見れば、この二つの分裂は何れも右翼の分裂主義から出たものである事に於いて全然同一である。たゞ農民組合の場合は、まだ總同盟の場合ほど左右兩翼が成熟せず、従つて農民組合の内部だけでは右翼幹部の勢力も微弱であるに拘らず、右翼全體の組織的分裂政策に支配されて、少數右翼幹部が自己の地盤内の少數組合員だけを率ゐて脱退するに至つたのである。

三

山梨聯合會の脱退聲明書を見ると、脱退の理由は「矯激なる、空論を弄ぶ極左傾青年分子」が「農民運動を毒しつゝある」と言ふのであるが、たとへさういふ分子があつてもそれは組合内で征服されつゝあるではないか。右翼幹部が「極左翼」を云々するのは實は彼等が自ら脱退したり戦闘的分子を追ひ出したりするための單なる口實に過ぎない。そして彼等が斯くも思ひ切つた分裂政策をとるのは左翼と一しよには無産大衆の階級闘争を進めることができないからではなく、その正反對に階級闘争を進めることを欲しないからである。

四

右翼日和見幹部の分裂政策と協同戦線妨害とは決して何かの「理解」とか「違ひ」とかで説明されるものでない。それは支配階級が大衆の反抗と闘争とを壓伏せんとする一つの手段で帝國主義時代に於ける歴史的必然の現象である。我々はこれを避けることは絶対にできない。我々にできることはただこれと戦つてこれを征服するばかりだ。而して右翼幹部の分裂政策に對抗する方法は、飽くまで階級的協同戦線を固める外にない。協同戦線は決して右翼日和見主義との妥協で出来るものではなく、たゞ大衆的闘争によつてのみ出来る。これが眞の左翼の任務である。右翼の分裂政策を避けんがために左翼の組織と活動とを放棄せんとするは、明かに空想的左翼であり、實質的右翼である。

右翼日和見幹部の分裂政策を葬れ！

勞農組合及び勞農黨に對する分裂の陰謀を征服せよ！

勞農總聯合と單一勞農政黨とのために飽くまで戦へ！

一九二六・四・三 第二十二號

敵の分裂政策と組合總聯合の必要

——最近の争議より學べ——

目下争議中の京成電車罷業は、種々の點に於て、最近勞資闘争の特色をよく現はしてゐる。第一に争議勃發の原因は會社側が闘争的勞働組合（市電自治會支部）をぶつつぶさんがためであつた。第二に

に純然たる御用組合（親和會）を作つて争議團に對抗した（親和會員には賃銀七割増し）。第三に暴力團を組織した（日當五圓を給して）。第四に官憲の力を最も露骨に使用して勞働者を壓迫した。此等はすべて資本案側の反動的攻勢を示すものである。これに對して勞働者側は争議團の結束に努めるは勿論、他の勞働團體（殊に關東組合會議）の後援、勞働者以外の一般民衆（沿線住民）の同情等を得て、極力奮闘してゐるとはいへ、その陣容は、必死の勢ひで狂暴を逞しくする資本案と對抗するには、まだ餘りに貧弱だと言はなければならぬ。

二

今日の如く勞働階級の生活條件が益々低下する時代には、單に少數の前衛的勞働者だけでなく、老大な勞働大衆が搾取者に對して闘争するに至るのは、實にのつびきならぬ必然の勢ひである。戰闘的勞働組合が益々戰闘的となり、協同的組合も戰闘的組合と化し日和見主義幹部に率ゐられた組合の勞働者も雇主の暴虐に對して騒起するのは是が爲である。此時資本案側は何よりも勞働者自身の闘争的組織（組合）のぶつ潰しに全力をあける。京成電車の社長が「二十五錢しか持たなかつた元の木阿彌となるまで自治會と争つて見せる」と放言したのはまんざら冗談ではないのだ。先の共同印刷大争議も資本案側の同じ決心から出たものであることは周知の事實である。さればこそ、電車の運轉ができやうができまいが、多くの雜誌其他の出版物が停らうが社會が半潰れにならうが、彼等はそんな事に頓着なく、多數の組合員を一まとめに解雇して平氣でゐるのである。

だが資本家は闘争的組合を叩き潰すだけで満足しない。否、これを叩き潰すためにも純然たる御用組合なり協調的組合なりを作らなければやり切れなくなつた。また争議に當つて資本家が殆んど例外なしに暴力團を雇入れるのも、警察が極度の壓迫を争議團に加へるのも、最近特に著しい現象である。資本家が單に同産業の結合だけで満足せず、全體としてブルジョア政黨及び政府に結成して労働者の鎮壓に當ることも、我々の既に充分経験した事だが、今後愈々露骨となるに違ひない。而も此等すべて資本家の闘争手段は、労働階級の内部に彼等の分裂政策を施すことによつて最も大きな效力を發揮することが出来る。これは最近多くの争議で労働者側が味方の陣營分裂のために如何に餘分の損害を被つたかを見れば、直にわかることだ。(川崎富士紡争議を見よ)

四

我々は斯くの如き最近の労働争議から見ても、(一)反動的労働幹部の分裂政策を排して飽くまで組合總聯合の組織を進めること(二)農民組合も此れに入れること(小坂争議を見よ)(三)労働黨を強大にすること、(四)消費組合の發達をはかり、これを労働組合及び労働黨の闘争に結合すること(共同印刷争議では消費組合聯盟から金、米を以て應援した)等の必要が益々切迫してゐることを痛感せざるを得ない。

一九二六・四・一〇 第二十三號

労働黨の門戸解放

——階級的正義のために中央委員會へ希望す——

一

労働農民黨は結黨後すでに四十餘日を経過したが、この間、入黨は著しく制限せられ、支部設立は差控へられ、黨としての活動は何等見るべきものがなかつた。これは労働黨の當面する絶大の難關——支配階級の強壓と、右翼幹部の裏切りの策動——に對する消極的抵抗の必要上、或程度まではやむを得ない事であつたかも知れぬ。けれども此れ以上かかる消極的態度を持續して、黨の組織と活動を遷延することは、第一、労働大衆の切實なる政治的要求に背くものであり、(中央並に地方選挙戦、悪法及悪税反對運動等)、第二、却てブルジョアの侵襲と反動的労働首領の攪亂策とに乗せられるゆゑんである。(既に總同盟の所謂共產系排斥決議、日本農民組合山梨聯合會の脱退及びこれに伴ふ農民黨樹立計畫等は此の事態を證明してゐる)

二

四月十八日に開催さるゝ労働黨第二回中央委員會はかくの如き形勢を前にして、非常に重大な責務を負ふてゐる。先づ第一には、労働黨の門戸を解放する事で、これは階級的正義のために、あらゆる障碍を排して必ず斷行されなければならぬ。かねて總同盟の一幹部諸君が主張するが如き團體的除

外は勿論たとへ個人的制限にしても、官憲同様のブラックリスト作製の如きは無産階級の共同戦線を賣り、自ら求めて敵の衝中に陥るもので實に労働農民黨の一大恥辱である。今回の中央委員會は、團體所屬者と否とを問はず一切の無産分子に對して入黨の途を開く義務がある。

三

第二には、即時組織的な宣傳を開始すると共に、地方支部の設立を促進することだ。結黨以來の入黨者の案外に少數なのは、入黨勧誘範圍が局限されてゐたためのみでなく、單に勧誘といふ程度以上に少しも組織的宣傳のなかつた結果であらう。地方支部は言ふまでもなく労働農民黨の一切の活動力の根源で、それなしには本部も存立し得ないわけだから、しかも實際多くの地方では既に支部準備團體が出来てゐて、たとへ入黨制限の撤廢を待つのみなのだから、今回の中央委員會は門戶解放を聲明すると同時に、即時此等地方支部の設立を承認、若くは促進する手段をとるべきである。尙労働農民黨支部は地方の政治的共同戦線を體現すべきで、かの總同盟關東同盟理事會の決議のやうに支部に於ける他團體所屬者との協力を禁ずるが如きは、嚴に戒めなければならない。

四

最後に、而も最も重要な事だが、今回の中央執行委員會は、直に中央及地方に於ける大衆的日常闘争を組織する仕事にとりかゝらなければならぬ。殊に選挙運動の準備とその統制とは極度に重要である。これがためにはそれぞれの専門部を早く設置する必要がある。又此等の黨活動に缺くべからざる

資金の調達並に會計についても、今回の中央委員會は最も嚴格な方策をたてなければならぬ。以上すべて、労働農民黨の存亡興廢に關する緊急の要點で、四月十八日の中央執行委員會はこれが解決に逡巡せざらんことを切望する。

一九二六・四・一七 第二十四號

労働農民黨に對する謂ゆる左翼の態度

——指導者は暫く入黨を控え大衆的結合の安定を計れ——

一

去る十八、十九兩日の労働農民黨中央執行委員會は、當面最大の難關と目されてゐた入黨資格問題につき、討議の結果、原則として門戶解放を認めるとともに黨の各機關で個人的に入黨者の資格を審査することに決した。然し右の決定は黨の基礎確立するまで所謂左傾四團體所屬を除外せんとする者八票に對し九票といふ際どい差を以て票決されたものであつて、此事實は労働農民黨に於ける共同戦線、精確に言へば共同戦線の輪廓がまだ極めてあぶない均衡を保つてゐるに過ぎないことを證明してゐる。

二

現在の労働農民黨が兎に角均衡を保つてゐて、今にも壊れさうで而も容易に壊れないのは、大衆の間に支配階級の攻勢に對する政治的共同戦線の強き要求があるからであるが、同時にそれが何時壊れるか知れない危険に絶えず襲はれてゐるのは、無産階級の陣營内、特にその指導者間に分裂があるからで

ある。勞農黨の基礎の確立とは、ブルジョアジーに對する大衆的共同戦線によつて、無産階級陣營内の分裂を克服する事である。四團體除外論者の中にも、これが黨の基礎を確立するために必要な手段だと衷心より信じてゐる者も少なくないに相違ない。けれどもこれは明かに誤つた考へであつて、左翼の指導下にある大衆團體員と結合させて日常の政治闘争で統一的行動をとらしめる事こそ、黨の基礎を確立する唯一の方法なのである。

六四

三

だが勞農黨の内部の勢力均衡が前述の如く極度に不安定な状態にある以上、謂ゆる左翼四團體の指導者たちは最も慎重な態度をとらなければならぬ。即ち第一、顯著なる左翼指導者は少くとも次の黨全國大會までは自發的に入黨を遠慮すること。さきに所謂四團體代表者は勞農黨準備團體より勇退したのだが、此の勇退を必要とした事情は、まだまだ繼續して居るからである。第二、左翼指導者は入黨せる左翼團體所屬者をして左翼独自の政治的意見を強調せしめざるやう注意する事。嚴密に言へば現下の形勢の下では左翼の政治的立場は、左翼獨自と稱すべきものであるべきでなく一にブルジョアジーの侵襲に對する勞農大衆共通の闘争題目あるのみだからである。

四

然しながら第三、左翼指導者はその指導下にある大衆が積極的に勞農黨に加入するやう努力せねばならぬ。所謂左翼團體と目されてゐるものゝ所屬者をすべて黨の圏外に放置することは左翼にとつて

でなく、勞農黨そのものにとつて恐るべき損失であるからだ。但し左翼團體所屬の黨員が黨役員（支部でも）の地位をねらふが如きことは、固より極力押へなければならぬ。

五

第四、左翼黨員は勞農黨内部で中央派及び右翼の所屬黨員と充分に混合し統合してブルジョアジーに對する政治闘争（例へば議會解散請願運動、選挙運動、悪法悪税撤廃運動等）における共同戦線を完全に作り上げねばならぬ。左翼團體所屬者だけで黨支部を組織する事は絶対に避ける必要がある。選挙の立候補においても、右翼と對立することは是非とも控えねばならぬ。以上の四項目は、左翼が現下の勞農黨に對する最も重要な戦術であると同時に、その全無産階級に對して負ふべき重大な義務である。

一九二六・四・二四（土）第二十五號

メーデーと總聯合

——直ちに勞農戦線統一の具體的計畫に著手せよ——

本年のメーデーは、我國の無産階級にとつて今までにない大きな意義をもつたメーデーだ。何故といふに、第一には、本年は我々の唯一の政黨たる勞働農民黨の樹立された第一年だからであり、第二には、在來メーデーとは別に農民デーを祝つてゐた農民組合が今年から勞働組合と共にメーデーに參

加するに至つたからである。日本の労働者は初めてのメーデーを祝してより七年目に、無産階級の獨立した政黨を組織した『労働農民黨の支持』は本年の最も重要なメーデー標語の一であるがやがて労働農民黨がメーデーの全國的大示威運動を指揮するやうにならなければならぬ。農民のメーデー参加は労働農民黨の成立と相まつて無産階級運動が強大な威力を加へた證據だ。

二

だが本年のメーデーの最大の意義は、何といつても労働組合及農民組合の總聯合へ向つて斷乎たる行進をすることにある。昨年は、無産政黨の基礎を据るために異常な努力が拂はれた年であつた。本年は、全國労働團體の總聯合に全精力が集中されねばならぬ。労働組合總聯合は、四分五裂せる無産階級經濟戦線の統一のためのみでなく、生れたばかりの労働農民黨に廣大な支持を與へて、眞の單一大衆政黨たる活力を發揮せしめるためにも、實に現下の最大急務なのだ。『總聯合の促進』といふ言葉は別段新しい言葉ではないが、本年のメーデー標語として最も強い響きを以て訴へるのはこれがためだ。

三

從來我國の組織労働者は全體として極めて貧弱な上に、雑多な小組合に分割されてゐたためにどれだけ損をしたか知れない。そこで労働組合の産業別合同と並んで總聯合の運動が起つて來たのだが、此の時恰も、資本家側は一層強力な共同戦線を固めるとともに、御川組合の組織、日和見幹部の買収の手段を以て労働者の戦線切り崩しを開始した。戰闘的組合に對する彼等の分裂政策は、最近農民組

合にまで及んだ。労働大衆の間に組合總聯合の要求が高まりつゝある一方に於てその組合の中に分裂の作用が現れつゝあるのは、不思議のやうで不思議でないのだ。今日の日本では、労働組合總聯合の運動は、此の支配階級の分裂政策と頑強に戦ふことなくして進めることは決してできない。

四

本年のメーデーは労働者農民の結合の合圖であり、全國組合總聯合實現の第一歩である。既にメーデー一日の示威運動には、あらゆる労働組合の大衆が實際に一つとなつて参加してゐるではないか。一日だけのメーデーに結晶するものは、即ち労働組合を常住不斷のメーデー總聯合に結晶する。既に官憲はメーデーを現存組合別によらず、全體として取締つてゐるではないか。資本家地主の威力と對抗し得る威力はただ労働戦線の統一あるのみだ。本年の國際的労働祭を期して、我國の労働者農民は何よりも先づ國內戦線の統一を誓へ。メーデー以後各組合は直に全國總聯合の準備計畫を樹てよ。メーデー萬歳！ 労働者農民の團結萬歳！ 労働組合總聯合萬歳！ 一九二六・五・一（土）第二十六號

英國總罷業と我等の義務

——應援資金の募集と組合總聯合の促進——

一

今回イギリスに勃發した總同盟罷業は、その規模において歴史上最大のものであるばかりでなく、

その性質に於て勞資階級戦の端緒を開くものである。此の闘争は資本家の總勢力(政府)と勞働者の總勢力(組合會議)との對抗といふ形をとつて、單に經濟的意義のみならず、政治的意義をも帯びてゐるからだ。而して又、この總罷業はイギリス一國の階級戦に點火するものであるばかりでなく、全世界の階級闘争に大きな推進力を加へるものである。世界資本主義の一大支柱たるイギリスの勞資戦は必然に世界各国の勞資關係を震撼せしめないではやまぬからだ。

二

イギリスの勞働階級が此の總罷業に勝利を得ることは、そのまま直に彼等の政權獲得にはならないが支配階級の苦境を深め、勞働階級殊に左翼の組織を強め、従つて大衆を権力闘争へ前進させることは疑ふべくもない。これに反して此の總罷業の敗北は、統一されたるイギリス勞働階級の陣營を亂し更に長く彼等を反動的資本の重壓下につなぎ、チャーチルとポールドウイン、トーマスとマクドナルドをして尙暫く枕を高くせしめるであらう。かくの如きイギリス勞働階級の浮沈は、直接間接に世界被壓迫階級全體の浮沈である。

三

此の總同盟罷業が成功するかしないかは、主として、イギリスの勞働階級が日和見首領の裏切りに乗ぜられるか乗ぜられないかによつて決する。けれども世界の勞働者農民がイギリス罷業軍に對してどれだけの應援力を動員するかといふことも少からぬ關係を持つてゐることは明かで、此の應援は又

世界各国に於ける勞働官僚の公然又は陰然のサボタージュを征服することなくしては成功しない。日本の無産階級は、未曾有の大闘争を戦つてゐるイギリスの兄弟のために、全力をあげて資金募集運動を組織しなければならぬ。東京、大阪、神戸の各勞働組合會議を初め、各地方無産團體協議會、勞農黨支部準備會等は即時この運動を開始すると共に、すべての資金を敏速に集中することのできる一の全國的機關(全國勞農組合英國罷業後援委員會の如き)を創設する必要がある。

四

イギリスの勞働者が今日の如き強大な總罷業を起こすことができたのは、彼等が勞働會議といふ全國戦線の統一機關を持つてゐたからに外ならない。我國の勞働者農民が此の總罷業から先づ第一に學んだことは、一日も早く勞農組合總聯合の組織によつて全國的共同戦線を完成せねばならぬといふことである。イギリス罷業應援運動の全國化によつて、少しでも勞農總聯合の建設の氣運を促進することができたら、日本の無産階級は最もよくイギリス勞働者の奮闘に酬るたといはねばならぬ。イギリス總罷業を應援せよ！ 全國勞農組合委員會を起こし、資金募集運動を集中せよ！

一九二六・五・八(土) 第二十七號

八日間の階級戦

— 潰された英國總罷業の意義と教訓 —

一

イギリスの總同盟罷業は僅か八日間にしてつぶされた。首相ボールドウインは「常識の勝利」だと嘯き、労働黨首領マクドナルドも追従笑ひを以てこれに和してゐる。日本でも此の報道に接してホツと安堵の胸をなでおろしたのは單にブルジョアと政府だけでなく、和製のトーマスや和製のマクドナルド等が眞つ先に總罷業の崩壊に對して歡呼の聲をあけた。然しながら世界の無産階級は、イギリス炭坑夫の敗戦を自己の敗戦として感じ、イギリス労働者の損失を世界労働階級の損失として感ずるであらう。我々は此の時、更に進んでこの敗北の原因をたづね此の八日間の深い意義をつかまなければならぬ。

二

總罷業中止の簡單な電報だけで、全局面の進展を想像することはできない。けれどもイギリス労働者四百五十萬、殊に炭坑夫百萬の生死に拘はる大罷業が十日足らずで破滅したことが事實とすれば、それは單に政府の對戦準備が強大だからとだけで解釋されるものではなく、イギリス労働階級の陣營の間に大きな弱點が存するためであること、そしてその弱點の最大なるものは、労働官僚の日和見主義であることだけは、今度の場合に於ても、一九二一年の「闇の金曜日」の場合と殆んど同じ確實さを以て斷定することができる。そして又、我々は此の事を強く理解する必要があるのである。

三

我々が今回の總罷業で第一に學んだことは前號で述べた如く、労働者共同戦線の強大化の緊要であつた。然し我々が第二に學ばねばならなかつたことは、日和見主義者の裏切りに對する闘争の必要であること、日和見主義者は労働階級のものではなくて、無産階級を裏切る事を専門とする、ブルジョアジの代理人であること、彼等がかゝる大闘争に於いては労働階級をして勝たしめることを以て危険とし、これを支配階級との妥協に導くことのみを安全とするものである。そして彼等に對する闘争なくしては共同戦線の鞏固を望むことはできないのだ。

四

最後に我々は左翼組織化の不斷の必要であることを此の總罷業から多く學ぶであらう。イギリス労働階級の一九二一年と一九二六年との間には左翼の結成に於いて根本的の相違がある。それが同じ、(寧ろ一層進んだ)労働官僚の裏切りに拘らず、今年はたとへ八日間でも未曾有の大規模な總同盟罷業を執行することを得たわけである。炭坑夫は労働官僚の裏切りに對して一九二一年より遙かに強く闘ふだらう。大衆の不満と闘争とは、彼等の裏切りを経験するに比例して加速度的に擴大するであらう。

一九二六・五・一五(土日)第二十八號

我が國組合運動の進み行く道

——總聯合過程の歴史的考察——

七二

一 現在我が國の無産階級運動の當面の最大重要問題となつてゐるものは、大阪労働組合會議によつて提唱された全國組合會議組織の問題である。

この問題は勿論過去數年間に亘る我が國無産階級運動の永き懸案であつて、從來あらゆる組合の大會議等に於いてその促進に關する決議案は繰返し々々可決されてゐる。

しかもその實現が口で云ふ程容易に抄らす現に今回の大阪組合會議の提唱に對しても、一部に逡巡遲疑するものゝあるといふことは抑々何が故であらうか。

二

我が國の組合運動は、戦後の經濟的好況時代に於て急激な發達を遂げたもので、當時彼方の工場にも此方の工場にも忽ち小組合が簇生した。それらの各組合は偶然的闘争の中に生れた闘士を中心に個人的關係を以て集團してゐたのである。この組織なき教育なき小團體割據分立の状態が生んだものは即ち小數親方首領と朋黨的集團意識であつた。

やがて大正十年以後の資本主義恐慌時代に入つて、支配階級の攻勢が初まると、これら小團體相互

間の援助と協力は、先づその生存の爲めの必須條件として要求される様になつたのだ。これが大正十一年十月の組合總聯合運動だつたのである。

三

此の總聯合失敗の表面の原因は集中主義と聯合主義との理論的決裂であつた。然しその眞の原因は斯やうな理論的闘争にあつたよりも寧ろ前述の團體利己心の衝突であつた。しかも當時すでに支配階級が如何に無産階級の共同戦線を恐怖してゐたかは總聯合創立大會に對して官憲が解散を命じたことによつて明かである。

四

我々が大正十一年に於いて總聯合の組織に失敗した結果、過去數年間如何に不要の、そして莫大の損失を受けてゐるかを數へるには及ばない。近年我が資本主義の崩壊過程の進行と、これに伴ふ支配階級必死の攻勢とは、無産階級大衆の中に階級の共同戦線の熱烈なる要求を勃興せしめるに至つた。

しかして、今回の大阪組合會議による全國組合會議提唱は、斯やうな階級的大衆的熱望の叫びが昨夏以來の苦闘によつて、今春漸く成功せる政治的共同戦線黨の成立、その後にはける労働農民黨の成育困難、英國總罷業によつて與へられたる偉大なる階級的教訓等々直接の動因によつて終に具體化されたものに外ならぬ。

只今に至るも尙此提唱の實現が容易に行はれ得ないのは過去の時代の殘存物たる團體的利己心が尙

全階級意識によつて征服され盡さぬためであるが、殊に支配階級の計畫的分裂政策が舊き親方的指導者をつかんで新しき日和見主義的労働官僚と化せしめ、此等の労働官僚が絶えず公然又は陰然に共同戦線を妨害してゐるからである。勞農組合總聯合の實現は彼等に對する斷乎たる闘争なしには行はれない。

一九二六・五・廿二(土)第二十九號

現在の政局と勞農黨の地位

— 我等の黨のために義捐金を募集せよ —

先頃から政府はしきりに政友本黨との聯立を策しつゝあつたが、最近その計畫が失敗に歸して後もなほ本黨との政策協定維持、貴族院に對する入閣交渉等あらゆる手段に訴へていはゆる「政局安定」のために努力してゐる。現在の政治的不安定は根底の深い經濟的危機に胚胎したものであるから、ブルジョア諸政黨の間に於ける取引關係は容易ならぬ困難に陥つてゐるが、それにもかゝはらず、彼等は次期議會の解散を避け、普通選挙による選挙を延期し、以て彼等の陣容を立てなほす餘裕をつくるために飽くまで共同の動作をとらうとしてゐるのだ。そしてこれが彼等のいはゆる「政局安定」の意義であつて、その目的は明かに無産階級の政治的勢力の擡頭に備へることにある。

二

以上の如きブルジョア政局を前にして、我が労働農民黨は一日も安閑としてゐるわけにゆかない。ブルジョアジーが必死となつてその政治的陣營の整理統一につとめてゐる今日、もし我々が全力をあげて労働黨を固める實際の仕事を進めなかつたならば、來るべき總選挙及びその後の闘争において、我無産階級は非常な苦境に立つに相違ない。労働農民黨は既に各地に支部を組織し初めたとはいへ、今後なほ一層活潑な活動を必要とする。そのためには各地方の労働組合や農民組合が先頭に立つて、盛んに黨の宣傳を行ひ、一日も早く支部を組織することが何よりも肝要であるが、同時に黨本部においても、少くとも宣傳部及び議會對策部だけは一日も早く設置して全國に組織的宣傳を行ひ、地方自治體の選挙運動に援助と指導とを與へ、且つ議會解散請願運動を起すとともに、今より總選挙に對する具體的準備を開始する必要がある。其他あらゆる地方的及び全國的の政治的日當闘争を盛んに鼓舞することは、労働黨に大衆をひきつけその基礎を固める上に必要缺くべからざることである。

三

けれども此等の仕事を實際に行ふに先立つものは資金である。無産階級の政黨は勿論その資金の出入に於いて最も嚴格でなくてはならないが、然しそれは廣く資金を募集することを少しも妨げるものではない。黨費募集の外に公然の黨基金募集運動を起すことは、むしろ今日黨本部並に支部の義務である。これに應じてあらゆる無産者團體は各々その内部に黨後援委員會を設け、團體としてまとまつた基金を寄附しなければならぬ。

四

ブルジョアジーとその一切の政黨とは、「政局安定」によつて息ぬきをしやうと試みてゐる。彼等に此の息ぬきの餘裕を與へることはそれだけ彼等の無産階級に對する攻撃力を貯へさせることである。我々はこれに對抗して極力我々の政黨の生長を助けなければならぬ。ブルジョア政局を安定させるなよ！ 勞農黨の組織と活動とを盛んにせよ！ 勞農黨資金募集運動を起せ！ 來るべき總選舉に準備せよ！

一九二六・五・廿九(土)第三十號

勞働條件に關する日英資本の衝突

— 國際勞働會議の正體と新帝國主義戰爭の危險 —

目下ゼネパには正義人道の假面を被つた帝國主義列強の大芝居が二つ並んでかゝつてゐる。一つは軍備縮小委員會で、こゝでは上品ぶつた平和の女神たちがすつかり生地を出して大童にいがみ合つてゐるが、もう一つの國際勞働會議でも、開幕早々から日英兩國代表の禮儀作法を忘れた唾み合ひが演ぜられて、折柄の芝居を臺なしにしてしまつた。即ち去る一日の國際勞働會議本會議でインドの資本代表がボンベイ紡績資本家を代表して猛烈に日本の紡績女工の夜業を攻撃したのをきつかけに、二日の本會議では日・英・印三國代表の間に一齊に大激論が爆發したのである。

二

日本の資本家が如何に婦人勞働者の安い勞働を豊富に搾取してゐるかは改めて説く必要がないほど周知の事實だ。政府及び資本家が八時間勞働制の實施をできることなら永久に延期したいと望んでゐることも今更言ふまでもない。二日の會議で前田政府代表は「三ヶ年後に女工の夜業を廢止する手続きをとり、それがすんでから勞働時間に對する協定を批准する」つもりだと辯解し、松方資本代表は、「自分の經營する工場一萬五千の勞働者に八時間就業を實施するには八年の訓練を要すると見得を切つてゐるが、(合同電通)彼等が婦人の夜業廢止と八時間勞働の實施とを斯くまでいやがるのは日本の勞働者に「訓練」がないからでなくて、實は日本の資本家の儲けが少くなるからであり、「日本の勞働状態の特殊」なためではなくて、實は日本の資本主義が他國(殊に英・米・支・印等)の資本主義との競争上「特殊」の地位に置かれてあるからに外ならない。

三

日本の勞働階級は日本の資本階級の利益を計ることによつて、初めてその生活を保證し向上することができるといふのが、支配階級の勞働者に説く所だが、實際はその反對で資本家と協力すればするほど國內的にも國際的にも勞働條件は益々引下げられるだけだ。賃銀、時間、其他の勞働條件の向上と統一とは、勞働階級の解放運動を國內的にも國際的にも發展させ統一させる重要な條件であるが、これはたゞ資本家及びその政府に對する不斷の闘争によつてのみ獲得できるものである。

四

六月二日の國際労働會議で最も注目すべき事實は、イギリス及びその植民地たるインドの政府、資本、労働の各代表がすべて一つに結束して日本を攻撃し、これに對して日本でも「前田政府代表が最も力強く應戦した」といふ位で（朝日新聞特電）、檜崎労働代表(?)は單に「政府が適當な労働者保護の法律を發布せざるを遺憾とする」(電通)程度以上に何等政府及び資本家に對する攻撃をすることができなかつたことだ。國際労働會議は國際資本と國際労働との闘争舞臺ではなくて、資本家列強間に於ける闘争舞臺たるに過ぎない。労働條件に關する日英兩國の衝突は、移民問題に關する日米兩國の紛争と同じく、労働階級を犠牲にする新なる帝國主義戦争を誘發する序幕の一つであることを我々は強く記憶しなければならぬ。

一九二六・六・五(土)第三十一號

労働黨支部の合同組織を主張す

——大都市に支部を設立せよ——

労働農民黨は結黨以來こゝに三箇月餘を經過し、今や地方支部の設立されたもの新潟、三重、京都千葉、東京城北、神戸、奈良の七つを數へその設立當時に於ける黨員數約一萬に達してゐる。尙此の支部準備會として設立されたものが現在九つあり、その大部分は、近く支部發會式をあげる段どりにまで進んでゐる。然しながら以上の數字は、地方支部とこれに組織された大衆の活動とを力の根源とする吾労働黨にとつて、決して満足すべき成績といふことはできない。殊に、今日まで支部乃至支部

準備會の組織されたのは主として地方農村であつた、多數労働者の集中せる大工業都市にそれが後れてゐるのは、現在の労働黨の大なる弱點である。

二

労働黨の發達が農村に容易で、都市に困難だといふ理由があるだらうか。或はかういふ者があるかも知れぬ。農民には強い思想的分派がなく、餘りやかましい議論をする者もないからよいが、都市労働者の間には政治的意見の分化が進んでゐて、左右兩翼の思想的闘争が激しいから、容易に一しよに支部を造ることができないのだと。けれどもこれは間違つた考へで、此の思想的相異そのものが政治的日常生活の組織を妨害したり分裂させたりするものではない。思想的闘争は單に避けられないものだといふばかりでなく、それによつて無産階級運動は全體として發展するのである。だから労働農民黨にあつても、思想的傾向では種々異なる都市労働者が一しよに入黨して、黨の内部で互に政治的意見を闘はし全體として思想的に後れた農民を指導すべきで、然らざる限りは黨の組織の充實とその活動の發展とを期待することはできない。

三

労働黨は全無産大衆の政治的共通戦線である。従つてその支部も當然かくの如き共通戦線の組織をとらなければならぬ。それを同一思想を抱く者、同一組合に屬する者、乃至は「氣の合ふ同志」だけで組織して、他の者は除外しやうなどといふのは、全然労働黨を放棄するも同然だ。比較的大都市に

勞農黨支部の設立がはかどらないのは、都市労働者の間に思想的闘争があるからではなくて、此の思想上の分裂を口實にして、共同戦線の組織上の分裂を企てる労働官僚があるからに外ならない。都市労働者の戒むべきものは、その思想的闘争ではなくてかくの如き日和見的首領である。

四

日本の無産階級がその政治闘争に於て全國的共同戦線の必要を痛切に感じてゐることは言ふまでもないが、これは地方的に見ても全然同一である。現に最近の東京市會議員選挙を戦つた市電自治會の篠田君は、勞農黨支部はあらゆる無産者團體の合同組織でなくては無力だと喝破してゐる。勞農黨規約にも、支部は『地理的區劃により黨員五十名以上を以て組織するものとす』と定め、僅にその但書に於て『必要ある場合は適宜にこれを組織することを得』とあるのみだ。各地方(殊に都市)の支部組織者も中央執行委員會も、此の『必要』を出来る限り不要ならしめることに努力しなければならぬ。支部は黨の基礎である。これが同階級の兄弟を拒絶したり二つに分裂したりして、どうしてブルジョアジーの壓制に戦ひ勝つことができるか。勞農黨支部の建設を急げ!

極力單獨支部を避けて合同支部を作れ!

思想的相違を口實として共同戦線を裏切る者を警戒せよ!

一九二六・六・十二(土)第三十二號

總聯合の役割

— 全國組合會議準備協議會を成功せしめよ —

明二十日大阪に開催される全國組合會議準備協議會は我無産階級運動のために、大きな喜びであつて、本紙は衷心その成功を祈つてやまない。右協議會には全國の主要労働團體の大部分が参加し、その抱擁する組合員数は約十八萬、即ち全組織労働者農民の約六割に上つてゐる。たゞ我國における有数の大組合たる海軍労働組合聯盟、日本司厨同盟、日本海員組合、日本鐵道従業員組合等が参加を見合せてゐるのは遺憾であるが、然しそのために總聯合の組織を延期せねばならぬ理由は少しもない。

二

勞農組合總聯合の必要なのは言ふまでもなく、第一に、資本家に對する闘争力を強大にする爲だ。一體資本家らしい資本家は株式組織其他の方法により殆んど十割までが組織されてゐるといつてよいが、その上に彼等は各産業別に鞏固な同盟を形づくつて居り(例へば大日本紡績聯合會は社數において八割四分、鍾數において九割六分)、更にその頭株は何々クラブとか何々會とかいふ名を以つて、主要産業の大部分を二重にも三重にも結合してゐる。これに對して我國の労働者は僅か五分五厘といふ貧弱な組織労働者が二百餘組合十九聯合體に分割されてゐる。こんな状態ではとても資本家の攻撃に

堪へ得ないことは最近の多くの爭議が痛切に教へてゐるところだ。百人中で五人半といふ僅な組織率でも、三十萬の労働者農民が一つの全國總聯合に結束されれば、それはブルジョアジーにとつて確に恐るべき威力となるに違ひない。

三

次に、總聯合の組織は尨大な未組織勞農大衆の組織化のためにも極めて緊要である。資本家の反動的攻勢の激烈な今日においては、労働者の組織化は最早個々の偶發的運動によつて出来るものでなく、たゞ全勞農組合の協力と計畫的闘争によつてのみできるものだからである。その他、總聯合は労働者と農民との提携を密接ならしめ殊に消費組合運動の發達、またファシズム（反動團體、御用組合）に對抗する共同戦線を形成する役目を持つてゐる。

四

最後に勞農組合總聯合は、労働農民黨に對する最大支持者であり、刺戟者である。此の兩者は決して無産階級運動の分裂した二つの形態ではないが、同時にそれは決して兩者の何れか一方で充分だといふことにはならない。無産階級が廣大な政治闘争、殊に議會闘争を戦ふには勞農黨の組織が絶對に必要であり、賃銀、労働時間其他労働條件の全國的水準の向上及び統一を獲保するには是非とも巨大な總聯合の壓力を以てしなければならぬ。而して労働條件の向上と統一とが如何に労働階級團結を強めその闘争を擴大せしめるかは我國とイギリスとに於ける同盟罷業の規模の大小を比較しただけでもわ

かるだらう。（日本は一件平均参加人員百三十人乃至二百三十人、イギリスは一千人強乃至二千人弱）勞農戦線の統一は我々の刻下の急務だ。苟くも無産階級の陣營に立つ者にとつては、總聯合を妨ぐべき如何なる口實もない。一日も早く全國組合會議を建設せよ。

一九二六・六・一九（土）第三十三號

封建勢力との闘争

——労働農民黨はそのため各種の請願運動をおこせ——

労働農民黨は最近宣傳部及び調査部を設けて、いよく實際の政治戦に乗出す準備を整へてゐる。言ふまでもなく労働農民黨の根本的戦略は、その敵を見て決せらるべきであるが、我國現在の支配階級は單純なブルジョアジーの勢力より成るものではなく、多分の封建的殘存勢力と大資本閥が結合して成るものである事を、我々は第一に注意する必要がある。この事實は、日本の政治的特殊性を單に封建的勢力の支配、ブルジョア民主主義の未發達に置き、且つその故を以て我國は帝國主義時代に入つてゐないといふ日和見主義者の理論を打破するものであると同時に、又封建勢力に對する戦ひはブルジョアジーを助けるに過ぎないといふ極左翼的見解にも反對するものだ。

二

我國に於ける封建的殘存物、即ち貴族、官僚、軍閥等の勢力は、政治、軍事、教育、司法等にわたる極めて廣汎且つ強固な基礎を持つてゐる。今日の帝國主義的ブルジョアジーは、此等の封建的勢力の壓迫を排する迄に強くなつてはゐるが、これを根こそぎに滅する力を持つてゐない。のみならず彼等は、労働者農民の大衆に對する壓迫に於ては、進んで此等の封建的殘存勢力を利用する事を忘れない。實際、今日に於ては、封建的殘存勢力及び制度のために最も大きな犠牲を拂つてゐる者は、資本家階級でなく、労働者及び貧農に外ならない。されば我國に於ける封建的遺物の打破と民主主義の獲得とのための闘争は實に勞農大衆の當面の必要事であり、従つて労働農民黨の歴史的任務である。

三

勞農黨が封建的殘存勢力並に制度に對する闘争題目とすべきものは、樞密院及貴族院の廢止、普通選舉制の徹底、言論、出版、結社の自由、強制徵兵の廢止、封建的勞働制度の撤廢、婦人の差別撤廢等數へきれない程あるが、これを一言にすれば政治的自由のための闘争である。勞農黨は斯くの如き闘争によつて、凡ゆる封建的遺物のために政治的に壓迫されてゐる労働者、農民、小商人、學生、婦人、青年の廣汎な範圍にわたる大衆を結合する事ができる。けれども、その中でも當面最も重要な題目は（一）普通選舉法による選舉の即時施行、（二）團結權及び罷業權の獲得、（三）耕作權の確立の三者であらう。

四

現在の政府と貴族官僚とは極力議會の解散を避け、新選舉法による選舉を後らせやうと試みてゐるが、これに對し勞農黨は來るべき議會の即時解散と新選舉法による選舉の施行とを要求しなければならぬ。しかもこれはただ黨が題目として掲げたり、演說會を開催したりするだけでは効果が無い。廣く、全國に賛成者を求めて請願書に多數の署名を集めることが絶対に必要で、これは今日直に開始しなければ時期を失する虞れがある。團結權罷業權の獲得及び耕作權の確立の重要は今更言ふまでもないが、これも勞農黨が完全な法案を作成した上、同じく大衆的に請願運動を起すことが必要だ。斯くの如き運動は勞農黨に廣大な大衆を惹きつけ、その信望を高める所以だと信する。

一九二六・六・二六（土）第三十四號、第三十五號

言論の自由のために

——從來の無抵抗主義をすて、積極的に闘争せよ——

一

本紙前號は内務大臣濱口雄幸の命令を以て發賣頒布を禁止された。その理由は同號第三面に載せた農村通信「嵐の前のしづけさ」が「安寧秩序を紊るもの」と認められたからださうだ。地方農民の窮迫した生活状態を詳さに報道した右の通信が、何故に安寧秩序を紊るものであるかは殊更に問はぬ。けれども無産者新聞の問題は決して無産者新聞だけの問題ではない。我等は日本の政府官憲が一般に言論の自由を極端に壓迫しつゝあるに對しこの機會に強硬に抗議するものである。國民が言論、出版

の自由を奪はれてゐる點において我國が世界の文明國中でも甚だしいものであることは、諸外國で公然行はれてゐる書籍が輸入を禁止され、その翻譯が發賣を禁止されるものゝ極めて多い一事を以ても知ることが出来る。かくの如き壓制に對して、我等は何時までも從來の如き無抵抗状態に甘んじてゐるはならぬ。

二

言論、出版、集會、結社の自由は封建制度に對するブルジョア階級の戰鬪的標語であるが、これは無産階級にとつても有力な武器を供給するものだ。日本のブルジョア階級は無産階級の勢力の擡頭に對しては飽まで反動的であるが、それでもなほ自己の制度を擁護し主張するに妨害となる半封建的な諸制度に對しては相當に抗爭し來つたのである。現に先の議會で衆議院を通過し貴族院で葬られた新聞紙法並に出版法改正案の如きもその一つである。日本國民は憲法によつて「法律の範圍内に於いて言論著作印行集會及び結社の自由」を保證されてゐる筈であるが、その「法律」なるものはブルジョア階級のためには段々と有利に改正されつゝあるに反し、無産階級の爲には益々不利となる一方で、特別の反動的暴壓法までが制定されるに至つた。かくて今日に於ては憲法上の自由はブルジョア階級にとつては殆んど無條件の自由であり、無産階級にとつては殆んど空文の自由と化してゐる。

三

くりかへして言ふ、言論、出版、集會、結社の自由は無産階級運動に缺くべからざる武器である。

我等は此の武器を奪はれて、何時までつ黙て居られるか。斯の如き自由剝奪に對する政治的無抵抗は單に新なる権利の伸張を斷念するものであるのみならず、今日まで我等が部分的な然し激烈な闘争と夥しい犠牲によつてかち得た事實上の権利をも一つ一つ失ふことを意味する。治安維持法に對する反對の必要は言ふまでもない。出版法、新聞紙法、治安警察法等の改正乃至撤廢は、ブルジョア階級にとつてよりも寧ろ無産階級にとつて一層重要である。實際に於いて、今や労働者農民は勿論、學生婦人等の間にまで政治的自由の要求とそのため闘争とが廣く起りつゝある。言論、出版、集會、結社の自由に對する壓迫に抗議せよ政治的自由の獲得のために戦へ。

一九二六・七・三（土）第三十六號

議會に用意せよ

——労働黨の即時開始すべきは議會解散請願運動——

一

本紙は早くより議會の解散と新選挙法による總選挙とを主張し來つたのであるが、來るべき第五十三議會に對して労働農民黨がその戰鬪準備を急がなければならぬ今日に於いて、更に強くその主張をくりかへす必要を感じる。憲政會といはず政友會といはず、すべてのブルジョア政黨は、既に前議會の解散を避けたのみならず、來るべき新議會も能きることなら現在の議員でおしとほさうともくろんでゐる。之は新に選挙權を獲得した一千萬の民衆に對してその選挙權の行使を禁壓するものに外な

らぬ。勿論、彼等ブルジョア諸政黨もその相互間の軋轢によつて議會を解散に導く可能性はあるが、もし我々が議會の解散と新選挙の施行とを彼等に任せきりにしておけば、來るべき總選挙は必ず彼等に利用されるに過ぎないであらう。だから労働者農民の新有権者は現在の政府及び議會に對する不信任と新選挙權の行使を旗印として、積極的に議會即時解散の運動を起さなければならぬ。

二

かくの如き運動に主導力を占め得る政黨は現在のところ労働農民黨あるのみである。労働農民黨がこの運動を大衆的且つ組織的にするためには、既に本紙前々號に於ても簡單に言つたやうに、全國的な請願運動を行ふ事が最良の方法であらう。即ち第五十三議會の即時解散、新選挙法による總選挙の即時施行に對する賛成者の署名を全國に渡つて出來るだけ多數に集めこれを議會に提出することである。労働農民黨の各支部及び支部準備團體は言ふまでもなく、あらゆる労働組合其他の無産者團體が、進んで自己團體の所屬員をはじめその接觸し得る限りのあらゆる有志者の署名を集めることによつて、此の運動は大規模のものとなる事ができる。署名者は必ずしも労働農民黨員たることを要しない。たゞ労働農民黨の名を以て請願書へ署名を求めると、地方的に集めた署名を労働農民黨本部に集中することが必要である。そしてこの運動は労働農民黨本部は言ふまでもなく、各地方支部及び一般無産者團體に就て即時に開始しなければ時機を失する恐れがあることは、以前に述べた通りである。

三

議會解散の請願運動は、同時に議會解散後の總選挙に對する準備運動を伴はなければならない。労働農民黨はその創立の日が淺いので、労働者農民の大衆がまだ選挙運動に經驗がないので次の總選挙に大きな勢力をもちとる事は到底できないであらうが、それだからといつても今度の總選挙に手ぶらで臨んだなら、それこそ労働農民黨は大衆の支持を根こそぎ持つて行かれるに違ひない。今日直に黨の議員候補の選定にとりかゝると共に、その選挙運動の標語たるべきもの（議會解散、惡法反對、言論及び團結の自由、耕作權の確立、軍國的負擔反對等）を、出來るだけ盛んに宣傳しなければならぬ。

一九二六・七・一〇（土）第三十七號

耕作權確立の全國的運動を起せ

労働農民黨中央委員會は具體的方法を決定せよ

一

最近小作争議は益々猛烈深酷になり北は北海道より、南は臺灣に至る迄、農村は擧げて争争の渦中に捲込まれてゐる。併してその争議は、小作人側の日本農民組合等全國的團結による組織的な争争に對する、地主側の大日本地主協會及び府縣郡地主組合等の全國的地方的團結による對抗によつて特色づけられてゐる。地主側はかくして従前の消極的な小作料請求訴訟の戦術を棄て、積極的に立毛差押へ、土地立入禁止等の手段によつて攻勢に轉じ、官憲、司法權を利用し、暴力圍迄備つて小作人を死地に陥れんとしてゐる。こうして争争は激化され農民の數人、數十人は獄に繋かれ京都の美豆村事件

の如く流血事件まで惹起するに至つたのである。

二

土地立入禁止による耕作権の停止は小作農民に取り最も致命的な傷手である。随つて小作農民は何物も賭しても之に對抗しやうとする。然るに現在の法律は、土地を耕すものゝ耕作の権利よりも、單なる土地所有者の所有の権利を過重し、地主の申請に際して一回の公開辯論もなく立入禁止を執行する暴狀を演じてゐるのである。地主は此點を利用して、先づ耕作の禁止を行ひ、然る後小作人の要求をはねつけ、小作料を強請的に徴集する戦術を用ひてゐる。かくて小作争議は、小作料減免を當面の目標として開始されるが、開始と同時に目標は小作料より耕作権の問題に移り耕作権の確立が農民の最も直接且一般的な要求となるに至つた。

三

かゝる狀勢に鑑み、政府は最近小作調査會なるものを急造し、小作立法制定を布れ出してゐる。その調査會の意向は、可成り急進的であり、耕作権擁護に傾いてゐる様である。然し、勿論吾々は之等のものに信頼してはならない。耕作権問題は急進ブルジョアに取つては直接利害關係のない事であり随つて耕作権を擁護する事により彼等は農民大衆を自己の政治的指導の下に置かうとする。又地主に取つても、耕作権の確立は致命的な傷手ではない。随つて地主も、より以上のものを失ふよりも、或程度迄の犠牲は忍ぼうとする。彼等はそれにより、小作争議を緩和し、農民を小ブルジョア化し、階

級意識を鈍らせる爲に、小作法制定を承知するかも知れない。その場合吾々が傍觀して政府のなすが儘に任せることは、農民大衆を急進ブルジョアの政治的指導に委ねることである。

四

此危険を征服する爲に、日本農民組合は農民自身の力によつて運動を起し、労働農民黨を通じて積極的に政府に迫らなければならぬ。その具體的方法は、曩に農民組合で決定した全國的示威運動、演説會、當局訪問、と共に議會に對する請願運動を是非行はなければならぬ。労働農民黨は、既に、その綱領の一つとして耕作権の確立を掲げてゐるのであるから、此時に當り農民大衆の先頭に立つて農民の切實なる要求確保の爲に闘ふべきである。來る第二回中央委員會は、何より先づその具體的方法を決定しなければならぬ。小作争議は小作料減免の純經濟的闘争より、耕作権確立の、著しく政治的な要求を呼び起した。耕作権確立は、廣汎な無産農民の現實の要求として農民大衆を組織し、之を政治的に轉換する緊切な題目である。併して又農民大衆をブルジョア政黨に引渡すか、労働農民黨が獲得するかの戦ひである。

耕作権確立の爲全國的請願運動を起せ！
労働農民黨は積極的に活動を開始せよ！

労働農民黨當面の任務

— 第二回中央委員會は直に積極的活動にうつれ —

労働農民黨は成立既に五ヶ月を閲し、十二支部準備會を擁する全国的な勢力となつて、着々その基礎を確立しつつある。来る二十六日大阪に開かるゝ第二回中央委員會は、労働農民黨が現在當面せる任務につき、その方策を決定し、尤大なる未組織の大衆を急速に黨の傘下に糾合する爲にその具體案を確立する重大なる任務を有してゐる。

二

労働黨が當面する任務の第一は議會對策の確立である。之はブルジョア諸政黨が既に來る五十二議會の對策を講じあらゆる準備を運んでゐる現在、労働黨にとつて緊要缺くべからざるものである。然して此の議會對策を講ずるに際し、労働黨にとつて必要なことは全無産階級独自の要求を代表して、之を政治的に指導するやうな政策を立てる事である。

五十二議會に對する労働者、農民の要求は憲法撤廢、團結權の獲得、耕作權の確立、言論集會結社の自由等多くあるが、労働黨が之等の要求を掲げて戦ふには、一人の代表者をも有さない現在のブルジョア代表者許りの議會では全然不可能のことに屬するから、労働黨は廣く労働者、農民の要求を反映し、大衆を政治的に訓練し、政治的意識を喚起し、政治的に組織する爲に、普選法に據る議會改選

の即時實施の請願運動を廣く大衆に宣傳し大衆を政治的に組織することが現在緊急の必要事である。且つその際この請願運動が何の爲めに且つ誰の爲になされる者であるかを大衆に知らせる爲に耕作權の確立労働組合法案の改善、言論集會結社の自由といふ要求をもその請願運動に織り込まなければならぬ。

三

然し労働黨が今直に議會解散の請願運動を起す事に、反對の意見を持つる人々があるかも知れぬ。即ち今直に議會を解散しても労働黨は未だ地方の支部が確立して居らぬから、總選舉に對しても無能力であると。然し議會解散は無産階級が要求しなくともブルジョア自身が解散するかも知れず、且つ最近のブルジョア政黨間の軋轢は充分其の可能性があることを物語る。その場合充分の準備がなければブルジョア政黨にシテやられることは火を見るよりも明かである。且つ地方支部組織の擴大はただ成行に任せて置いて出来るものではなく、意識的、積極的に大衆の當面の要求を捉へて政治運動を喚起する事によつてのみ成就されるのである。この故に議會解散請願運動を起して大衆の署名を集める事は大衆を政治的に動員することであり、政治意識を喚起することであり且つそれは支部を確立し擴大する上にも偉大な効果を齎すことであり、延いては總選舉に對する準備を整へることもなるのである。之は政友會が地方の小ブルジョアを請願運動に動員して、其の地盤の維持擴張をしてゐるに鑑みても労働黨が獨力で如上の請願運動を組織することが如何に重大であり緊要であるかを物語るものである。

四

勞農黨が議會に對する對策を何等講ぜず、總てを成行きに委せて置く事は、未組織大衆の組織をおくらせるばかりでなく、これらの大衆をむざ／＼とブルジョア政黨に奪はれる危険を充分に有するのである。何故なれば、未組織大衆はそれ自身階級意識がなく、最も多くブルジョア政黨の影響を蒙つてゐるものであるから、議會が解散されて總選舉となつた際に、估券が付いて人口に喰ふされてゐるブルジョア政黨に投票することは明白であるからである。此の故に議會解散率の増加した今日に於て未組織大衆を勞農黨に組織することは重要である。そして夫れは、未組織大衆に階級意識を鮮明に注入することによつてのみ達成されるのである。この目的に副ふためには是非とも勞農黨は如上の請願運動を開始しなければならぬ。

來る二十六日の中央委員會がこの點に就て肯定的な態度をとられんことを望む。

一九二六・七・二四(土)第三十九號

如何にして裏切者と戦ふか

——勞農黨充實のために大衆運動を組織せよ——

一

勞農黨第三回中央執行委員會は、日本勞働總同盟其他右翼幹部の提出に係る左翼團體排斥案を「再

考」した結果、前回の決定をくつがへしてこれを可決した。左翼の集團的除外が單に階級正義の問題たるのみならず、全無産階級運動の上に現實の損害であることは現在の勞農黨自身が最もよく教へてゐる。それにも拘らず今回の恥づべき決定を見たのは何を意味するか。第一は右翼官僚幹部が完全に支配階級の傀儡となつて強硬に無産階級の共同戦線を破壊することに全力をあげてゐること、これは別項記事によつて明白に觀取することができる。

二

第二は所謂中間派又は中央派が政治的に如何に無力であるかを遺憾なく曝露した事、これは日本農民組合の委員諸君が階級の正義の感情に富み、原則としての共同戦線に忠實でありながら、今度の委員會に於ける戰鬪的右翼の壓迫の前に、もろくも屈服したことを見ればわかる。此等の諸君には共同戦線を裏切る意志はなかつたであらうが、事實は右翼首領の分裂政策を支持した結果を得たに過ぎない。中央派は右翼との戦ひをさけることによつて、中央派であると同時に中央派でなくなるのだ。

三

第三、従つて全無産階級の共同戦線のためにあくまで戦ひ得るものは眞の左翼あるのみで、今や勞農黨を完全に裏切者の手に渡すかこれを彼等より奪還して大衆的共同戦線を固めるかは、一に左翼の活動如何によつて決するといふ瀬戸際に立つてゐるのである。勿論こゝに左翼と云ふのは必ずしも一二特定の團體をそのまゝ指すのではなく、如何なる無産者團體の中にも潜んでゐる所の階級意識を指

すに外ならない。所謂左翼團體は勿論右翼の指導下にある大衆も、中間派の指導者及大衆も此の勞農黨の一大危機に當面して、一齊に起つて此の共同戦線を死守しなければ、結局無産階級はブルジョアジの攻撃に身を任す外はないだらう。

四

そこで、勞農黨を裏切り幹部の手から大衆の手に奪還するためには當面何をなすべきか。

(イ)先づ今回の中央委員會の入黨制限に對する抗議の運動を起し、次期の中央委員會には今回の決定を破棄せしめなければならぬ。(ロ)同時に地方支部の組織運動は従来より十層倍も百層倍も盛んに擴張すべきだ。黨員と支部とがあつてはじめて中央委員會があるのだから、支部組織運動を一刻も休める事は黨とその中央委員會を殺す事だ。(ハ)議會解散の請願運動、選舉運動等、實際の政治運動を直に全國的に起すことの必要は今更言ふまでもなからう。全國の勞農大衆よ、勞農黨の裏切者と戦ひその組織を充實せしめるために結束せよ!

一九二六・七・三一(土)第四十號

協同戦線を破る小ブルジョア黨

——右翼指導者の二足わらじ——

一 勞働組合評議會、無産青年同盟、大衆教育同盟、水平社無産社同盟の四團體が階級的道德を死守し

て單一政黨の成立を助成したるにも拘らず、此の友誼的犠牲を蹂躪して右翼は遂に四團體排斥の横車を押し通した。この四團體排斥は勞働者、農民が資本家、地主の攻撃の前に協同戦線を張る必要に迫られてゐる現在に於て、無産階級の陣營を分散せしめる分裂政策である。

二

右翼の分裂政策は唯單にこの四團體排斥に満足せず、更に民衆黨農民黨を組織して、勞農黨に對抗し、又は其の發展を妨害して無産階級の陣營を更に分裂させた。而して民衆黨は一千萬の新有権者を獲得することを目的とし、農民黨は八百萬の農民を獲得することを目的としてゐるが、之は勞農黨が獲得せんとする分野を荒すものである。彼等に従へば之等の企ては何等勞農黨に抵觸せず、寧ろ夫は今日の狀勢に適してゐるといふのであるが實際は無産階級の勢力を分散させる以外の何物でもない。

三

之は右翼の無節操極まる分裂政策を曝露したものであつて、勞農黨内部に在りては分裂を策動し、外部に在りては「勤勞階級」を振り廻して表面的の分裂を斷行したのである。そして内外相呼應して勞農黨を無政策、無方針且つ無力のものたらしめ、小ブルジョア思想に屈服せしめやうといふのである。之は假へば勞農黨内部にありては左翼を排斥し、外部に在りては未組織大衆を組織する爲に別の黨が必要であるといつて餘分に二つの政黨を作つたに見ても明かである。何故なら未組織大衆を組織する必要があれば、左翼は勿論勞農黨に組織されなければならないのである。

四

以上によつて讀者には既に明かなるが如く右翼は、分裂政策に對して分業をやつてゐるのである。即ち勞農黨内部にあつては左翼と分裂し、外部にあつては、民衆黨又は農民黨を作り勞農黨即ち階級政黨全體に對抗してゐるのである。而してこの分業の目的は小ブルジョア思想即ち階級協調思想をもつて、勞働者、農民を指導せんとすることである。之は彼等が勞働階級及農民の組織を輕蔑し、階級闘争を否定して政治的階級闘争説を捨てることを強調してをり、一千萬の新有權者をのみ有力な政治勢力と見做してゐるに見ても明かである。

五

斯くの如く右翼指導者によつて分裂された無産階級陣營の現状に直面して組織勞働者及農民が爲さなければならぬ最大の急務は今より一層力強く協同戦線を強調し僅かな協同戦線の分裂策動に對しても徹底的に糾弾することである。而して一層未組織大衆の階級意識を鮮明ならしめ、ブルジョア政黨、小ブルジョア政黨（民衆黨、農民黨）が、此の分野に喰ひ込むことを、全力を擧げて防止しなければならぬ。

一九二六・八・七（土）第四十一號

抗議運動の勃發と立會演説の必要

——左翼四團體の今日の急務——

一

四團體排斥決議に對する抗議は大衆の中から起り出した。この抗議の聲には協同戦線に對する熱心と信頼とがこもつてゐる。右翼指導者の分裂政策に對する燃えるやうな憎惡が含まれてゐる。事實抗議の第一聲を放つた日農鹿兒島聯合會の警告書には、「組合利己心」と「私的感情」によつて黨を指導することに反對しブルジョア階級から「穩健派」のオベツカを頂戴して得々としてゐる右翼指導者を痛罵してゐる。

二

之は當然起るべきものが起つて來たのであつて何等奇とするに足りない。何故なら右翼指導者によつて提唱された四團體排斥が、明かに無産階級陣營内の分裂であり攪亂であるからである。更に右翼指導者が四團體を排斥した唯一の理由が、四團體は「共產派」であるといふ漠然たるもので、何等そこには階級的の任務も目的も明確にされてないからである。斯かる曖昧な政策に對して勞働者農民大衆が、何等信頼を繋かないのは當然である。この右翼指導者に對する不信用が遂に大衆の中から勞農黨第三回中央委員會の活動に對する抗議を湧き出さしたのである。この抗議運動が益々蔓延すれば勞

農黨中央委員會が大衆の攻撃に壓迫されて遂に門戸閉鎖の決議を撤回するの餘儀なきに至ることは明かである。

三

この故に各地の勞農黨支部、労働團體、農民團體の指導者の現在の義務は、四團體排斥が果して何の目的でなされたか且つ誰の利益の爲になされたかに對して大衆に明確且つ卒直な答へを與へることである。そして四團體排斥と門戸解放の何ちらが無産階級の利益であるかを明確にする義務がある。

四

之を曖昧に誤魔化すことは、臆病であり、卑劣である。特に排斥された四團體は熱心に此の問題を討論しなければならぬ。そして右翼四團體排斥案を支持する一派に對して大衆の面前で立會演説を求め、右翼指導者と討論して、右翼指導者の政策を批判し、廣く大衆に訴へなければならぬ。之は現に必要缺くべからざることであつて、議會解散が愈々切迫してゐる今日、無産階級陣營内の統一を速かに圖るために是非やらなければならぬことである。

五

唯茲に注意すべきことは、右翼指導者の攻撃に憤慨して、左翼四團體が別個の政黨を作ることである。之は右翼指導者の分裂政策の陥穽に完全にハマることであり、右翼指導者の手に操られることであ

ある。そして右翼指導者が裏切者であり、ブルジョアの手下であることに失望して勞農黨を否定することは、肝腎の勞農大衆と絶縁することになるから、この思想とは徹底的に、鬭争しなければならぬ。

一九二六・八・一四(土) 第四十二號

腐つた部分を切捨て自治會甦生せん

——『穩健派』の藝者狂ひ——

一

東京市電自治會に伏在してゐた、驚くべき悖徳行爲が、同組合員の手によつて社會に曝露された。執行委員が莫大な組合費を藝者買に費消したといふ一事だけでも、無産者を驚かせるに充分であるのに、尊嚴と熱誠と正直とを以て臨むべき中央委員會の席上で、一委員の發言中に暴力を振つて、之を妨害し、遂に中央委員會を混亂に陥れ更に其の歸途を擁して數名の中央委員を亂打したる如き、徹底的に排撃すべき暴力行爲である。而もこの暴力は其の次の中央委員會に於ても演じられ、遂に一委員の歸途を擁して之を袋叩きにし重傷を負はせたるが如き、労働組合の中央委員會を冒瀆するも甚だしいものである。

二

而して此の暴力を演じたる一派は所謂『穩健派』と稱する右翼幹部連中である。だが自己と反對の

意見を持する者に暴力を以て重傷を負はせるが如きは、恰度彼のイタリーの反動派(ファシスト)が彼等の非を曝かんと登院する一代議士を途中から拉致して暗殺したる行爲と、重傷と暗殺との差こそあれ、其の動機、其の目的に於ては同一であり、最も憎むべき暴力行爲である。此の故に彼等を「隠健派」と名づけるならば、以後「隠健派」とは「暴力團」と同意義に解すべきである。

三

斯かる悖德、斯かる暴力行爲が何時までも明るみに出ない譯はない。由來組合を愛する餘り組合の機關に因りて平和裡に一切の問題を解決せんと努力し來つた自治會大多數の支部員は「隠健派」幹部の暴力行爲に其の到底實行不可能なるを見て遂に之を自治會大衆に訴へるに至つた。故に大多數の組合員をして斯かる舉に走らしめた責任は「隠健派」にあると云つても過言ではない。

四

自治會は今や「震災状態」にあるが、組合内の「震災」を経過しつつある自治會の前には、多くの敵が控へてゐる。「右翼分裂派」の魔手、市電氣局の魔手、水道局の魔手、ブルジョア新聞の魔手等々自治會を自家樂籠中のものたらしめ、又は無力のものたらしめ、やうとする無産階級の敵はヒシクと押寄せてゐる故にこの震災の被害を少くし、一日も速かに自治會を健全なものたらしめることは、自治會大衆の義務である。

五

然しこの「震災」の被害を少くし自治會を健全なものたらしめる爲めには、決して情實的又は事なかれ主義で初期の目的を達することは出来ない。それは何うしても労働者の血と汗の組合費を藝者買に消費するが如き「隠健派」を組合外に放逐すること以外には無いのである。即ち腐敗し、墮落し、暴力團化した組合の一部を外科的に手術し、切開すること以外に自治會を健全たらしめる途はないのである。そして夫は自治會を労働者の利益と自由を擁護する階級的組合とする爲には是非必要な唯一の手段である。

一九二六・八・二一(土)第四十三號

右翼指導者を放逐し階級利益を守り

勞農大衆の奮起を促せ

一

總同盟の分裂、日本農民組合の分裂、四團體排斥に相次いで今また市電自治會の分裂が行はれた。この分裂の魔手が何處まで發展するか殆んど豫測がつかぬ程である。それと共に相次ぐこの分裂の魔手の正體が事件の進行に伴はれて愈々明白となり、今では誰でも其正體が右翼指導者であることを首肯する程になつた。

二

右翼指導者が斯うした分裂政策を敢行しつつある時、労働階級及び農民が共同戦線をもつて戦はね

ばならぬ問題は無数にある。耕作権の確立、労働組合法案の改善、議會解散、自由権の保證等々の一般の問題から、日常の經濟的問題に至るまで一として全階級的團結をもつてとなければ獲得し得ない問題許りである。

然るに右翼指導者は對階級的的政策に腐心するよりは陣營内の攪亂に専心努力し、分裂に次ぐに分裂をもつてし具體的問題の解決を何等計らずに抽象的な「共產黨」云々に狂犬の如き醜態を演じてゐる。

三

此の故に之等右翼指導者を無産階級運動の圏外に放逐するに非ずんば、到底無産階級の具體的な緊急問題の解決は計れないのである。然して之等右翼指導者を放逐するには、彼等に指導されてゐる大衆を獲得するに非ずして到底出来ないことである。此の故に大衆を獲得するといふことは刻下の緊急問題であるがそれには何うしても右翼指導者を苛責する所なくその裏切行爲を徹底的に曝露しなければ出来ない相談である。彼等の裏切行爲の曝露なしには到底大衆を獲得することは出来ないのである。此の故に「現實主義」「勤勞階級」「分裂政策」「裏切行爲」の徹底的調査と曝露とは最も必要である。

四

然し右翼指導者を徹底的に曝露することは必ずしも組合から脱退するといふことを意味しない。何故なら組合から脱退することは、右翼指導者の分裂政策を容易ならしめ、大衆を右翼指導者にソックリ引渡すことになるからである。此の故に組合からの脱退ではなく右翼指導者の裏切を曝露して之を

組合から放逐し、組合を労働者農民の利益を擁護する組合とすることが緊要である。

五

尙一つ注意すべき事は、右翼指導者による分裂政策が、労働黨に延びる可能性があることである。之は鈴木文治が外字新聞に發表した所に據つても知ることが出来る。此の故に階級的利害を守る組合の指導者及其の大衆の刻下の急務は労働黨を速かに大衆化し充實することである。そして今回開始された請願運動を實力化し、有力化し、大衆化することである。右翼指導者の曝露、組合の獲得労働黨の充實請願運動の大衆化——之が無産階級刻下の緊要な任務である。この解決は右翼指導者には望めないことであるから、階級的諸團體の指導者は右翼指導のサボを蹴飛ばして、早速運動を開始すべきである。

一九二六・八・二八(土) 第四十四號

寶刀が錆びついて現實主義破産す

——自治會分裂政策の敗北——

一

現實主義の指導機關たる「民衆新聞」は、市電自治會のダラク幹部の採つた態度を得意氣に書き立てゝゐるが、生憎その論説は少しも事實に基礎を置いてゐない詭辯であり、欺瞞であり、毒舌である。

「民衆新聞」は今回の除名事件は徹頭徹尾共產派排撃であり、共產派の陰謀を防止した右翼幹部の英斷

であり、壯舉であると言ひくるめやうとしてゐる。

二

これは現實主義者が味を占めた最近の戦術で、若し右翼指導者の小ブルジョア的思想に服従しない者があると「治安維持法」なる政府の寶刀を借用して相手を共產派だと暗に脅迫する手を用ひるのである。共產派と命名しさへすれば一般の大衆が尻込みをし、嫌でも現實主義者の言ふ通りになると思つてゐるのである。こんな骨の折れない樂な戦術が外にないので、彼等は何時でも此の戦術を用ひて來、又用ひつゝあるのである。

三

然かし今回の自治會の場合は、この戦術は餘りに齟齬を來たした。何となれば、彼等が擁護する者は組合費を「藝者狂ひ」に濫費した「ダラク幹部」であり彼等の排撃する者は一般の無垢なる組合大衆であるからである。此の故に「現實主義」とは組合費を濫費する者の思想であり、現實主義の所謂「共產派」とは斯かるダラク幹部を放逐し、正直で労働者に忠實なる眞の幹部を選ばんとする者の謂ひであることが組合大衆にハッキリ意識されたのである。その證據には自動車部との分裂に反對する自治會分裂反對同盟が刻々に勢力を増加し、今や十四支部及び八支部有志が此運動に参加し尙ほ夫が増加するに見ても明かである。

四

此故に今回程明白に「現實主義」の正體が曝露したことは嘗て無い。そして彼等の傳家の寶刀「共產派」攻撃が其の價値を失墜し、殆んど無價値に等しくなつたことも前例がない。然し之は斯くなるべきことが斯くなつたのであつて決して奇とするに足りない。嘘は時間が経てばバレるものである。「現實主義」の箔も段々剥けて來て「現實主義」が「藝者狂ひ」辯護の武器に利用されるに至つたことは現實主義の破産である。

五

然し、「現實主義」が「藝者狂ひ」辯護の武器に利用されたことは敢て偶然ではない。現實主義者が三十二組合を除名し、勞農黨禁止に策動し（當時の萬朝報を見よ）日本農民組合を分裂させ、四團體を排斥し更に鈴木文治閣下の如き、此の秋までに勞農黨は潰れるか、さもなければもつと右翼的なものになると暴言を吐き、總同盟幹部も自組合の勞農黨支部設立を妨害し、更に自治會を分裂させたことを考へ合せるならば、此の反無産階級的「現實主義」が容易に「藝者狂ひ」辯護の武器と變り得と解とは餘りにも明かである。故に以後労働者農民は「現實主義」とは「腐敗墮落」辯護の主義思想をこすべきである。

議會解散を恐れるブル思想を排す

— 請願運動反對を反駁す —

一度び勞農黨京滋支部並びに無産者團體協議會によつて議會解散、耕作權確立、勞働組合法案改善等の請願運動が提唱されるや、各地の勞農大衆が之に呼應して立つたことは請願運動が現在の狀態に於て最も適當な政治運動の一形態であることを證據立てたものである。

二

然し此の請願運動に對しては曲解と誤解が行はれてゐる。雑誌「大衆」九月號「當面の問題」は「總選舉は、遅ければ遅いほど、勞農黨の基礎的組織が固まれば固まるほど良い」といひ、來議會を解散されたのでは手も足も出ないと主張してゐる。即ち雑誌「大衆」は議會解散に對して何等積極的態度に出でない許りでなく、寧ろ議會解散を恐れてゐるのである。だから勢ひ議會解散の請願運動に對しては、その性質上輕々しく行つてはならないし、なほ考慮の必要があると主張するのである。

三

果してさうだらうか？ 政友會が來議會の解散を避け、憲政會内閣を倒して自派の内閣を組織せんがために長野事件を利用し、怪寫眞問題を利用してゐる時、そして憲政會が來議會解散のホゾを固め

た時、無産階級がこの問題に對して何等具體的な一定の意見を持ち得ず、只管議會解散をコワがつてゐるといふことは一體何を意味するだらうか？ それは政治問題に對する無定見と卑屈と、政治問題をブルジョア政黨に委して置くといふことを意味するのである。政治をブルジョア政黨に委して置くといふことは、ブルジョア思想で、此の思想を宣傳することは、勞働者がブルジョアの思想的奴隸となることを要求するものである。此の故に雑誌「大衆」の「當面の問題」は大きな政治的罪惡を犯してゐるものである。

四

更に雑誌「大衆」は「議會解散が遅ければ遅い程、勞農黨にとつては利益であるが、かかる對總選舉上の實利と解散要求の大衆的運動とは、區別することが妥當である。……議會解散と否とは無産階級の好むと好まざるにかゝはらず、ブルジョア政黨の欲するがまゝに決定される。故に吾々の求める運動の効果は、宣傳と組織の目的を達成するにある」といふ。即ち議會解散はブルジョアがやるから、其はブルジョア政黨にだけ委して置いて勞農黨は解散要求の大衆運動をやれば好いといふのである。然し此の解散要求が如何なる形態で表現されるかといふことについては何等明言してゐない。今日我が要求する所のもので大衆的政治運動であることは明かであるが、之が如何なる形態をとるかといふことが重大問題なのである。然るに雑誌「大衆」はこの點に就ては全然確乎たる定見を持つてゐない。之は強ち了解されないことではない。即ち政治問題を、事實上ブルジョア政黨に委して置く雑誌「大衆」が、政治行動に於て確乎たる一定方針はないのである。此の故に勞働者農民大衆は斯かる反對

と誤解と曲解を一掃して、請願運動を支持しなければならぬ。請願運動こそ現在に於ける唯一可能の政治的大衆運動であり、尨大な大衆を政治的に動員し、政治的に教育し且つ勞農黨を活動的ならしめ、大衆を政治的に組織し得る唯一の行動形態である。

一九二六・九・一一(土)第四十六號

組織化し集中化し資本家聯盟成る

— 敵の内應者を驅逐せよ —

一

來る二十七日、六大都市の商業會議所が中心となつて全國の主要の工業團體約二十の代表者を大阪商業會議所に集め職工就業規則作例制定に關し内務省に對する態度決定を議し、あはせて將來の資本家聯盟組織について協議することとなつたと『東日』は報じてゐる。

二

之は日本の資本家階級が労働階級に對抗して自階級の全國的團結を結成せんとする運動である。而して此運動は從來の同一産業資本家の團結を更に押し廣めて全資本家階級の團結を結成せんとするものであつて、その結果資本の労働階級に對する攻勢は益々組織的となり集中的となることは明かである。殊に今度の協議事項が職工就業規則作例制定即ち労働條件改悪を協議するものであるから、如何

に資本家階級が集中化した力を以つて、組織的に労働階級に攻撃を加へて來てゐるかを實證するものである。

三

斯くの如く資本家階級が全國的に團結し其陣營を統一して、組織化し、集中化した攻勢を加へつゝある秋に當つて、無産階級の陣營は、右翼の裏切幹部によつて、再三の大衆的除名は敢行され、總聯合運動は蹂躪され、勞農黨からは四團體を除外される等愈々其の階級的勢力を分散せしめられつゝある。この勢力分散の結果は、何のストライキに於ても労働階級は甚だしく惡戰苦闘を續け著しく不利な立場に置かれてゐる。此の故に現實主義者が徒らに『經濟闘争すら満足に行ひ得ない組織労働者が政治運動を云々するのは『左翼』小兒病である』と労働階級を難じつゝ、他方に於て分裂政策を遂行してゐるのは、組織化し集中化された資本の攻勢を防止せず、却つて此の攻撃を容易ならしめ、労働階級を益々不利に陥らしめてゐるものである。此の故に彼等が如何に口で立派に資本家階級への攻撃を唱へるとも、それは口先だけで實際の行動は資本家階級の手先を勤め、労働階級を裏切つてゐるのである。

四

資本家階級が益々結束を固めつゝあるに反し、労働階級が右翼指導者の裏切によつて益々分裂させられつゝある秋、無産階級の前に横たはる任務は何であるか？『民衆新聞』は左右兩翼主力の決死的正面衝突であるといふ。即ち右翼指導者に據れば全國資本家聯盟結成を前にし、労働階級の遂行すべ

き任務は其陣營内に於て兩翼主力の決死的正面衝突をすることである。之は恰も歩武堂々と攻めてくる敵軍を前にして味方の陣營内で決死的衝突を起させるやうなものであり、味方の陣營を攪亂させ味方を敗北させることは火を見るよりも明かである。而して斯かる衝突を起させる者は何れの戦争に於ても敵軍の内應者以外の何者でもない。此の故に全國資本家聯盟の結成を前にして無産階級の遂行すべき任務は斯かる裏切者が策動する「決死的正面衝突」を防止し、其陰謀を撃破して、勞農黨の門戸を解放させ、全國組合會議を成立させ、請願運動を成功させる事である。斯くしてこそ初めて全國資本家聯盟に對抗し、勞働者の地位を擁護することが出来るのである。

一九二六・九・一八(土)第四十七號

無産者の頭と心臓の指導機關を持つて

— 勞農大衆の奮起を見よ —

一 十月中に開催される勞農黨第四回中央委員會を前にして、我々は過去を顧る必要がある。第三回と第四回中央委員會の期間内に、勞農大衆の間には可成り大きな變化が起つた。その一つは勞農黨の門戸閉鎖に對する抗議運動であり、他の一つは各地に勃發し徐々に全國的組織に向はんとする請願運動である。

二

門戸閉鎖に對する抗議運動は、勞農黨右翼指導者の分裂政策に對する勞農大衆の不信を表現したものである。勞農大衆は勞農黨第三回中央委員會に多くの期待を囁してゐた。中央委員會が政治的活動の頭となり心臓となつて勞農大衆を指導するであらうと待つてゐた。然るに第三回中央委員會は突如として門戸を閉鎖し、全ては終つたといふやうにサツサと引上げて仕舞つた。既設支部に對する承認も來議會對策も、市議戰の對策も、團結權罷業權の問題も、耕作權問題も——無産階級の前に横たはる諸問題に對して何等の指導も與へずに、至極簡単に門戸をピンヤリと閉めて仕舞つた。勞農大衆は之に失望し遂に抗議運動の火の手を上げたのである。此の故に抗議運動は中央委員會の態度を非と認め、その反省を促すものである。

三

勞農黨中央委員會は以上の如く政治問題に對して無定見、無自覺であることを曝露したが、勞農大衆の生活状態の窮迫は、遂に中央委員會の指導を待たずに政治的請願運動を勞農黨地方支部によつて起さしめた。これは現在の窮迫を打破しやうといふ勞農大衆の慾望が如何に熾烈であるかを物語るもので、地方支部が政治的請願運動を開始したことは大衆の慾望を直接反映したまでである。地方支部が之をなし得た所以は、常に大衆と接觸してゐるからである。此の故に勞農黨中央委員會の無政策、無指導は勞農大衆の要求を満し得ない許りか、大衆の意思を反映し得ないものであると言へる。

四

勞農黨の中央委員會にとつて必要なことはお上品な取引や、氣分や、術策でなく、勞農大衆の要求に耳を傾け、その缺乏を知悉し、如何なる指導と組織が必要であるかを勞農大衆に知らしめることである。そして常に勞農大衆の意志を代表し、勞農大衆の利益の爲に必要な闘争の指導をする事である。斯うであつてこそ初めて勞農黨中央委員會は無産階級政治運動の頭であり心臓であるが、これなくしては、中央委員會は無産者政治運動のオモンであり障害物である。だが果して現在の勞農黨中央委員會は前者であらうか？ 少くとも第三回中央委員會は後者であつた。之に對して諸方から抗議運動が起り中央委員會の指導なしに政治的請願運動が勃興したのである。之等大衆の要求と運動に對して第四回中央委員會が賛成するか、反對するか、黙殺するかは、由つて以て勞農黨中央委員會が無産者政治運動の障害物であるか、血の通つた頭と心臓であるかが判明する。勞農大衆は刮目して中央委員會の行動に注意しなければならぬ。

一九二六・九・二五（土）第四十八號

政府の解散準備に對して如何に答へるか

—勞農大衆の要求に添へ—

一 經濟界の沈滞に基く、ブルジョア政界の危機は、遂に憲政會内閣をして來議會解散の準備をなすの餘儀なきに至らしめた。憲政會内閣が今回二十數府縣に互る大々的の地方長官の更迭を行ひ、一切自派の地方長官をのみ各府縣に分布し、他派は悉く之を退けた如き、明かに其の一例である。更に東京市に

於ては各區の選舉事務主任を召集して詳細なる事務打ち合せをやつたことも、政府の普選による議會改選の準備を充分に覗ふことが出来る。

二

然し政府が議會解散の決意をなし準備をなしたからとて、政府が民衆の意思に應じて斯かる行動に出でたと考へるのは餘りに素朴な考へである。政府は極く最近まで議會解散を回避する爲に、政本と提携を策し、其の成らざるを知るや反動的勢力である研究会と手を執つて、議會解散回避に努力したのである。然るに政友會の「倒閣」運動が意外に擴大し政友本黨また之と手を執り、更に研究会も動搖するに至つたので、自派の勢力を維持する爲に憲政會内閣は「解散」といふ最後の手段に訴へるに至つたのである。此の故に憲政會内閣の來議會解散の決意と準備は、單に自派の勢力維持または擴大を目的としたもので、民衆の要求または利益を顧慮したものでは決してない。

三

之に反し現在勞農黨近畿地方協議會が唱導してゐる議會解散の請願運動は現在のブルジョア代表者許りの議會を解散して、現在勞働階級、農民及び一般民衆が蒙つてゐる不利益と壓迫とを排除し得る政治的闘争の道を開くことを要求する政治的運動である。此の故に勞農黨近畿地方協議會が議會解散を唱導するのは、一般民衆の利益を代表し、之を指導して其の要求を満たさんとするものに外ならない。此の故に勞働者、農民、都市小ブルジョア、インテリゲンチヤが此の運動を熱心に支持し、發展

させ、目的を達する迄運動を持続させることは今日緊要の任務である。

一一六

四

ブルジョア政界の危機と、この危機に處する労働黨地方支部並びに無産者團體の議會解散請願運動とに對して、労働黨第四回中央委員會が如何なる態度を採るか、中央委員會が無産階級の參謀本部であるか、または單なるお饒舌俱樂部であるかを示すものであるが、若し中央委員會が無産階級の參謀本部であるならば、廣く労働者、農民、都市小ブルジョア、インテリゲンチヤを政治的に動員し之を指導し得るやう、議會解散に對して具體的積極的の政策を樹立しなければならぬ。若し中央委員會が之をなし得ないならば、夫は無産階級の利益を裏切るものであり、無産階級の政治運動を妨害し抑制するものである。而して中央委員會が具體的積極的に議會解散の對策を講じ得る道は、現在門戸を解放し議會解散請願運動を指導することを措いて他にはないのである。此の故に門戸解放、議會解散請願運動に對して如何に中央委員會が答へるかは、彼が無産階級の指導者であるか、裏切者であるかを示す好個の計量器である。

一九二六・一〇・二(土)第四十九號

得々と右傾を高唱した總同盟十五年度大會

——罷業破りと同じ運動方針——

一

右翼の英雄達によつて指導されてゐる總同盟の十五年度大會が十月三、四、五と三日間大阪に於て開催された。此の三日間を通じて右翼の英雄達は總同盟は右翼である、現實主義である、左翼と決死的正面衝突をなさんとするものであるといふことを天下に聲明した。

二

總同盟大會が斯の如く勇敢に自己を右翼と認めたのは今回が初めてである。昨年臨時大會には、「戰鬥的態度を秋毫も失ふことなく云々」と大いに其の階級的、戰鬥的であることを宣言してゐたが、本年度の大會では藤岡主事が總同盟を右翼と平氣で呼んでゐる。即ち總同盟は從來の戰鬥的態度を放棄して右翼即ち階級協調に墮したのである。この變質の具體的現はれの主なるものは、右翼聯合と左翼團體排斥の決議である。

三

昨年の臨時大會に於ては「無産政黨の組織及び總聯合に關しては積極的にそれが實現に努め、前者

一一七

にあつては大衆政策の立場を顧慮し、有名無實の弊に陥ることを避け、後者にあつては組合信義と隔意なき諒解に立脚し眞に共同戦線の實力を具備するものたらしむるに努め」と曲りなりにも政黨問題と總聯合問題に對して階級的の立場から賛意を表してゐたのが、本年度の大會に於ては公然と之を覆へし、總聯合問題に就ては「指導精神並に運動方法を同じうする友誼團體とのみの結成をはかり云々」と目下進捗中の海員組合其他の協調組合との右翼聯合を決議してゐる。之は總同盟の指導精神並びに運動方法が従來の階級的、戰鬥的立場を離れて、海員組合の如き罷工破り組合其他の協調組合の指導精神並びに運動方針を採用したことを物語るものである。故に總同盟の今後の指導精神は協調的であり運動方法は罷工破りであることを天下に聲明したものである。

四

斯くの如く總同盟が階級的立場を放棄したことは當然政黨問題に於てその結果が現はれてゐる。四團體除外を飽くまで突つ張ること、四團體に屬する人々の加入した支部は絶対に承認せざることを第四回中央委員會に強要することの決議は即ち夫である。之は彼等が勞農黨の支持及び發展を協議せず、唯單に四團體排斥を固執して勞農黨の活動を癱瘓せしめ、之を自家樂籠中のものとするか、又は破壊するかに浮身をヤツしてゐる具體的現はれとして見る事が出来る。若し總同盟指導者が眞に勞農黨を支持し、發展させる意志があつたならば、過日の濱松、北海道の市議戦に於て勞働組合評議會が收めた成功を見て、四團體除外の無意味、反階級的であることを悟るべきであるのに、却つて之をなさず有力なる四團體を除外するといふ事は、夫れだけ勞農黨の勢力を殺ぐことである。而して夫は協調主

義罷工破りにまで墮落して行つた總同盟指導者にとつては何等、痛痒を感じない問題であるが、他團體の指導者が之に屈服することは、協調主義、罷工破りに屈従することを意味する。この故に第四回中央委員會は大衆の門戸解放の要求を入れて、協調主義、罷工破りにまで墮した總同盟指導者の四團體排斥を蹴飛ばすべきである。

一九二六・一〇・九(土)第五十號、一〇・一〇(月)第五十一號

組合利己主義を撃破し正論を死守せよ

——四團體は排斥すべきか——

總同盟大會が積極的に勞農黨進出を決議し同時に四團體排斥を飽迄支持する條件を附したので、此處に勞農黨第四回中央委員會は再び大きな障害物にブツ突かつた譯である。何となれば一方に於て門戸解放に對する勞農大衆の熾烈な抗議運動がある時、他方に於て總同盟が斷乎として四團體排斥を其の大會で決議したのであるから、此矛盾し、相排斥する二つの主張は當然第四回勞農黨中央委員會に於て衝突するからである。

二

然し無産階級にとつて重要なことは、此二つの相矛盾し相排斥する要素の何れがよく勞働階級及び

農民の利益を代表してゐるかといふことである。今假りに總同盟の要求に従つて勞農黨の既設支部及び支部準備會を整理し、四團體を飽まで排除するとすれば如何なる結果を齎すかといふに、夫は四團體の勢力だけ勞農黨が勢力を喪失することであることは明白である。斯かる勞農黨の多大な勢力の喪失は、議會解散、耕作權問題、勞働組合法案等々の大問題を前に控へた勞働階級及農民にとつて大なる損害であることは多言を要しない。然らば斯かる多大な損害を忍んでも四團體は排斥すべき性質のものであるかどうか次に問題となつて来る。總同盟の主張には此の點に就て明確な答へを與へてゐない。この故に總同盟の四團體排斥は何等の階級的利益に根據を置いてゐない主張であるといふことが出来る。斯かる曖昧な何等階級的利益に根據を置いてない主張を突つ張つて飽まで四團體を排斥し、勞農黨の勢力を殺がうといふのは餘りに自我的であり、反階級的である。斯かる自我的、反階級的な要求は全勞働者及び農民の爲に一蹴されなければならない所のものである。

三

之れに反し門戶解放を要求する諸團體の主張は、現在勞農大衆が當面する種々の重大問題に對する解決は勞農大衆の分散した勢力を一つに糾合し、組織化し、集中化したブルジョア及地主の攻勢に對して協力一致具體的問題(耕作權問題勞働組合法案議會解散等々)に於て自己階級の利益を擁護しやうといふものであり、その爲めには四團體排斥の如き自己陣營内の勢力の分散を來すが如き政策には徹頭徹尾憎惡的反對をするものである。此の故に門戶解放の主張は、勞働者農民の階級的利益を擁護する主張であるといふことが出来る、斯かる階級的利益を擁護する主張は死を以て守らねばならぬ。

四

以上に於て勞農黨内にある二つの相矛盾し相排斥する主張は、一は反階級的であり、他は勞働者、農民大衆の階級的利益を擁護するものである。正しき主張は死を以てしても守らねばならない。一部の人の如く、第四回勞農黨中央委員會に於けるこの二つの要素の衝突を回避する爲に自ら闘争場裡より逃れ去らんとすることは、却て此の反階級的主張を支持する結果に立ち至ることを豫め知らねばならない。この點を特に考慮して正しき主張を支持する團體及其の指導者は、反階級的主張を第四回勞農黨中央委員會に於て擊破し、勞農黨をして眞に勞農大衆の利益を擁護する單一的の大衆的階級政黨たらしめねばならない。

一九二六・一〇・一六(土)第五十二號

第四回中央委員會の前に横はる任務

——議會開會前に大會を召集せよ——

一

勞農大衆の下からの運動である議會解散請願運動が全国的に蔓延し、門戶閉鎖の抗議が全国的に渦を巻きつゝある一方、ブルジョア諸政黨は政局を議會解散に向つて(その意志に反して)進めつゝあり、資本家階級は全国的資本家聯盟を作り勞働條件の改悪を策し、地主協會は全国的大會を開催して小作法案の改悪を策謀しつゝある時、實に此の時第四回勞農黨中央委員會は開かれんとするのである。

二

斯かる形勢に直面した第四回勞農黨中央委員會は何を爲すべきか？ブルジョア諸政黨が自己の意志に反して政局を議會解散にまで導きつゝある時、勞農黨が此の問題に決然たる態度を採り得ぬことはブルジョア政黨に勞農大衆愚弄の機會を與へ且之を許可したに等しい。故に勞農黨は即刻議會解散の方策を樹て、第四回中央委員會は之に明確な指導方針を與へねばならない。而して勞農黨が議會解散請願運動を全國的に指導發展させることは、同時に議會總選舉の準備をすることにもなる。何となれば勞農大衆及び一般民衆を請願運動によつて結束せしめる時は、勞農黨の影響下に幾何の勞働者、農民その他一般大衆があり、之だけの勢力であれば總選舉の時如何に戦ひ得るといふ自信と見當がつくからである。而して議會解散が殆んど絶對に近い程確定的になつた今日、請願運動によつて議會解散への猛運動を起し、同時に總選舉對策及びその準備を既に開始することは第四回中央委員會の最大の任務の一つである。

三

次に勞農黨が政治的活動を開始するに就て最も必要なことは勞農黨の充實と擴張と發展とである。如何に立派な運動題目でも大衆の支持がなければ何の役にも立たないのであるから、議會解散請願の猛運動を起し、總選舉の準備及び對策を講ぜんとせば勞農黨中央委員會は黨に勞働者農民を大衆的に加入せしめる方策を樹立せねばならない。之には是非とも既設支部を無條件で承認し、門戸を広く未

組織大衆及び排除された三團體に解放することによつてのみ此の目的を達成し得るのである。之に反し勞農黨を小さく局限することは勞農黨の勢力を局限することであり、延いては其の政治的活動をも局限することになる。されば勞農黨第四回中央委員會が政治的に積極的に働きかけんとするならば、是非とも、既設支部の無條件承認、三團體排除の撤回をなすべきである。

四

更に勞農黨をして一層陣容を固めしめ、活潑に勇敢に政治的活動をなさしめる爲には、第四回中央委員會は議會開會前に大會召集日を決定し、大會に提出すべき綱領、規約、當面の任務（組織的、政治的兩方面の）等を審議決定すべきである。この全國的大會があつてこそ初めて勞農黨は一致の歩調と、プロレタリア的規律と猛烈な政治的運動とを開始すべき出發點を與へられるのであるから、第四回中央委員會は敢然凡ゆる障害を排して之が實現を決定すべきである。

一九二六・一〇・二三（日）第五十三號

右翼中央委員の脱退に微動だもせぬ勞農黨

——各支部の當面せる任務——

一

勞農黨第四回中央委員會の第一日は二十四日東京に開催された。此の日議事に入るに先立つて坂本

坪井、井上、高橋、佐々木、西尾、藤岡、麻生、齋藤、安部、賀川各勞農黨中央委員及び三輪書記長は勞農黨脱退の聲明をして脱退した。

二

勞農黨中央委員の過半数が脱退したことは勞農黨の分裂を思はしめるに充分であつた。然しそれは次の瞬間に於て脱退組の中央委員に從つて勞農黨から脱退すべき黨員は一萬二千の中僅かに數百名に過ぎぬことが判明したので右翼中央委員の脱退は勞農黨に微傷をも負はせないものであることが明かになつた。即ち脱退組の中央委員は勞農黨内に於て少しも大衆の支持を得てゐなかつたのである。勞農黨中央委員會は直に之が對策を講じ新に中央委員及び書記長を補充して會議を續行し既設支部の承認、請願運動の實行、總選舉對策、大會の召集等を決定して飽まで勞農大衆の單一政黨主義で邁進することを誓つた。

三

斯かる狀勢の變化は、勞農黨各地方支部の勞農黨本部に對する態度の變化を要求してゐる。各地支部の抗議運動單獨の請願運動、等は最早路傍に抛棄されなければならぬ。何となれば勞農黨本部で積極的に請願運動を指導する以上、勞農黨の權威を高める上に於ても勞農黨の名に於て此の運動を進めて行くのが至當であるからである。更に門戶解放の問題も黨大會で決定することになつた以上、本部に抗議することは意味をなさないからである。

四

勞農黨各地支部の今後採るべき態度は、請願運動を勞農黨の名に於て推し進め、積極的に勞働者、農民、都市小ブルジョア、インテリゲンチヤの署名を求め、之等の大衆を勞農黨の影響下に置くと同時に、勞農大衆の勞農黨への大衆的加盟を組織しなければならぬ。勞農黨は現在黨員一萬二千（我々は黨員數を誇張する必要はない）であるが大會までには少くとも五萬の黨員を擁する迄に宣傳演說會其他の手段で猛運動を開始すべきである。更に未だ支部の無い地方に支部を積極的に作ることも絶對に必要である。之は勞農黨を脱退した裏切者又は階級的裏切黨の有害な勢力擴張を防止する爲に是非なさなければならぬ。他方大會に代議員を送る準備を既に開始すると同時に、本部を精神的、物質的に支持することが絶對に必要である。

五

脱退組が階級的裏切者であることは明白である。然し彼等に裏切者の烙印を押すだけで満足してゐてはならない。彼等は先に農民黨を作つたが、今また獨立勞働協會と通謀して民衆黨を作らんとする。この陰謀に對して勞農黨は之を粉碎すべく主力を注ぐと同時に、彼等の影響下にある大衆を獲得すべく、勞農大衆の生活上の要求に即した問題を捉へて勞農大衆の政治的共同戦線の確立に一層の努力をし、彼等を大衆的に勞農黨に加盟せしめ、飽くまで勞農大衆の單一政黨主義を發展さすべきである。之は必ずしも不可能なことではなく現に脱退組の指導する總同盟、市電自治會、總聯合、官業總

同盟の組合大衆の中、幹部の脱退に反対して労農黨を積極的に支持する態度を表明したものが多数であるに見ても之を實證することが出来る。

一一六

六

斯かる形勢を見ても明かなる如く、労農大衆は飽迄單一政黨を要望してゐるのであるから、所謂中間派の脱退組が今回採つた態度は、其の意思如何に拘はらず、裏切行爲であることを勇敢に認め、再び労農黨に復歸して飽くまで労農大衆の生活上の要求に即した單一政黨主義を支持することは、今回脱退した中間派の指導者に残された任務である。

一九二六・一〇・三〇(土)第五十四號

總同盟の勞農黨脱退は一部幹部の横暴

——脱黨反對同盟の聲明——

一

勞働總同盟が勞農黨を脱退したことに對して、同組合内から之に反對する組合大衆が現はれ「勞農黨脱退反對同盟」を組織した。今この脱退反對同盟の聲明書と、幹部派の意見を代辯する「民衆新聞」とを比較することによつて、勞働總同盟の今回の勞農黨脱退が如何なる意圖の下になされたかを明かにすることが出来る。

二

總同盟の勞農黨脱退に關して「民衆新聞」は「斯くの如き大分裂を來すことは必然の形勢であつて、これは去る十月二十、二十一兩日の農民組合擴大中央委員會のときより既に豫見されたことであつた。若し農民組合幹部諸君にこの豫見がなかつたとしたら實に迂濶千萬で、あまりに眼先の見えぬ話である。然し乍ら若しこの豫見があつての上の行動であるならば農民組合幹部諸君の輕舉を嘆ぜざるを得ない。現在果して組織農民大衆は共產主義的であるか、第三インタナショナルの指令を快く受け容れるだらうか。評議會や無産青年同盟と農民大衆との距離は斯くまでに近いものだらうか。工業労働者の大多數が、共產派と絶縁せんとしつゝある今日、最も保守的な農民大衆が共產派に門戸を開放して之と握手せんとするが如きは、普通人(！)の常識(！)を以てしては到底判斷し能はざる所である」とその社説に述べてゐる。即ち「民衆新聞」は總同盟の脱退の責を農民組合に轉嫁し農民組合が門戸の解放を決議したから總同盟は脱退したのだと誣いてゐる。而して、農民組合を誣いんが爲めにブルジョアの恐がる第三インタナショナルを持ち出し、農民を保守主義者にし、工業労働者の大多數を反共產派の殿堂に祭り込んでゐる。

三

然し總同盟が勞農黨を脱退したのは農民組合の擴大中央委員會が門戸解放を決議した爲ではなく、且つ總同盟の組合大衆が脱退の承認を與へた爲でもない。即ち夫れは單に少數の幹部が意識的に勞農

黨を粉碎し小ブルジョア黨を作る野心の下になされた裏切行爲であることは總同盟の組合大衆が之を實證してゐる。即ち脱退反對同盟の聲明書に據れば總同盟は本年度大會に於て「勞農黨に對して積極的態度を以て臨むこと」と決議してゐるに拘はらず、此の大會の決議を無視して一部幹部が集つて政治部員會と稱して、突如として勞農黨脱退を決議發表し且つ實行したのである。斯くして大會の決議を蹂躪し、組合大衆の意志を無視した事に慚たらず、之等裏切幹部は更に社會思想社、獨立勞働協會等の知識階級を中心に政黨を組織し、總同盟は之を支持せんとするのである。之に對して「脱退反對同盟」は、總同盟幹部は總同盟をブルジョアに賣り日本無産大衆を欺き去るものではなからうかと借問してゐる。

四

總同盟幹部が「民衆新聞」を通じて農民組合の左傾を大仰に騒ぎ立て、第三インタナショナルの指令を捏造し、農民大衆を保守主義に押し込め、工業勞働者の大多數を反共産派の殿堂に祭り込んで、勞農黨脱退の裏切行爲を誤魔化し去らんとする時、その指導下にある總同盟の組合大衆が、彼等の行爲を總同盟本來の勞農大衆の提携、大衆的無産政黨の樹立の主張を放棄し、總同盟を無産大衆から孤立無援、ブルジョアとの妥協のみといふ立場に置いたものであると攻撃してゐることは、「民衆新聞」に代辯させてゐる總同盟最高幹部が如何に腐敗し、墮落し、勞働者農民大衆の利益を裏切つてゐるものであるかを實證するものである。之を以て見ても彼等は最早無産者大衆の意志を代表せず（大會の決議無視はその證據である）無産階級の利益を裏切る（勞農黨脱退と小ブルジョア黨組織が之を證

據立てる）ものであり、彼等が無産階級の陣營内に止つてゐるのは單に無産階級の陣營内にブルジョアの利益を代辯し、勞働者、農民の運動をブルジョアに有利に轉換させんが爲めであることを知る。此の故に眞に無産階級の利益を擁護し得る無産階級の單一政黨を發達させんとせば、總同盟内に起つた「日本勞働總同盟勞農黨脱退反對同盟」の運動を積極的に支持し、總同盟大衆を勞農黨に歸復させることに大なる努力を注ぐべきである。

一九二六・一一・六（土）第五十五號

ブルの一附屬機關たる小ブル黨の組織

——全線的攻撃を開始せよ——

勞農黨から脱退した「社會主義者」安部磯雄、牧師賀川豊彦、總同盟の勞働官僚等は勞農大衆とは反對の陣營に居るブルジョア經濟學者堀江歸一、吉野作造、ブルジョア小説家菊池寛、久米正雄、海軍大佐水野廣徳、協調會永井亨、國際勞働局淺利順四郎、獨立勞働協會及び社會思想社等と提携して、「民衆黨」を組織せんとしてゐる。

二

之は勞農黨内に在つた小ブルジョアの分子が勞農黨を小ブルジョア黨に變質させんと努力したにも

拘はらず、勞農大衆の一大抗議に遭つてその企畫が失敗に終つた結果、勞農黨の小ブルジョア黨への變質を斷念し新に小ブルジョア黨を作らんと計畫したものと具體的現れである。然して彼等が勞農大衆を結成する勞農黨から分離して、小ブルジョア政黨を作らんとした時既に彼等の意志如何に拘はらず、彼等はブルジョア陣營に降服し之と提携してゐた。即ち彼等がブルジョア經濟學者、ブルジョア小説家、ブルジョアの番頭と提携して『民衆黨』を作らんとしてゐるのは之を實證してゐるのである。

三

而して之はマルクス主義の正しいことをモウ一度生活が實證したものである。即ち小ブルジョアは獨立の政治的勢力たり得ず、ブルジョアの政治的勢力に附隨するか、然らずんばプロレタリアの政治的勢力に附隨するものであることを生活が之を實證したのである。安部、賈川、勞働官僚等がプロレタリアの政治的勢力の結成たる勞農黨から脱退、分離した時既に彼等の行く道はブルジョア陣營への降服であつた。而して彼等は事實完全にブルジョアの政治的勢力に屈服したのである。

四

小ブルジョアの分子のブルジョア陣營への滑り込みは同時に彼等の形成せんとする『民衆黨』が、小ブルジョアの政治的勢力の一附屬物となることを意味する。即ち之れはブルジョアの政治的勢力の分業を擔任してゐる憲政會、政友會、政友本黨等と同様に、プロレタリア陣營内に於けるブルジョアの利益の代表機關としての分業的役割を『民衆黨』が意識的にせよ無意識的にせよ演ぜんとしてゐる。

のである事はこの『民衆黨』の準備會の聲明書が雄辯に之を物語つてゐる。即ち『今日既に無産政黨を標榜するもの所在にこれ無きに非ずと雖も吾人は之を以て眞に健實なる基礎に立つ大衆を結成と見る事は出来ない』と聲明して勞農黨の存在を否定し之を攻撃してゐるのは、ブルジョア政黨が治安維持法を以て、勞農黨の發達を威嚇し其の政治的活動の分野を局限せんとする試みと同じ性質のものである。而して『民衆黨』による勞農黨の否定及び攻撃は、ブルジョア政黨の勞農黨壓迫を、無産階級の陣營内から聲援するものであることは否定し得ない事實である。

五

斯かる無産階級陣營内に於けるブルジョア的政治勢力の延長に對して、無産階級は猛烈に闘争しなければならぬ。而してこの闘争は既に開始せられてゐる。その最も著るしいものは總同盟の組合大衆による『勞農黨脱退反對同盟』の運動である。この運動は既に關東を越えて關西に延びんとしてゐる。然し此の運動を單に總同盟の組合大衆にのみ委せて置くことは、正しく進まんとする總同盟の組合大衆を見殺しにすることである。全無産階級は擧つて之を應援し、この運動を成功せしめて總同盟を勞農黨に復歸せしめ以て總同盟がブルジョアの政治的附屬機關となり終ることを防止しなければならぬ。斯くすることによつて無産階級はブルジョアの政治的勢力の附屬機關としての『民衆黨』の出現及び其の有害な發達を防止することが出來、無産階級の單一政黨主義を飽まで支持發展せしめることが出来る。

小ブル黨は何故排撃すべきか

—その反動化に注意せよ—

一

「民衆新聞」は安部、堀江、吉野等の小ブル黨組織「極めて時宜に適したる措置」とし「三學者の「義舉」をして有終の美を濟さしむべき義務」を大衆に強制しやうとしてゐる。然して之は日本に於ける唯一の無産階級の政黨たる勞農黨の小ブルジョア化に失敗し、之から逃げ出した右翼幹部の落ち着き所であり、彼等が衷心からの告白であるのである。

二

無産大衆の切實なる當面の要求の結晶として生れ出た勞農黨を脱退し、別箇の政黨を組織せんとする此等の右翼幹部が、ブルジョアの任務を無産階級陣營内で果さんとする裏切り者である事は既に明かにしたが、吾々は更に新に組織せんとする小ブルジョア政黨の本質を曝露し、その行方を突き止めねばならない。「民衆新聞」はこの新政黨組織を以て三學者の「義舉」と稱してゐるが、この「義舉」は一體誰の意志に基いてゐるのであるか誰の要求に基き誰の利害を代表せんとするものであるか？

三

普通選挙實施と、無産階級運動の政治的轉向に際して、無産階級の假面を冠り、無産階級的な看板を掲げてその勢力の分散を圖るのはブルジョアの最も意を用ゐる所である。階級的單一政黨たる勞農黨を指して更に新政黨を組織し、無産階級の政治的戦線を分裂させやうとするこの三學者の義舉、及びこの義舉を支持する總同盟幹部は明かに無産階級の意志によつてゐるのではなくて、ブルジョアの意志に依つてゐるのである。

四

無産階級の政黨は無産階級の眞實の意志に基き、大衆的な規模に依つて組織されねばならない。然るに二三の世間的に有名な學者や幹部達が、胸の中から割出して、四疊半で捏ね上げ、之を大衆に押し付けやうとするのは少しもブルジョアのやり方と異なる所なく、後藤新平が彼個人の頭の中で、作り上げた政黨と同じである。即ち本質に於てはブルジョア的である、彼等幹部達が代議士に當選してブルジョアと大々的に取引する爲に無産階級を欺瞞せんとする野心の結晶に過ぎない。

五

かくして組織された政黨が、無産階級の爲めに幾何の役割を果すであらうか。右翼幹部改良主義裏切的勞働官僚等は勞働者農民の眼前の部分の利益の爲に、その全體的目的を犠牲にする事を本質とする。然し日本の形勢に於て彼等右翼幹部に依つて無産階級の部分の利益さへ實現する事が不可能になり、彼等に課せられるものは、單なる裏切的職能のみになつてゐる。(過去一年に於ける彼等の裏切的

數々を見よ)かゝる状態に於て彼等が勢力を維持するためにはその指導下の大衆を反動化し、ファシズム化しなければならぬ。即ち之等裏切者による新政黨の前途は、何等急進的な方向に行くものでなく、徹底的ブルジョア化、反動化あるのみである。無産大衆はかゝる反動的政黨の出現を掃滅し飽まで階級的大衆的單一政黨たる勞農黨を支持しなければならぬ。

一九二六・一一・二〇(土)第五十七號

單一政黨の旗の下に團結せよ

——組合の分裂主義を排撃す——

一

極左にも極右にも組みせず、労働運動の正道を行くと稱して農民組合の三宅、須永、總同盟の加藤藤岡、麻生、望月の諸君等によつて『日本勞農黨』が成立されんとしてゐる。彼等は労働農民黨のやり方にも賛成出来ないがさりとて『小ブルジョア黨』にも好意を持ってないので、獨立の政黨を作るのだといふのである。

二

然し此の新政黨の趣旨は果して正しいだらうか。彼等に從へば現在の無産階級の政治勢力の分裂は極左及び極右の罪であるといふのである。即ち單一政黨としての勞農黨を分裂させたのは、極左と極

右であるといふのである。之は問題の中心を故意に回避したものである。即ち勞農黨の門戸解放を要求することが悪いのか、門戸閉鎖が正しいのかといふ質問に對して、どちらも悪いのだといふ答辯を與へると同じである。この答辯の曖昧は同時に態度の曖昧を惹起したのである。即ち現在無産階級の面前に展開された問題の解決に勇敢に進出することを避けて、その渦中から逃れこの渦巻とは別箇の途を進まんとするのである。此の故に新政黨の趣旨は曖昧であり、逃避的である。

三

更に此の新政黨の趣旨の曖昧さと逃避的とは無産階級陣營内に厭ふべき潮流を惹起しつゝある。厭ふべき潮流とは何か? 即ち組合の分裂主義である。今回の新政黨運動は總同盟を分裂させ、日本農民組合を分裂させる結果となることは明白である。即ち三宅、須永、加藤、麻生、藤岡、望月の諸君等は労働運動の正道を行かんとして却て、組合の分裂といふ邪に陥らんとしつゝある。政黨運動の爲に勞農大衆の日常生活の利益を擁護さず組合を分裂させ、其の勢力を弱めるといふことは絶対に排斥されなければならないことである。即ち政黨運動は勞農大衆に利益を與へるものであつて損失を與へるものでないといふことを勞農大衆に知らせることが絶対に必要である時、この利益と相反するやうな行動は絶対に避くべきである。而して組合の分裂主義は彼等が攻撃しつゝある『日和見主義者』と『左翼小兒病者』との常套手段であり、彼等自身夫を攻撃しながら自分自身『日和見主義者』と『左翼小兒病者』の行爲をしてゐるのである。

かゝるが故に「日本労働黨」組織運動に着手された諸君等が眞に労働運動の正道を行かんとするならば、總同盟の諸君は總同盟内で日本農民組合の諸君は労働黨内で輿論を喚起し、分散した現在の無産階級の政治勢力を大衆の利益である單一無産政黨の旗印の下に結成するやう運動すべきであつたのである。然し未だ「日本労働黨」は結成されてゐないから、今尙斯かる方面に向ふ餘地は充分にある下らない個人的體面問題を潔く抛棄して労働階級の分裂を來すが如き行動を避け、單一政黨を回復する爲めに努力することこそ、新政黨運動に着手した諸君が進むべき正道である。

一九二六・一一・二七(土)第五十八號

請願運動禁壓をブル政黨との闘争へ

— 選挙準備を開始せよ —

議會解散請願運動が全国的となり、請願運動全國協議會の主唱の下に十二月一日を請願デーと決定し愈々全國一齊に署名運動を開始せんとするや、政府は之に彈壓を加へて禁壓した。然し労働大衆は之に屈せず各地に於て此の運動は非常な發展を見たのである。

二

政府が何故請願デーを禁止したかといふに夫は此の運動によつて労働者、農民大衆が政治的に自覺することを恐れたからである。然して政府が斯かる禁壓を加へたことは、現在政權を握る憲政會が無産階級の政治的擡頭を恐れ、その發達を防止せんとした爲である故に我々を彈壓したのは憲政會である。然し他のブルジョア黨及びその手先黨もこの彈壓には賛成なのである。即ち此の彈壓に對して政友會も、政友本黨も、ブルジョア黨の手先黨たる日本農民黨も、民衆黨も全て皆同感たることは彼等が之の彈壓を傍觀して沈黙を守つてゐるに見ても判る。彼等は全て無産階級の政治的擡頭及び政治的自覺を恐れるが故に無産階級が憲法に保證された政治的自由を利用せんとしてさへ之を暴壓しまたは妨害したのである。

三

我々は當然斯かる彈壓に對して抗議しなければならぬ。この抗議は次の形を探るべきである。即ち請願運動禁止の抗議として労働者農民は一致團結し、今後の選挙に際しては一切ブルジョア黨及びその手先たる日本農民黨、社會民衆黨に投票せず階級黨の候補者に投票することである。之は今回のブルジョア黨及びその手先黨がとつた請願運動の彈壓及び妨害に對する抗議として最も意義あるものである。次に労働黨及び無産團體は今回の請願運動彈壓と妨害の意義を無産階級に廣く徹底させ、無産階級の政治的自覺を高める爲に此の問題を捉へて政治的アヂテーションと政治的組織を發展、擴大させるために一層の努力をなすべきである。斯くすることは労働者農民を大衆的に労働黨に加入させることにもなり無産階級の政治的勢力を強固にし擴大させて、ブルジョア黨及び其の手先黨と有效

に闘争し得る基礎を作ることもなる。

四

請願運動禁壓に對する抗議は斯くの如くブルジョア黨及びその手先黨との闘争に轉換させなければならぬが、之と同時に署名運動を繼續しつゝ、組織された請願運動委員を選挙準備委員會に變質させ既に選挙準備に着手すべきである。而して之は既にブルジョア政黨間の軋轢が議會解散にまで發展してをり、議會解散が目前に迫つてゐる今日當然なされなければならぬ性質の變更である。然し之は勞農黨に對抗して自分の候補者を選ぶといふことを意味するものでなく、却て勞農黨の擁立する候補者を應援し、援助し之に當選せしむべく協力する所の組織となることを意味するのである。而してこの爲には既に候補者の保證金の募集に着手しなければならぬことは勿論である。無産階級候補者の選挙費用は無産階級が負擔することが絶対に必要であり、夫はまた無産階級の候補者をブルジョアの金銭的支配に屈服させない爲になされねばならないことである。かゝるが故に擁立さるべき候補者は當然無産階級の陣營内から選ばれるべきで、ブルジョア黨及びその手先黨の候補者または選挙季節にだけ飛び出す野心家を立候補せしめることは絶対に反對すべきである。何故なら夫は無産階級をブルジョアに賣渡すことになるからである。斯くして労働者農民は來るべき總選挙に無産階級の候補者を當選せしめ、無産階級の政治的自覺を高め階級の利益を擁護しつゝ、ブルジョア黨及びその手先黨と有効に闘争しなければならぬ。

日本勞農黨の解體を要求せよ

——階級的單一政黨を主張せよ——

一

全日本の無産大衆が階級的大衆的黨の下に結成されつゝある時、總同盟のダラク幹部によつて代表せられる右翼指導者の一團が小ブル的『社會民衆黨』『日本農民黨』を組織して、全國無産大衆の利益を蹂躪しはじめてから、小ブル黨反對の叫びは、全無産大衆の間に響き渡つた。

二

『日本勞農黨』の創立は、右翼労働組合の大衆が、小ブル的政黨の下に彼等を拘束せんとするダラク幹部に對して敢然と反對するために蹶起したことを意味する。だが然し、この力は、無産大衆の本來的要求たる階級的大衆的黨にまで導かれねばならなかつたものである。

それにも拘はらず、この大衆が既に現存せる唯一の階級的大衆的黨たる『労働農民黨』の下に結成されなかつた事は、明かに、その指導者が階級的立場を誤つてゐた爲でなければならぬ。

而かも彼れ等が『日本勞農黨』組織に就て『勞農黨』の中に結成されてゐる日本農民組合の分裂を計畫し、これを敢行したが如きは明かに階級的裏切り行爲である。

三

日本勞農黨の指導者の云ふ所の「極右極左とを排して中間の道を行くこと」が、果して階級的行動であらうか。

彼れ等は、勞農黨を簡單に「極左」と惡口する事に依つて、大衆の勞農黨に対する信用を傷つけ様としてゐる。

然し、勞農黨こそ、その長い成立の過程に於て、特に、第三回中央委員會から第四回中央委員會に至る間に於て、全日本の勞農大衆が幾多の危険と困難とを排して築き上げた所の唯一の階級黨ではないか。そして、その階級的特質こそ群少似而非無産政黨の中にあつて、全無産大衆の唯一の代表たる所以ではないか。

然るに、彼等日本勞農黨の指導者等は、この最も重要な一點を無視して、徒らに「極左」「小兒病」と云ふが如き空漠たる名目の下に、この階級的黨を妨害し破壊せんと企てゐる。

かくの如き日本勞農黨に對し、勞農大衆は徹底的にこれを排撃すべきものであり、我等の階級的黨は、かくの如き彼等の計畫を克服する事に依つて發展して行かねばならない。

四

去る八日、日本農民組合中央委員會は、組合に對するあらゆる分裂政策を絶対に排撃すると共に勞農黨と日本勞農黨との合同に向つて努力する事を聲明した。

全無産大衆の利益を貫徹するために、特にかの社會民衆黨、日本農民黨の如き小ブル黨と闘争しこれを克服するために、勞農大衆が一致協力して、唯一の階級的大衆的黨の下に結成する事は、現在最

も緊要なる問題である。

而して、この兩黨の合同は、ひとへに「階級的」政治的結合の爲になさるべきものであり従つて又勞農黨の勢力を分散せしめんとするあらゆる計畫に對する徹底的排撃——「日本勞農黨の解體」の要求の上に實現さるべきものである。

五

かくして、日本勞農黨指導者の非階級的行動を、徹底的に排撃、克服し得たならば、それと同時に社會民衆黨日本農民黨に對する闘争も充分に遂行し得るであらう。

そして又、全無産大衆當面の要求たる、議會解散請願運動及其の他の政治的要求も、斯の如き階級的行動の上に、充分なる發展を期さねばならない。

一九二六・一二・一一(土)第六十號

日勞黨大衆に提携の手をのばせ

——日和見幹部の正體を曝露せよ——

—— さきに總同盟中間派幹部並に農民組合右翼幹部等によつて日本勞農黨樹立の策動起るや勞農大衆は一齊に起つて「日勞黨排撃」「勞農黨死守」の叫びを擧げ、我れ等又、階級的大衆的協同戰線黨の大精

神に基き、日勞黨の即時解體と、勞農黨の傘下への大同團結とを主張したのであつた。

一四二

二

之れより先、勞農黨細迫書記長は日勞黨幹部に會見を求めて熱誠にその反省を促したが無効なりしのみか、大衆の熾んなる排撃の叫びの前に種々詭辯を弄し、敢て大衆を欺瞞し勞農黨の攪亂を農民組合の分裂に狂奔したのである。十日、日本農民組合中央委員會は日勞黨大衆の専心要求する處が勞農黨傘下への大同團結に存することを察し、合同條件七箇條を定めて合同の希望を決議した。翌十一日杉山委員長細迫書記長は右決議を携へて日勞黨幹部を訪ひ、誠意を披瀝して彼等の反省を促し、兩黨の合同を要求したのであつた。然るに何事ぞ、彼等は不都合にもこの正當なる要求を大衆にはかるとなく、獨斷を以て拒絶し、『勞農黨がその指導精神を改めぬ限り合同などは夢にも考へられぬ』と毒づいたのである。

かゝる階級的無恥、裏切りの前は、全勞農大衆は黙止すべき筈はない。果然、十三日の労働農民黨第一回大會は、日勞黨幹部の徹底的排撃を決議し、彼等にしてその非を悟り誠心合同を希望し來らざる限り合同を問題とせぬ事、但し日勞黨大衆との提携は衷心期待して止まぬ事を可決した。

三

抑々彼等日勞黨幹部の反動的性質は我らの夙に看破した處であるが、今や一切は大衆の面前に餘す處なく曝露されたのである。彼等は勞農黨を『極左翼』『小兒病』などと誹謗して大衆を欺かんとして

ゐる。だが勞農黨今日の健全なる發達と強固なる基礎の確立とに對しては、彼等得意の惡罵も齒が立つまい。否、彼等自身こそ、却て『小兒病』であり、『階級的正道』を蹂躪するものではないか。光輝ある歴史を有する日本農民組合の分裂を策し、大衆が血涙を以て固めた勞農黨の攪亂を企てたる彼等こそ、正しく小兒病であり階級的裏切者である。見よ彼等の爲めに進出を喰ひ止められたる日勞黨大衆は、早くも彼等幹部に反抗するの氣概を示し、爲めに頭ばかりの日勞黨は、から元氣と駄法螺とも似ず、日ましに影が薄くなつて行きつゝある。

四

我等は固より、兩黨の合同を頭から否定するものではない。何となれば、日勞黨大衆は勞農黨の傘下に結成せる大衆と合併して、我等が唯一の階級的大衆黨、勞農黨を支持し協同戦線黨の使命を果さんことを希ひつゝあるからである。故に、我らは日勞黨の即時解體を要求したのであつた。勞農黨大衆は、その指導精神を死守しつゝ、日本農民黨、社會民衆黨の排撃その他の日常政治闘争に於て日勞黨大衆との協力提携を辭してはならぬ。

五

かくして、兩黨の眞の階級的合同は初めて可能となり、又かくしてのみ反動的ブルジョア政治勢力並びに反動的似而非無産政黨に對する無産階級の政治戦線が確立されるのである。

一九二六・一二・一八(土)第六十一號

厚顔無恥なる分裂政策を排せ

——日労黨を徹底的に排撃せよ——

一

先に、三宅、須永等農民組合の右翼幹部が總同盟の麻生、望月等と日本勞農黨を創立し、勞農黨及び農民組合の攪亂、分裂を畫策するや、勞農大衆の反對は猛然として全国各地に起つた。

そして、彼等が唯一の地盤と頼んでゐた、千葉、群馬、新潟、大阪等の聯合會に於いても勞農黨の死守を聲明し、日勞黨幹部の除名排斥を斷行して、その階級的裏切り行爲を粉碎してしまつた。

かくして、日勞黨幹部は彼等の陰謀が完全に失敗に終るを見るや今度は極めて陰險なる方法を以て勞農黨及農民組合の分裂を畫策し、飽まで彼等の階級的裏切りを押し通さうと企て出したのである。

二

十二月十三日、三宅、須永等の日本農民組合幹部及び三輪、吉田等の辯護士連が發表した聲明書は明かにこの陰謀を物語つてゐる。彼等は一方に「杉山組合長支持、分裂反對」を叫びながら、同時に「日勞黨支持」を要求し、一方に農民組合大衆を誤魔化しながら、巧に彼等の分裂政策を遂行しやうと企ててゐるのである。

三

然しながら、日勞黨幹部諸君が勞農黨及び農民組合の分裂を畫策した時、農民組合大衆は彼等に對して階級的誠意を示し、六ヶ條の合同條件を作つて日勞黨と勞農黨を合同せしめ、同時に農民組合の分裂を防止するために極力盡力したのであつた。然るに、三宅、須永、吉田其他の日勞黨を支持する諸君は、この階級的合同案を拒絶し、「斷じて合同せず」と聲明したのである。

彼等は斯の如き分裂政策を行ひ階級的裏切り行爲をしてゐるにも拘はらず、その勢力の没落するを見るや、厚顔無恥にも「杉山組合長支持、分裂反對」を叫び出した。そしてこれによつて分裂問題の責任を農民組合大衆になすりつけ、杉山組合長を利用して大衆を誤魔化しようとしてゐるのだ。

而し、農民組合と勞農黨の分裂を畫策したのは誰であつたか、そして、その責任は誰が負ふのであるか、勞農大衆はよく知つてゐるではないか。

彼等が、一方に「杉山組合長支持分裂反對」を稱へつゝ、一方に「日勞黨支持」を聲明してゐるのを見たなら、彼等が分裂の責任を他人になすりつけながら、飽くまで農民組合の分裂を決行しやうとしてゐる事が明白にわかるであらう。

何と云ふ蟲のよい言ひ分だらう。そして又何といふ卑怯な、陰險なやり方であらう。

四

彼等が勝手に擔ぎ廻してゐる杉山組合長すら、その陰險な態度に愛憎をつかし「私は勞農黨の一黨員として活動する事を聲明した程だから、決して、日勞黨の諸君と行動を共にしない」と言明し、彼等との會見を拒絶してゐる。

又、二十四日の勞農黨中央委員會は、彼等の陰謀を飽くまで排撃する態度を決定し、更に勞農黨支持の辯護士團を組織して、三輪、吉田等の腐敗辯護士と對抗せしむる事を決議した。かくして彼等の勞農黨及び農民組合分裂の陰謀は完全に失敗に歸し、階級的精神を持つ所の勞農大衆の力は彼等の策動をおさへつける事が出来たのだ。

五

然し、未だ油断してはならない。彼等は、諸種の巧言麗辭を用ひて勞農大衆を欺瞞し、本問題を來年二月の農民組合大會まで持ち越して、農民組合を攪亂分裂しやうともくろんでゐる。

日本農民黨、社會民衆黨と闘争する事に依つて、著しく階級的精神を高めたる我が勞農大衆は、斯の如き彼等の陰謀を曝露排撃する事に依つて、農民組合及び勞農黨の分裂を救ひ、更に、これに依つて益々我々の階級的闘争力を養はなければならない。

現在、農民組合及勞農黨を支持し、階級的單一政黨を確立する道は、日勞黨幹部といたづらに妥協するのではなくて、斷然これを曝露し、排撃して彼等の策動の餘地を無からしめるにあるのだ。

一九二六・一二・二五(土)第六十二號

階級的政治闘争へ

——年頭にたつ諸問題——

一 フルジヨア民主々義の獲得を目指して

わが無産階級運動が、過去一年の歴史を貫いて獲得し得た歴史的地位は、まさに無産階級的政治闘争意識の獲得、及び之に指導されて勞農大衆が今や組合主義的闘争から全面的政治闘争へ急速に進出しつゝある事であつて、之はまさに經濟闘争から政治闘争への方向轉換が今や初めて遂げられつゝある事を意味する。この歴史的地位を現實に於て語る重要な中心問題として、一九二七年初頭、我々は議會解散請願運動、組合運動の戦術變更、地方政治闘争の展開の問題に直面する。我々は之等を今や如何に解決し展開しなければならぬか。

二

無産大衆に議員選舉の自由を與へなかつた之迄の專制的議會を解散し、普選による總選舉を要求した議會解散請願運動は、無産大衆が政府の專制的支配の一形態に對して抱く、政治的自由の要求と憤激とを初めて大衆的に政府に投げつけたものである。それは議會の專制的性質の根據をつくものでないにしても之までの專制的議會に對する信頼の消失を訴へるものであつた。請願運動を嘲笑しつゝあ

つた社會民衆黨及び日本勞農黨幹部は、即ち大衆のかゝる政治的自由の要求と憤激とを嘲笑したのである。彼等はたゞ彼等自身の代議士立候補の日の安らかに來らんことを棚ボタ式に待つたに過ぎぬ。

三

我等は斷然として彼等に挑戦し專制的政治支配の下に押しひしがれやうとする大衆の此の要求と憤激とを明るみへ出し之を強めねばならぬ。請願運動はまさに此の觀點から展開すべきである。資本對勞働の賣買契約をめぐる政治闘争たる耕作權、團結權、健康保險の要求を、今や大衆が直接專制的議會への絶望と之に對する政治的自由の要求とを政府に投げつけんとする階級的政治闘争に混入せしめつゝあつた請願運動全國協議會は、此の混入のために不活動となつてゐる。我々は直ちに全國協議會を再編成し大衆の要求と憤激とを益々大衆的に廣め且つ高めねばならぬ。かくして先の第一回の地方に於ける請願署名を中央に集め再び請願運動の決行に進まねばならぬ。

四

健康保險法に對する闘争は殆んど自然成長的に全國に擴がつた。之は經濟闘争の埒内にあつた大衆を全國的に政治闘争にふるひ起たせた事に於て重大なる効果を收めた。然し資本對勞働の關係から一步も出でざる限り之れは政治闘争たり得ぬのである。この事は農村に於ける立毛差押へ、立入禁止に就ても同じである。全無産階級の政治闘争意識に貫かれた戰術のみが、之等の闘争を大衆的に階級的に計畫し勝利せしめ得るのであつて、組合運動における戰術變更はストライキ、教育、組織を貫いて

まさにこゝに向けらるべきである。

五

今や我々は眼を廣く高く全民衆に及ぼさねばならぬ。ブルジョア民主主義が未だ獲得されず而も金融暴力政治に轉移しつゝある我國では、政治支配は官僚的專制的形態をとり下層民衆に對する經濟的繁榮を與へない。こゝに小市民、中間層、農民の不平が起るのである。我々は彼等の特質、限界を見極めつゝ彼等の政治支配への抗争を援助し指導しなければならぬ。ストライキに於て勞働者が勞働者としての利害から市民に同情を求めんとした組合主義的戰術は買収か敗北かより外に出でなかつた。民衆各層の指導にまでつき進み得る無産階級政治的闘争意識のみがストライキも、殊に官憲の暴壓に苦しむ地方の些未なる經濟闘争をも階級的に計畫的に指導し得るのである。組合運動の戰術變更は當然こゝ迄展開すべきである。

六

之は直に今や民衆各層の指導にまでのびのかんとする地方政治闘争に對する我々の態度でなければならぬ。部分的特殊社會層の問題でも我々は之を政治支配への抗争として全體的意義を與へ得るのである。眼を今や全民衆の廣大なる地點にうつし屈伸自在に各層の政治的抗争を指導しなければならぬ政治支配は村役場、市役所、警察を通じて最も廣く民衆にひろけられる。而も日本の地方自治體は殊に中央官廳の強大な支配に統整され、完全に官僚的專制的支配をなすのであつて地方政治闘争は、直

に全國的闘争の意義を有するのである。地方政治闘争の展開には今や従つて地方指導者の政治闘争意識の高揚が急務である所以だ。

七

かくして我々の向ふところ、即ち我々が之迄戦ひとり得た無産階級政治闘争意識による階級的政治的闘争であり、ブルジョア民主主義の獲得に向ふ民衆各層の指導であり、階級的一大協同戦線の確立でなければならぬ。

一九二七・一・一(土)第六十三號

請願運動を全線的に開展せよ

——專制政治に對する反抗へ——

十二月一日の「全國請願デー」は支配階級の暴壓によつて禁止せられたのであつたが、今第五十二議會の再會を前にして、再び議會解散請願運動を全國的に捲き起し、全無産大衆の意志を完全に反映せぬブルジョア議會を速時解散し、普通選挙を實施すべき事を政府に要求しなければならぬ。

二

然しながら、我々が今議會解散請願運動を再起せしめ、これを遂行せんが爲めには、所謂請願運動

の新たな轉換を行はなければならない。

八月に提唱せられたる「耕作權確立」團結權確立「言論集會結社の自由」のスローガンは、當時にあつては、組織労働者、農民を政治闘争に動員し、これに依つて、右翼支配の下に完全に政治行動への進展を阻害せられてきた労働者を刺戟し、階級的政治闘争への第一歩を踏み出す爲の使命を果したものである。かくして議會解散請願運動は労働大衆を政治行動に動員することに依つて、右翼をして労働者乗取りの陰謀を放棄せしめ、労働者の政治的活動を活潑ならしめ、反右翼の労働者農民を大衆的に結成し得たのである。

三

然し、我々が社會主義的政治闘争へと全線的に展開し得たる今日、議會解散請願運動も亦必然に全線的展開を行はなければならない。即ち組織労働者農民のみの組合主義的政治闘争の形態から、未組織労働大衆及俸給生活者、小商人、青年、婦人等被壓迫民衆の各層を動員し、これを專制的ブルジョア政治勢力に對する一大反抗運動にまで組織しなければならないのである。

かくして我々がかゝる未組織労働大衆、俸給生活者、小商人、婦人、青年等を動員し、之を專制政治に對する反抗運動にまで組織する爲に、議會解散請願運動は在來の組織労働者農民の要求を中心とした狹隘なスローガンから、更に他の廣汎なる被壓迫者民衆の各層の要求を含めたる、全無産階級のスローガンに展開しなければならぬ。かくして、あらゆる社會層に對して、ブルジョア政治の專制的本質を曝露し、その不満、要求を誘發し統一する事に依つて、全線政治闘争へ展開することが出

來るのである。

一五二

四

然し、議會解散請願運動の意義は、單にかかるスローガンの獲得を全無産大衆に約束しその貫徹を全部とするものではない。

我々が、かかるスローガンを掲げて議會の即時解散、普通選挙の實施を政府に向つて要求するのは現在のブルジョア議會が、如何に支配階級の專制的獨裁機關となつてゐるか、我が無産大衆の要求が如何に議會に於て無視され蹂躪されてゐるか、従つて又、ブルジョア議會が如何に頼むに足らぬものであるかを全無産大衆に行動を通じて暴露しその政治意識を高めるにある。

故に、我々はかかるスローガンをひつさけて全無産大衆の叫びをば、專制的ブルジョア政府に對して不斷にあく事なく要求し全無産大衆に向つて彼等の要求と對立してゐるものは何であるかを充分に知らしめなければならぬ。

五

專制政治の下にしひたけられたる全無産大衆を全線的に議會解散請願運動に参加せしめよ。支配階級の暴壓に屈せず、農村に、工場に、街頭に第二回全國請願デーを舉行せよ。

社會民衆黨、日本勞農黨右翼政黨は、議會解散請願運動を拒否して、大衆の前にその非階級的性質を暴露してゐる。階級的黨たる勞農黨こそ、今日請願運動の新なる展開を提唱し大衆のかゝる要求を

指導し得るであらう。

一九二七・一・八(土)第六十四號

全線的展開は如何にして行ふか

——大衆を指導するは誰か——

一

我々は、過去一ケ年間の執拗にして果敢なる理論闘争の結果、急速に社會主義的政治闘争意識にまで高まる事が出来た。

この階級意識の發展によつて、廣汎なる闘争分野が我々の眼前に展開して來、今や初めて、勞働者農民、俸給者、小商人、婦人、青年等あらゆる被壓迫民衆の各層に亘つて、その不平を誘發、指導しブルジョアの專制政治に對する反抗にまで動員し、組織せんとする端緒につき得たのである。

我々は、いま、かかる被壓迫民衆の各層に於ける、政治的暴露の契機を敏速にとらへ、これを全線的闘争に發展せしめなければならない。

二

かくて、全國に亘つて既に政治闘争の烽火が、次から次へと燃えあがつた。

但馬震災義捐金問題、沼津居住權問題、同潤會アパートメント問題、姫路警察權濫用問題等々、は勞農黨支部の指導下に全無産者大衆を政治闘争へと動員し、闘争せしめてゐる。

一五三

議會解散請願運動も、今までの組織労働者農民のみを政治的活動に動員せんとする組合主義的性質から急速に發展し全被壓迫民衆の各層をこの運動の渦中に投ぜしめやうとしてゐる。かゝる請願運動の全線的展開は、單に各人民層の政治的要求を、今までのスローガンにそのまま付け加えた事によつて行はれるのではなくして、この運動を行ふ我々が社會主義的政治闘争意識にまで高められ、その立場からかゝるスローガンの意義を理解した事に依つて可能となるのである。

社會民衆黨、日本労働黨の如きエセ無産政黨が全國に漲つてゐる議會解散請願運動を指導し得ず、又各地に高まりつゝある被壓迫民衆の不滿に對し無爲無策、ブルジョア政黨の如く徒らに代議士病に悩まされてゐるのは、かゝる點の無産階級政治闘争の意義を理解し得ぬ事を證明するものである。

三

我々の當面の任務は、議會解散請願運動及び其他の日常政治闘争を活潑に指導し、ブルジョア専制勢力と勇敢に抗争する事である。

かゝる全線的政治闘争を充分に指導し遂行する爲には、地方の指導者は先づ社會主義的政治闘争意識を明確に把握し、その意識を益々高めてゆく事を必要とする。何故ならば、若し指導者が自ら高まる事に依つて政治闘争の目的及各人民層の本質とその限界に就て充分の認識を持つてゐなかつたら、その闘争は小ブルジョア自由主義の闘争に終つてしまひ、ブルジョア政黨及びエセ無産政黨の行動と何等異なる所がなくなるからである。

全線的政治闘争への展開とその充分なる遂行のために、各地の指導者は組合主義的意識を克服し、

社會主義的政治闘争意識を戦ひとるために努力しなければならない。

四

我々の闘争が、全線的政治闘争に進展し得た今日、組合の活動は更に重要性を加へて来る。我々の戦線が被壓迫民衆の各層にまで擴大し、俸給者、小商人、被使用人、婦人、青年等小ブルジョアの意識を多分に所有せる要素を、ブルジョア専制勢力に對して動員するに當り、これ等諸人民層の先頭隊として最も勇敢に抗争するのは組織労働者農民である。かゝる先頭隊として訓練せられたる組織労働者農民の緊密なる團結と強力なる力なしには全線的政治闘争は充分に遂行され得ない。

政治闘争のためには組合の仕事は重要でないと思へるは大なる誤りである。新しく高められた階級意識によつて、我等の城砦たる組合の仕事は益々活潑に行はれ、全線的闘争の先頭隊としての組合の任務は益々重大になつて来るのである。

一九二七・一・一五(土)第六十五號

中間派總聯合を徹底的に粉碎せよ

—代議士病幹部の陰謀—

麻生、望月等の追隨的組合主義者が作つた日本労働組合同盟、高山、坂本、伊藤等の中間派右翼幹

部を中心とする中堅同盟、これに農民組合の分裂を策してゐるダラク幹部等が加つて、勞農總聯合を提唱し、その創立大會が本月二十五日大阪で開かれやうとしてゐる。我々は、かゝる小ブルジョア的の中間派結成に對して、斷然として反對し、これを粉碎しなければならぬ。

二

彼れ等が計畫してゐる總聯合は、決して、全無産階級が要求してゐる勞農戰線の階級的統一にあるのではなくして、創立以來、日に日に影が薄くなつてゆく日本勞農黨の地盤を作るものであり、結局は彼れ等代議士病幹部の選舉地盤の結成をなすものである。

この事は、第一回準備委員會の聲明書に「吾等は吾等の經濟闘争と緊密の關係にある政治闘争の主体としての日本勞農黨の創立に對し心からの賛意と喜びとを以て極力これを支持せんとするものである」と明言してゐる所である。

その總聯合の結成たるや、日本農民組合の分裂を畫策し、或は到る所で中間派組合の攪亂と誘惑を企て、これらの部分的結合によつて勞農總聯合の名を濫稱しやうとしてゐるのだ。

三

何故にかゝる形態を取るに至つたか。

それは今日の段階——即ち全無産大衆が自然成長的闘争より、社會主義的政治闘争への飛躍を遂げ

つゝある時に於て、偏に大衆の自然成長的運動にのみ追隨し來つた組合主義的幹部が、かゝる飛躍にも早追隨し得ず、自ら意識化して大衆の進出を喰ひ止めんとする反動的努力を表はすに至つたのである。即ち彼等は組合主義として自らを結成し、没落せんとする地位を維持する必要に迫られて來たのだ。こゝに社會主義的政治闘争に進出せる大衆に對しては極左翼の逆宣傳が發せられ、彼れ自らを「階級的正道」を歩むものに決定つけやうとする努力が生じる。

かくて「階級的正道」を歩むものが階級的裏切りたる組合分裂の策動者となり「左右兩翼對立闘争の外に立ち」つゝ反動化への道を辿るのだ。

四

彼れ等は自ら中堅同盟機關紙「日本勞農新聞」に於て「組合主義の確立」を高唱してゐるではないか。即ち彼れ等の使命とする所は勞働階級の歴史的使命の遂行を拒否し、社會主義的政治闘争への飛躍發展に更ふるに、政治に訴へる經濟闘争、組合運動の延長としての政治運動たる組合主義の確立にあるのだ。だから彼れ等の勞農提携論は、農民をしてプロレタリアートの歴史的使命遂行の支持者たらしむべく引き上げるのではなくて、農民の保守的性質を高唱し、この農民の保守的性質にプロレタリアートを追隨せしめやうとする反動的努力に過ぎない。

だが全無産大衆は今や決然たる勢ひを以て全無産階級政治闘争へ飛躍しつゝある。故に彼れ等になし得るのは、この全無産階級政治闘争を遂行する爲の勞働者農民の階級的結成ではなくて、中間派幹部のみの野合による裏切りの總聯合であり、かゝる中間派の結成は必然に反動化する外はないのだ。

五

吾々はかゝる彼れ等の本質を見究め、その正體を徹底的に大衆に曝露して抗争する事によつてのみこの裏切りの總聯合結成を撃破し得る。全無産大衆の飛躍と發展の爲めに、それは粉碎されねばならぬものであり、之を粉碎する事によつてのみ眞の労働者農民の階級的結成たる勞農總聯合は樹立され得るのだ。

一九二七・一・二二(土)第六十六號

請願運動の展開と政治的曝露の必要

——三黨主妥協を曝露せよ——

一

「第二回請願デー」を機として、全線的政治闘争への展開を行ひつゝある議會解散請願運動は、この新なる展開の意義を十分に徹底せしめるために、本月三十日東京に於いて全國協議會を開催する事になつた。

我々は、いま、過去の運動に對する充分なる批判を行ひ、新しい闘争への途を確實に踏み出さねばならない。

二

社會主義的政治闘争意識によつて貫かれたる「第二回請願デー」に於て、我々は被壓迫民衆の各層に向つて「議會解散、普選即時實施」を呼びかけたのであつた。そして、この全線的展開は力強くその第一歩を進めたのである。

然し、我々はこの展開を、更に各民衆層の中に充分に滲透せしめ我々の掲ぐる全階級的スローガンを眞に生き生きと大衆の中に感ぜしめねばならない。

「第二回請願デー」に於いて、未だ充分に果し得なかつた被壓迫大衆の全線的動員こそ請願運動が當面せる重大なる問題である。

三

我々は大衆の中から、不平と要求を誘發し、これを反抗にまで組織する爲めに、先づ、眼前に存在する具體的事件をとり來つて、その專制的本質を充分に曝露し、かゝる專制的支配下に彼等が呻吟してゐる事實をつきつけねばならない。

いま、我々無産者の周圍をとり巻く諸壓迫諸問題は、たとへそれが極めて小さな事件であつたにせよ、全國的組織的專制支配の一つとしてつながりを持つてゐるものである。我々は、如何に小問題でもこれを逃がさず捉へその本質を徹底的に曝露し批判する事に依つて一體抑壓者は誰なのか、その壓迫の下に苦しんでゐるのは誰であるかを、具體的に描き出さねばならない。

かゝる具體的曝露に依つて、大衆は初めて彼等の意志と對立する者は何であつたかを明かに知り、彼等の不平と要求と反抗を投げつけるべき中心點と、その手段とを意識するのだ。

四

議會解散請願運動は全被壓迫民衆の專制的政治に對する反抗の全國的集中的運動としてまき起つたものである。

あらゆる政治的曝露は、いま議會解散の要求へ結び付けられねばならない。請願運動は全被壓迫民衆の各層に亘つて、政治的曝露を執拗に重ねてゆく事に依つて、全線的展開を眞に遂行する事を得、我々の掲ぐるスローガンを各民衆層の間に、彼等の當面せる問題として生き生きと感ぜしめる事が出来るのである。

五

第五十二議會の初頭に行はれた三黨首妥協に依る議會解散の回避の如きは、明かに專制的支配の手先たる既成政黨の墮落と、現議會の反動的性質を物語るものであり、又大衆の議會解散の要求を蹂躪し去つたものである。

斯の如き問題に對する充分なる曝露は、直に被壓迫大衆の不平と反抗を誘發し、專制政治に對する抗争たる請願運動に彼等を動員する契機たるものである。

我々は、「第二回請願デー」の批判に依つて、いまこそ「第三回請願デー」を決行すべき契機と力とを持つてゐるのだ。

三頭首妥協問題を徹底的に曝露せよ！

三たび起つて、「全國的請願デー」を決行せよ！

一九二七・一・一九（土）第六十七號

現段階に於ける統一運動の使命

—階級的政治闘争への轉換の中心部隊—

一 わが國に於ける無産者階級運動は、歐洲大戰以後の短期間の中にあわたしい發達を經過した結果として、平和的發展を行つた歐洲諸國に於いて見らるゝが如く、組合主義の段階に於いて充分にその統一を達成する事なしに政治闘争へと進出した。

そして、この政治闘争への進出に伴つて、急激に展開せられたる理論闘争は、左右兩翼の政治的對立を明確ならしめ、多數の小組合を分散せられたるまゝにこの政治的分野に分たしめた。

労働農民黨は、この對立抗争の過程を通じて階級的協同戰線黨として全線的政治的結成への道に進んでゐるものである。

二

かゝる段階に於いて、労働組合の全國的統一は如何にして可能とせられるであらうか。

既に計畫せられたる右翼總聯合の如き、或は最近の中間派日本労働總聯合の如き、何れも名を總聯

合と潜稱してゐるもの、眞に統一の使命を果し得るものではない。何故なれば、今日社會民衆黨は反動的小ブルジョア自由主義としてブルジョア陣營に移行し、日勞黨は追隨的組合主義として大衆の進出を抑壓する事に依つて、辛うじて自らの地位を維持して居るもので、最早階級戦線を指導し展開する役割を果し得ないからである。

故に、彼等の計畫する所謂總聯合なるものは結局反動幹部の選舉地盤か國際勞動代表選出の機關以外には何物でもあり得ない。

勞農大衆が、左右兩翼對立闘争に依つて、いまや社會主義的政治闘争へと階級的成長を遂げつゝある時彼等右翼及中間派の限界内に於いて全國的總聯合を結成せんとするが如きは、一の反動的計畫に過ぎないのである。

三

現段階に於ける統一運動は、過去幾度か失敗した組合主義的總聯合結成計畫に依つて、即ち單に外部的條件の變化と幹部間の了解とに依つて到達し得るものではない。

絶えざる對立闘争に依つて右翼中間派幹部を克服し、その下に階級的成長を抑壓されてゐる大衆に向つて眞の階級的的精神を覺醒せしめ、提携を呼びかける事によつてのみ可能となり得るのである。

而も、今激烈な資本の攻勢を前にくるしんでゐる勞農大衆は、戦線の統一とこれに依る階級的抵抗力の發展とを衷心から要求して止まない。我々は高められたる階級精神への呼びかけと、かゝる段階に於ける統一運動を妨害し破壊してゐる右翼、中間派幹部の本質を曝露し、かゝる勞農大衆を高揚せ

しむることのみが眞に勞農總聯合結成への唯一の道程なのである。

この故に、現在統一運動は、既に階級的大衆的協同戦線黨として社會主義的政治闘争意識にまで高められつゝある勞働農民黨を支持し、その展開と相まつて全國的統一へと進み得るものである。

四

統一運動同盟全國協議會は「勞農黨積極的支持」全國總聯合即時實現」をスローガンとして、既に活潑なる活動を開始して居り、右翼中間派との闘争によつてその組織は全国各地に發展して居る。統一運動同盟こそは、現段階に於ける階級的勞農總聯合結成への唯一の過程となるべきものであり、あらゆる闘争場面を通じて右翼、中間派更に未組織大衆をその影響下に持ち來らす事に依つて、統一運動を達成し得るであらう。そして、現段階に於ける統一運動の方向は、これより他にあり得ない。

我々は政治戦線に於いて勞農黨を飽まで支持すると同時に、統一運動同盟に参加する事に依つて、その使命を貫徹せしめねばならない。

一九二七・二・五(土)第六十八號

日本農民組合第六回大會の任務

——方向轉換へ進出せよ——

日本農民組合の第五回大會から來る第六回大會までの期間は、所謂左右兩翼の對立抗争が遂に、そ

れぞれを意識化せしめつゝ、灼熱的抗争の舞臺に初めて押し進めた時であつた。今やすべてが、その眞實の土臺に立つて抗争し左翼は遂に全無産階級政治闘争意識を戦ひとることによつて、現實に、我が無産階級運動の方向轉換を成し遂げるべく既に發足し得たのである。所謂左右兩翼の對立抗争は此の轉換を齎すが爲に必然に、果敢執拗なる抗争となつたのであつた。而して日本農民組合は、實に、よく、此の對立抗争を敢行し、而して今や漸く、内部に残留せる日勞黨派幹部を一掃し得て、遂に現實に初めて、此の方向轉換の緒につき得たのである。第六回大會はまさにその第一歩でなければならぬ。

二

農民運動は既に昨年初めより、古き經濟闘争から更に一步進出しつゝあつた。小作料をめぐる地主對小作人の闘争は必然に耕地返還をめぐる立法上の闘争に發展した。耕作權の要求はその表現の一つである。かゝる闘争の發展が、小作人をして政治意識につきあたらせ、全國に亘る耕作權要求の政治的運動を喚び起し、更に此處から初めての第五十二議會解散請願運動へ發展した。然しそれは依然と經濟的闘争たるを失はぬ。運動は依然として狡隘なる小作人對地主の關係に限られ、小作人はその經濟的要求を政治的手段に訴へるといふのに過ぎぬ。

然し現在の政治支配、即ち絶對專制的政治權力は、封建的搾取制に悩む農民を更に抑へ付け、官憲の××政治、小作法、争議調停法等による小作人運動の撲滅策、自作農創定案等の經濟的讓歩による欺瞞政策を以て更に農民を積極的に反動化せしめ、國家資本主義トラストとして結成せる金融獨裁政

治の下に、農民の奴隸的屈從を強いんとしてゐるのである。随つて、單なる經濟的要求の延長としての政治運動、個々の地主に對する闘争の綜合としての政治的闘争は何等農民をかゝる支配からの解放へ持ち來さない。

三

かくして從來の狹隘なる闘争よりあらゆる被壓迫階級と結合してこの專制的政治形態に突き當らせらる闘争への轉換の必然性が生ずる。即ち最早個々の地主に對する限られた小作人の闘争でなく、あらゆる被壓迫者被搾取者の不平と不満、あらゆる屈從に對して、之等の廣汎なる層を奮ひ立たせ、闘争せしめるのでなければ農民の解放もなし遂げられない。

農民組合は、上述の自然成長的な闘争より現實にかゝる全無産階級の闘争への方向轉換の舞臺へ昇り來つた。之に對して日本農民黨は意識的に支配階級に協力して農民の反動化に努め、日本勞農黨は方向轉換を拒否して從來の狹隘な組合主義的闘争に止まらせやうとしてゐるのである。而も日本農民組合は之等との對立抗争により益々その方向轉換過程を明確ならしめた。

四

今次大會は、かゝる現段階の明確なる認識の下に、この新なる觀點から、一切の方針が決定されねばならぬ。即ち、總ての争議、總ての闘争は、以上の如き專制的政治形態に對するあらゆる被壓迫階級の闘争として之を指導し、發展せしめなければならぬ事、従つて之が爲に限られたる組合員のみ

よる闘争ではなく、廣大なる未組織農民、中小自作農其他あらゆる被壓迫階級も之に動員されねばならぬ。更に之等の被壓迫大衆が解放される爲の決定的條件は、この全無産階級的な政治闘争を遂行する先頭隊としての、都市プロレタリアと農民の鞏固なる結合である。然してこの結合は、日勞黨派による勞農總聯合の如く、單なる經濟闘争の爲の、農民の反動的性質の前に勞働者を屈服せしめて出来るものでなく、全無産階級的な政治闘争の本隊として、歴史的使命の遂行者たる勞働階級に對し農民を之が協力者たる點まで引き揚げるのでなければならぬ。かゝる勞働者農民の提携は現在のこの新しき立場からのみ初めて可能なものである。この爲に農民組合は、階級的共同戦線黨たる勞農黨を益々支持し、政治闘争を通じて勞働者農民の提携へ進まなければならぬ。

かくして今次大會の使命は、過去の組合主義的乃至日和見主義的な傾向を清算し、方向轉換の一步を踏み出す點にあるのである。日勞黨農民黨に對する闘争もこの立場からのみ可能であり。且之が克服へ向つて進むことが出来る。

一九二七・二・二二(土)第六十九號

統一運動同盟を積極的に支持せよ

——日本農民組合第六回大會を望む——

日本農民組合は、その内部に分裂を策動した追隨的組合主義者の一派を除名し、古き組合主義の殘存物を清算しつゝ第六回全國大會にのぞまうとしてゐる。

かゝる清算をば見事に行ひ得るまでに高められたる日本農民組合は、更にその前に課せられたる諸問題を積極的に解決する事に依つて發展への基礎を確實に踏みしめてゆかねばならない。

特に現段階に於ける勞働者農民提携の問題従つて又、階級的勞農總聯合結成の提唱は最も重大なる問題である。

二

勞農黨が日本農民黨、社會民衆黨、日本勞農黨との對立闘争によつて發展深化してゆくに従つて、これを支持する日本農民組合も亦發展深化の道を進め、全階級の政治闘争の舞臺へ上り來つた。

然しながら、かゝる對立闘争は日本農民組合の内部に於ても一の矛盾を激成し、遂にかの日勞黨を支持する追隨的組合主義幹部の一派を發生せしむるに至つたのである。

そしてこの矛盾對立をば充分に解決し得なかつた結果として、去る十二月、中間派結成に依る日本勞農總聯合及び左翼の日常闘争組織たる統一運動同盟を前にして日本農民組合はその何れにも参加せざる事を決議した。かくの如き總聯合問題に對する極めて曖昧なる態度は、自らの中に矛盾を包含してゐた農民組合の當時の状態としては、やむを得ざる必然の道ゆきだつたのである。

然し、日勞黨を支持する追隨的組合主義者の一派を除名する事に依つて、自らの内部に存在せる矛盾對立をば解決し、過去の組合主義的殘滓を奇麗に清算して、勞農黨支持の態度を益々強める事を得た今日、日本農民組合は勞農總聯合問題に對しても解決の第一歩を踏み出し得る力と主體的條件を戦ひ得てゐる。

そして、今や總聯合問題は日本農民組合自らの問題であらねばならないのである。

三

日本農民組合が、全階級の政治闘争の舞臺へと進展しつつ、組合主義的裏切り幹部の一派を除名し得たる現段階に於いて、組合主義的政治闘争の限界内に大衆を阻止せんとする日本勞農總聯合を支持し得ざる事は明かである。

彼等が農民の「純朴性」と「保守的性質」を強調し、勞農大衆の全線政治闘争への進出を妨害し組合主義的政治闘争の限界内に於ける勞農提携を主張するは、反動的行動以外の何物でもあり得ない帝國主義的専制支配下に於いて、最も激烈なる抑壓に當面してゐる巨大なる農民こそブルジョア・デモクラシー獲得の爲の有力なる戦闘部隊となり得るものであり、かゝる全階級政治闘争の舞臺に於ける勞農提携こそ現在最も必要とせられる所である。そして、かゝる闘争に於いて都市プロレタリアートと提携する事なしには、農民はその歴史的使命を果す事は出来ない。

而して、統一運動同盟こそはまさにかゝる闘争を現實に開始したものであり、階級的勞農總聯合の唯一の萌芽をなすものである。

四

統一運動同盟は、専制的支配に抗争する唯一の階級黨たる勞農黨を支持し、左翼の日常經濟闘争の組織として發展し、「勞農總聯合の促進」をスローガンとして、労働者農民提携の爲に各地に活動を開

始してゐる。

眞の勞農提携、従つて又勞農總聯合結成の道は、いまや、統一運動同盟に依つて指示せられてゐるさきに、農民組合は、自己の内部的矛盾に依つて總聯合問題に中立的態度を聲明した。農民組合は今や一步前進してゆかねばならない。

五

統一運動同盟を支持せよ。

これのみが今や唯一の階級的總聯合へ進み得る道である。統一運動同盟を支持し、日勞黨の勞農總聯合下の大衆と協同戦線を絶えず張れ。日勞黨幹部との執拗なる闘争こそ、やがて全國的總聯合を提唱し得る道を開くであらう。農民組合は統一運動同盟を支持せよ。

一九二七・二・一九(土)第七十號

即時撤兵を要求せよ

——對支非干涉同盟を組織せよ——

「打倒帝國主義」「打倒軍閥」「不平等條約廢棄」を叫び、支那民族を帝國主義列強及びその代理人たる封建的軍閥の支配より解放するために戦ひ來つた北伐軍は、いまや各國帝國主義の協同根據地たる

上海を占領せんとしてゐる。各國帝國主義の傀儡國民革命の最惡の敵、孫傳芳及列強の協同根據地上海を支那國民の手に奪還するために北伐軍と呼應して、上海總工會指導のもとに、上海全市民は上海總罷業罷市を開始した。上海市の政治經濟が帝國主義列強、殊に日英の支配下にあり、支那最大の貿易港たるのみならず、中部支那に於ける最後のしかも最も有名なる反革命的勢力の根據地であり、上海占領は北伐軍の決定的勝利を齎す重要な楔機となるが故に、帝國主義列強は總罷業に對して公然武力的彈壓の舉に出た。即ち日、英、米、佛、白列強は孫軍を表面に立て治安維持に名を藉つて戒嚴令を布告し、數百名の罷業團員を虐×慘×し且つ、公然、多數の軍艦、陸戦隊を派遣して、罷業に對して苛酷なる彈壓をなし上海を武力によつて死守して國民革命の進展を阻止せんとしてゐる。

二

日本は表面上「支那の主權及領土保全、絶對非干渉主義」を装ひつゝ、大軍を滿洲に駐屯せしめ、北方軍閥政府に政治及軍事顧問を附し、武器軍資を支給して張作霖を操縦し、支那國民解放運動を阻止せしめ以て北支那滿蒙に於ける自己の帝國主義的利權を擁護せんと努めつゝある。かゝる分割支配政策こそ日本帝國主義の對支政策の根幹をなす物である。故に我が無産階級は日本政府の分割支配に反對し張作霖を倒し、駐支日本軍の撤兵、北京政府否認國民政府承認滿蒙特殊利權放棄不平等條約廢棄を要求し自らを解放するために支那國民革命を成功せしめ、支那に於ける日本帝國主義を打破する事を、一般戰略とせねばならぬ。上海に總罷業が起るや我が政府は直に數百の陸戦隊、數隻の軍艦を派遣し、又列國との協定の下に二千名の軍隊出動を準備した。我が帝國主義ブルジョアジーは、今や

公然武力干渉、直接支那被壓迫民族の殺戮による日本の特殊利權擁護の舉に出たのだ。北洋軍閥の南進の背後に列強、殊に日本政府の魔手のある事は明白である。此の武力干渉は直接支那革命の彈壓であるのみならず、無産階級に同志打を強制し、他方列強間の對立を尖鋭化し帝國主義戰爭を誘發するものであり必然にまたそれは國內無産階級に對する極度の苛斂誅求と專制的政治支配を齎すものだ。故に武力干渉は全世界無産階級運動、特にサヴェエト・ユニオンに對する挑戦であり、ファシズムへの加速度的轉向である。今や我々は日英米佛列強の武力干渉に斷然反抗せねばならぬ。しかも國際的規模に於て、全世界無産階級及被壓迫民族と統一戦線を形成して執拗果敢に武力干渉に反抗せねばならぬ。

三

我が無産階級は支那國民革命の意義を正當に理解し、政府に對して國民政府承認、北京政府否認、對支非干渉を要求し、彼の帝國主義的分割支配に反對し來つた。だがそれは支那問題を眞實に階級的見地より理解せしめ無産階級の意識を國際的見地にまで高めるための政治曝露に止まつてゐた。いまや我が無産階級の意識は斯かる政治曝露によつて、強力なる對支非干渉運動をなし得るまでに發展した。統一同盟、勞農黨、日本農民組合の國民政府承認、對支非干渉要求は眞實に我が無産階級意識が國際的過程にまで成熟した事を物語るものだから、今や我々は出兵反對、對支絶對非干渉のために政府に對して強力に抗争し得るし、又なさねばならぬ。支那の形勢は我々に斯かる闘争を執拗に戦ふ事を切實に要求してゐる。

四

我が無産階級は凡ての被壓迫民衆を動員して對支非干涉同盟を組織し、政府に對して「即時撤兵」「出兵反對」「國民政府承認」「北京政府否認」を要求し日支無産階級の團結に進め！更に全世界の無産階級及被壓迫民族と對支非干涉闘争のために協同せよ！そのために演説會、示威運動其他あらゆる闘争手段を採れ！ 勞農黨、統一同盟、請願協議會は斯かる闘争を組織し指導せよ！

對支非干涉同盟を組織せよ！

即時撤兵を要求せよ！

一九二七・二・二六（土）第七十一號

惡法案を制定せんとする議會の解散を要求せよ

——あらゆる自然發生的要求を請願運動に結び付けよ——

惡法反對關東地方協議會は全國に飛檄して「惡法反對」「議會即時解散」のスローガンを掲げ、來る三月六日を期して全國的惡法反對運動を起さうとしてゐる。

我々はこの運動を全線的政治闘争として遂行せねばならぬ。

二

第五十二議會に提出さるべき、勞働組合法案、小作法案、出版物法案、宗教法案、兵役法案、移民法案、東京都制案等々の諸惡法に對する反對運動は既に二月初旬統一運動同盟に於いて叫ばれ、勞農黨及請願運動協議會に對して協同委員會設置が提唱されたのであつた。

而して統一運動同盟に依つて提唱されたる惡法反對は勞働組合法案、小作法並に小作組合法案、出版物法案に限られて居りそのスローガンもこれ等諸法案の制定に對する反對を個々に羅列したに止まつてゐる。

斯の如き運動は、諸惡法案制定の底を流るる所の專制的意義を眞に認識して居らぬものであり、從つて又惡法案に對する被壓迫大衆の自然發生的憤激を誘發し、これを支配階級の專制的政治に對する全線的闘争にまで發展轉化し得ざるもので、組合主義的政治闘争の限界を一步も進出せざるものである。

勞農黨及請願運動協議會及その他の諸團體に依つて組織されたる惡法反對關東地方協議會はこれに對して、更に兵役法、移民法、宗教法、東京都制等の諸法案反對、議會解散要求等のスローガンを追加する事に依つて、各人民府の不満、反抗を組織し、これを現在最も重大なる政治的意味を持つた議會解散の要求にまで合流せしめんとする意圖を示した。

然しながら「議會解散」の要求は、こゝに於ても尙ほ他のスローガンに追加され、併列せられたるに止まり、惡法案反對の自然發生的要求を眞に「議會解散」へと發展轉化し、集中せしむるに至つて

は居らない。

我々はかゝる折衷主義的悪法反対運動を全線的政治闘争の舞臺にまで進展せしめねばならない。

三

本議會に上提さるべき諸悪法案の専制主義的本質に關しては、本紙が既に幾度か曝露し來つた所である。

即ち、我々がかゝる悪法案に對して斷乎として反對し、飽まで抗争せんとする理由は單にその條文の上に現はれたる反動的項目を修正し或はかゝる諸法案が我々の運動に與へる利害關係を考慮するが爲ではなくして、かゝる法案を制定せんとする支配階級の專制的支配そのものに對して抗争するものであり、従つて現在その闘争は專制的支配の手先となつて諸法案を審議せんとしつゝある現議會に對する解散要求でなければならぬのである。

現議會は、先に三黨首妥協に依つて、彼等が與へられたる最も重要な權限たる豫算案審議權を抛擲して、その存在理由を自ら否定し去つたにも拘はらず、今や急遽反動的諸法案を上提してこれを審議可決し様としてゐるのである。

金融獨裁の下に完全に支配せらるゝ議會の無能を見よ。その專制政治の一附屬物としての本質を見よ。議會に現はれるあらゆる法案あらゆる政策は、何れもその本質を如實に物語つてゐるではないか

四

この故にこそ、現在我々が當面せる政治闘争に於いて、議會解散請願運動が最も重要な意義を有してゐるのである。

我々はあらゆる政治闘争を議會解散の要求と結び付けねばならない。あらゆる自然發生的反抗をば誘發し、發展轉化せしむる事に依つて議會解散の運動にまで合流せしめなければならないのだ。

勞農黨及請願運動協議會は、悪法反対運動を全國的闘争に組織すると共に各スローガンをば議會解散要求に集中し、これをブルジョア專制支配に對する全被壓迫民衆層の抗争にまで指導せよ。

豫算案審議權を抛棄したブルジョア議會を解散せよ。

民衆奴隸化の悪法を制定せんとする議會を解散せよ。

一九二七・三・五(土)第七十二號

議會閉會後における請願運動の新展開

一

第五十二議會は支配階級の安堵の吐息と被壓迫民衆の不滿憤激との中に、本日をも以て閉會される。今議會がいかにか帝國主義的絶對專制の御用機關と化したかは、既に本紙の充分曝露したところだ。即ち、今議會は先づ大衆の要求を蹂躪して極力解散を回避し、次でいはゆる「三黨首申合せ」によつて金融獨裁のための尨大なる豫算案を無審議のまま通過させ最後に「憲本聯盟」によつて一層專制的反動的な次の内閣を用意した。

かくて第五十二議會は終結したがそこで決定された一切の政策はこれからその惡魔的威力を全民衆